

ETOSJX for シフト JIS V7.0

導入ガイド(ETOS 通信 GW 接続形態)

ご注意

- (1) 本書の内容の一部または全部を無断転載することは、禁止されています。
- (2) 本書の内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
- (3) 本書は内容について万全を期して作成いたしましたが、万一御不審な点や誤り、記載漏れなどお気づきのことがありましたらご連絡ください。
- (4) 運用した結果の影響について(3)項にかかわらず責任を負いかねますのでご了承ください。

Microsoft、Windows、Windows Server、Visual C++は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。

MultiWriter は、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

ETOSJX、FontAvenue、PrintBridge、BizReporting、Open COBOL Factory 21、MultiImpact は、日本電気株式会社の登録商標です。

警告

CD-ROM 媒体は、CD-ROM 対応プレーヤー以外では絶対に使用しないでください。大音量によって耳に障害を被ったり、スピーカーを破損するおそれがあります。

© NEC Corporation 1996,2020

日本電気株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

輸出する際の注意事項

本製品(ソフトウェアを含む)は、外国為替および外国貿易管理法の規定により、戦略物資等輸出規制品に該当します。従って、日本国外に持出す際には日本国政府の輸出許可申請等必要な手続きをお取り下さい。

はしがき

本マニュアルは、NEC パーソナルコンピュータ上で動作する ETOSJX for シフト JIS (以降、ETOSJX と称す)の機能について説明しています。

ETOSJX は、NEC 製ホストコンピュータ(ACOS-4、ACOS-2 など)に接続し各種オンライン処理を行う通信ユーティリティ (ETOS : Easy Terminal Online System)の一種です。

本マニュアルは、Microsoft® Windows Server® 2019、Microsoft® Windows Server® 2016、Microsoft® Windows® 10 についての知識を前提にしています。各 OS 製品については、それぞれの説明書を参照してください。

ETOSJX は、「とりあえず使ってみる」タイプのプログラムではありません。必ず仕様をよく理解した上で、正しくインストールしてお使いください。

マニュアルの読み方については、「本製品のマニュアル構成」をご覧ください。

本製品のマニュアル構成

本製品のマニュアルは、導入ガイド、操作ガイド、リファレンスマニュアルから構成されています。目的に応じて、それぞれのマニュアルを以下のようにご利用ください。

導入ガイド

ETOSJX をインストールする

ETOSJX を購入してから業務開始までに必要な作業について順を追って説明しています。
ETOSJX をインストールする前に必ずお読みください。

操作ガイド

ETOSJX を動かす

ETOSJX の基本的な操作方法と各機能の操作方法について説明しています。
ETOSJX を使用する前にお読みください。

リファレンスマニュアル

ETOSJX をもっと詳しく知りたい

ETOSJX の各機能について詳しく説明しています。
使用目的や業務内容に応じて必要な部分をお読みください。

本マニュアルの表記について

本マニュアルでは、本文中の字句の意味を明確にするために、次のような表記方法を使用しています。

表 記	意 味
Windows Server 2019	Microsoft® Windows Server® 2019 Standard を表します。
Windows Server 2016	Microsoft® Windows Server® 2016 Standard を表します。
Windows 10	Microsoft® Windows® 10 Pro バージョン 1903、 Microsoft® Windows® 10 Pro バージョン 1909 を表します。
Windows	Windows Server 2019、Windows Server 2016、Windows 10 の全てを表します。
Visual C++ x.x	Microsoft® Visual C++® Version x.x を表します。
Visual Studio xx	Microsoft® Visual Studio® xx を表します。
スタンドアロン形態	スタンドアロン接続、PC 通信サーバ接続を表します。
ETOS データフォルダ	ETOSJX が初期値でデータ参照するフォルダを表します。 x:ProgramData¥NEC¥ETOSJX(x:システムドライブ)を指します。
<input type="text"/>	キーボード上のキーを表します。 例 <input type="text"/> Ctrl キー、 <input type="text"/> F2 キー
<input type="text"/> + <input type="text"/>	同時に 2 つのキーを押すことを表します。 例 <input type="text"/> Shift + <input type="text"/> F1 キー
<input type="text"/> + <input type="text"/> + <input type="text"/>	同時に 3 つのキーを押すことを表します。 例 <input type="text"/> Shift + <input type="text"/> Ctrl + <input type="text"/> F1 キー
[]	ウィンドウのメニューやメニューコマンド、ダイアログボックス、ボタンなど、画面上に表示される文字を表します。 例 [送信] メニュー [コマンド入力] ダイアログボックス [OK] ボタン
△	スペースを表します。 例 「@OPN△COPY」
英字(大文字・小文字) 入力可能な文字数	ファイル名、パス名、ドライブ名などは、原則として大文字で表記してあります。 実際に入力するときは、大文字と小文字のどちらでもかまいません。 例 C:¥Program Files¥ETOSJX また、コマンドの構文規則やその例で、コマンド名などは、大文字で表記してあります。これも実際に入力するときは、大文字と小文字のどちらでもかまいません。 例 /DSP 入力可能な文字数は、半角文字相当で表記しています。全角文字を入力する場合は、半角文字 2 文字で計算してください。

目次

はしがき.....	ii
本製品のマニュアル構成.....	iii
本マニュアルの表記について.....	iv
目次.....	v
第1章 ETOSJX とは.....	2
1.1 ETOSJX とは.....	2
1.1.1 機能強化内容.....	3
1.1.2 機能概要.....	4
1.1.3 UA パスと COMI-2 パス.....	7
1.1.4 ETOSJX の動作モード.....	9
1.2 システム形態.....	10
1.3 インストールから ETOSJX を使用するまで.....	12
第2章 動作環境.....	14
2.1 サーバ環境.....	14
2.1.1 ハードウェア環境.....	14
2.1.2 ソフトウェア環境.....	15
2.2 クライアント環境.....	16
2.2.1 ハードウェア環境.....	16
2.2.2 ソフトウェア環境.....	17
2.3 SG ファイル.....	18
第3章 インストール.....	21
3.1 インストールする前に.....	21
3.2 ETOSJX の登録.....	22
3.2.1 ETOSJX 通信 GW のインストール.....	22
3.2.2 ETOSJX クライアントのインストール.....	30
3.3 ライセンスの追加と削除.....	34
3.3.1 ライセンスの追加.....	34
3.3.2 ライセンスの削除.....	36
3.4 ETOSJX の削除.....	38
3.4.1 ETOSJX 通信 GW のアンインストール.....	38
3.4.2 ETOSJX クライアントのアンインストール.....	44
第4章 PG パラメータ設定.....	46
4.1 パラメータファイルとは.....	46
4.2 ETOSJX-PG とは.....	46

4.3	パラメータファイルの作成手順	46
4.4	ETOSJX-PG を起動する	47
4.5	基本パラメータを入力する	48
4.6	拡張パラメータを入力する	50
4.6.1	簡易操作機能の指定をする	50
4.6.2	初期動作を指定する	51
4.6.3	キーをカスタマイズする	52
4.6.4	ファンクションスイッチ機能を指定する	60
4.6.5	COMI-2 パス拡張機能を指定する	66
4.6.6	ID カードリーダ機能を指定する	78
4.6.7	回線接続に関するパラメータを指定する	79
4.6.8	プリンタ情報を設定する(COMI-2 パス)	80
4.6.9	プリンタ情報を設定する(UA パス)	93
4.6.10	ハードコピー機能を指定する	94
4.6.11	ETOSJX 起動時の表示情報を指定する	96
4.6.12	ETOSJX 起動時の画面補助機能をカスタマイズする	98
4.6.13	表示フォントを指定する	107
4.6.14	画面表示色を指定する	110
4.6.15	グラフの表示方法を指定する	113
4.6.16	データ連携の区切り文字を指定する	115
4.6.17	入力モードを指定する	116
4.6.18	マクロファイルを指定する	119
4.6.19	ブザー鳴動を指定する	121
4.6.20	ETOS 制御 API 機能を指定する	123
4.6.21	DCS プリンタの起動を指定する	124
4.6.22	クライアントパラメータを指定する	125
4.7	リソースパラメータを入力する	126
4.7.1	ローカル画面を設定する	126
4.7.2	UA パス機能を指定する	127
4.7.3	UA パスファイル受信終了時の自動起動アプリケーションを設定する	128
4.7.4	コード変換テーブルを設定する	129
4.7.5	DCS エラー鳴動を設定する	130
4.8	全パラメータに既定値をセットする	131
4.9	ヘルプを使う	132
4.10	作成したファイルを保存する	135
4.11	作成したファイルを開く	136
4.12	パラメータファイルを印刷する	137
4.13	ファイル作成を終了する	140
第 5 章	UA パスプリンタ設定	143
5.1	PGD ファイルとは	143
5.2	DCS プリンタとは	143

5.3 PGD ファイルの作成手順	143
5.4 DCS プリンタを起動する	144
5.5 PGD ファイルを新規作成する	145
5.6 パラメータを設定する	146
5.6.1 通信情報を設定する	146
5.6.2 プリンタを設定する	147
5.6.3 コード変換テーブルを使用する	164
5.6.4 オフライン印刷ファイルの出力先を指定する	165
5.6.5 エラー発生時の動作を指定する	166
5.6.6 クライアントパラメータの設定	167
5.7 ヘルプを使う	168
5.8 作成したファイルを保存する	170
5.9 作成したファイルを開く	171
5.10 PGD ファイルを印刷する	172
5.11 ファイル作成を終了する	173
第 6 章 LU 定義ファイルの作成	175
6.1 LU 定義ファイルとは	175
6.2 LU 定義ツールを起動する	175
6.3 LU 定義ファイルを新規作成する	176
6.4 LU 定義ファイルを更新する	178
6.5 LU 定義リストを印刷する	183
6.6 エラーメッセージ	185
第 7 章 GW サービスの設定	188
7.1 GW ビューアを起動する	188
7.2 GW サービスの設定を行う	189
7.2.1 アクセス制限を設定する	189
7.2.2 アクセス制限の登録方法を設定する	194
7.2.3 GW サービスの起動方法を設定する	194
第 8 章 パラメータファイルを変換する	196
8.1 PG コンバータとは	196
8.2 パラメータファイルの変換手順	196
8.3 PG コンバータを起動する	197
8.4 パラメータファイルを変換する	198
8.5 バージョン情報を表示する	200
8.6 PG コンバータを終了する	201
第 9 章 ETOSJX のシステム設定	203
9.1 メンテナンスツール	203
9.1.1 メンテナンスツールを起動する	203
9.1.2 ETOSJX のログ採取設定を変更する	204

9.1.3	サーバ情報を変更する.....	205
9.1.4	PGリストの表示内容を変更する.....	206
9.1.5	接続先サーバ情報を削除する.....	208
9.1.6	設定を保存して終了する.....	210
9.2	ETOSJX 専用プリンタ登録.....	211
9.2.1	ETOSJX 専用プリンタ登録を起動する.....	211
9.2.2	専用プリンタを登録する.....	212
9.2.3	専用プリンタを登録せずに終了する.....	215
9.2.4	出力先を変更する.....	216
9.3	9ポイント文字の印刷設定.....	217
9.4	PrintBridge を経由して印刷する.....	218
9.5	BizReporting を経由して印刷する.....	219
第 10 章	トラブルシューティング.....	222
付録	224
付録 A	注意事項.....	225
付録 B	障害発生時のお願い.....	233
付録 C	コード変換テーブル.....	238
付録 D	N5200 系コード対応プリンタ.....	241

第 1 章

ETOSJX とは

- 1.1 ETOSJX とは
- 1.2 システム形態
- 1.3 インストールから ETOSJX を使用するまで

導入ガイドでは、ETOSJX のインストール方法と端末システムの使用形態の設定方法について説明します。

まず、第1章で ETOSJX の機能を確認してから、第2章、第3章で使用する端末に合ったインストール方法を確認してください。

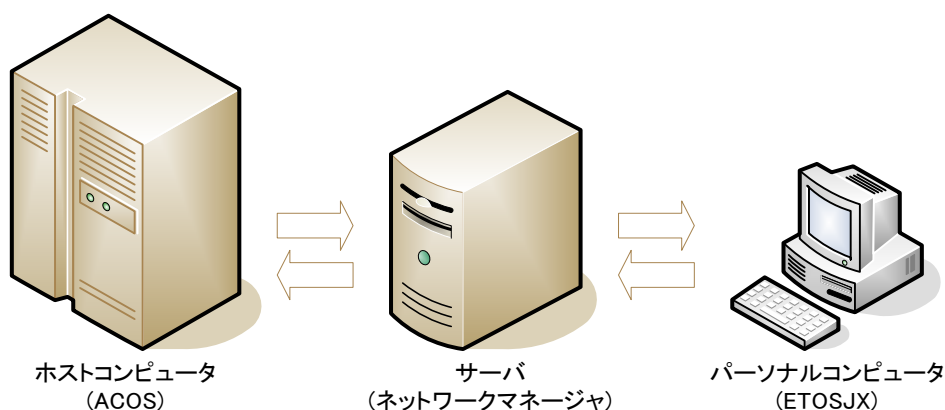
インストールが終了した後は、第4章、第5章、第6章に従い、端末システムの使用形態を設定してください。

第1章 ETOSJXとは

この章では、ETOSJX をインストールする前に知っておく必要のある ETOSJX の機能について説明します。

1.1 ETOSJXとは

ETOSJX は、各種の通信回線を使用してパーソナルコンピュータとホストコンピュータを接続し、オンラインデータエントリ、問い合わせおよび一括データ送受信を行ったり、ホストシステムの提供する種々の通信処理システム(リモートバッチ、タイムシェアリング、あるいはトランザクション処理)を利用したりするための通信ユーティリティです。



1.1.1 機能強化内容

本製品では以下の機能強化を行っています。

- (1) 運用形態として、スタンドアロン形態と ETOS 通信 GW 接続形態(GW はゲートウェイと読む)をサポート
以下のいずれかの運用形態をインストール時に選択できます。
 - (a) スタンドアロン形態
従来の ETOSJX for シフト JIS と同じ運用形態です。
 - (b) ETOS 通信 GW 接続形態
従来の ETOSWEB SERVER に相当する運用形態です。
ETOS 通信 GW サーバを経由してホストに接続します。

- (2) Windows Server 2019 Standard に対応
スタンドアロン形態、ETOS 通信 GW 接続形態のサーバ OS として Windows Server 2019 に対応しました。
ただし、以下の動作は保証していません。
 - ・ Windows Server 2019 Server Core、Nano Server および Terminal Server 環境での動作
 - ・ 仮想化環境やリモートデスクトップ接続での動作
 - ・ ETOS 通信 GW 接続形態でのクライアント OS としての Windows Server 2019 上での動作

- (3) FontAvenue UniAssist G2000 互換コネクタでの G1 文字入力をサポート
FontAvenue UniAssist G2000 互換コネクタがインストールされている場合、G2000 互換コネクタを使用して G1 文字の入力が可能です。

1.1.2 機能概要

ETOSJXには、次の機能があります。

■ 対話通信機能

ホストで作成した画面フォーマットを使用して、対話形式で通信を行うことができます。

■ 画面フォーマット生成機能

ホストからの指示により、画面上の任意の場所に文字を表示したり、キーボードから入力する項目(フィールド)を生成したりすることができます。

なお、表示可能な文字コードは、JIS90の範囲のものとなります。

■ ファイル転送機能

(1) UAパスファイル転送

バッチ処理で作成したデータを、フロッピーディスクやハードディスクから直接入力してホストへ一括送信したり、逆にホストから一括受信したデータをフロッピーディスクやハードディスクに直接出力したりすることができます。

なお、PC通信サーバ接続機能のクライアント、または、WS番号0以外でホストと接続している場合、UAパスを使ったファイル転送は実行できません。

(2) COMI-2パスファイル転送

次に示すようなファイル転送機能をもっています。

- ・ホスト指示によって受信ファイルをアロケーションすることができます。
- ・ホスト指定によって受信データの書き込み位置を指定することができます。
- ・ホスト指示によって送信データの読み出し位置を指定することができます。
- ・読み出し、書き込み状態のチェックを行うことができます。
- ・可変長レコードファイルの転送ができます。
- ・バイナリイメージファイルの転送ができます。

■ プリンタ出力機能

(1) 2つのデータルート(UAパス、COMI-2パス)を使ってデータをプリンタに出力することができます。

(a) UAパスプリンタ出力

ホストから一括受信したデータをプリンタに直接出力できます。

(b) COMI-2パスプリンタ出力

COMI-2手順の論理チャンネルの1つを通して、プリンタに出力できます。

(2) フォームオーバーレイ機能を使ってプリンタ出力することができます(UAパス使用時のみ)。

■ オフライン印刷機能

UAパスプリンタ出力による印刷データを一旦ファイルに保存し、オフライン印刷ユーティリティにより表示・印刷・ファイル変換を行うことができます。

■ローカル画面ファイル機能

ホストが作成した画面フォーマットを、クライアントのフロッピーディスクやハードディスクのローカル画面ファイルに登録しておき、必要ときに目的の画面フォーマットを呼び出して表示することができます。また、拡張ローカル画面機能の使用が可能です。

なお、PC 通信サーバ接続機能のクライアント、または、WS 番号 0 以外でホストと接続している場合、ローカル画面の書き込みは行えません。

■簡易操作機能

キーボードから入力するデータをあらかじめコマンドファイルに登録しておく、ホストとの対話時に PF キーを使って一連の操作を実行することができます。

■マクロ機能

オペレータ操作をマクロファイルとして記録し、定型操作として実行することができます。

■データ連携機能

ETOSJX の画面上に表示されているテキスト文字、グラフなどを他のアプリケーションプログラムの画面にコピーしたり、他のアプリケーションプログラムの画面上に表示されているテキスト文字を ETOSJX の画面に取り込んだりすることができます。

■グラフ表示機能

ホストからの指示に従い、グラフを表示したり、画面に表示したグラフのハードコピーをプリンタに出力したりすることができます。

■分散処理機能

アプリケーションプログラムは、ETOSJX の通信機能を利用してホストのアプリケーションプログラムと通信を行うことができます。アプリケーションプログラムは、C 言語および COBOL 言語で作成可能です。

■ETOS 制御 API

ETOSJX の画面情報を取得／操作するための API を提供します。

アプリケーションプログラムは、提供された API を使用して、ETOSJX を制御することができます。

アプリケーションプログラムは、C 言語で作成可能です。

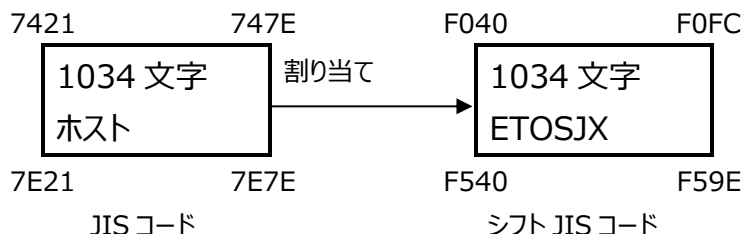
■表示色／ファンクションキーのカスタマイズ機能

テキスト／グラフ表示色を設定したり、ファンクションキーの機能を変更したりすることができます。

■ユーザ外字の登録

ホストの外字 1034 文字を Windows の外字 1034 文字に割り当てることができます。また、後述のコードマッピング機能を使用すれば、Windows の外字領域 1880 文字のうち任意の 1034 文字に割り当てることも可能です。

ユーザ外字の使用については、リファレンスマニュアル「[付録 ユーザ外字領域](#)」を参照してください。



■コードマッピング機能

ホスト側の日本語コード(JIPS)と端末側の日本語コード(シフト JIS)との変換規則をコード変換テーブルで提供し、ユーザに適したカスタマイズが可能です。

本機能を使用すると、JIS90 環境下でもコードの入れ替えにより、ホスト側 JIS78 コード用資産を利用することが可能となります(ただし、JIS90 で字形変更された一部の漢字については、JIS90 の字形に従います)。

コード変換テーブルは、コード変換テーブル作成ツール(ETOSJX ユーティリティ)を使用して作成することができます。

コード変換テーブルについては、本マニュアルの「[付録 C コード変換テーブル](#)」を参照してください。

■マルチ LU(Logical Unit)

同一端末上で同一ホストに対して 10 個の画面 LU と 10 個のプリンタ LU(UA パス)が使用可能です。

■マルチホスト接続

同一端末上から複数のホストに接続することが可能です。

最大接続台数は、ネットワークマネージャの制限に依存します。

1.1.3 UA パスと COMI-2 パス

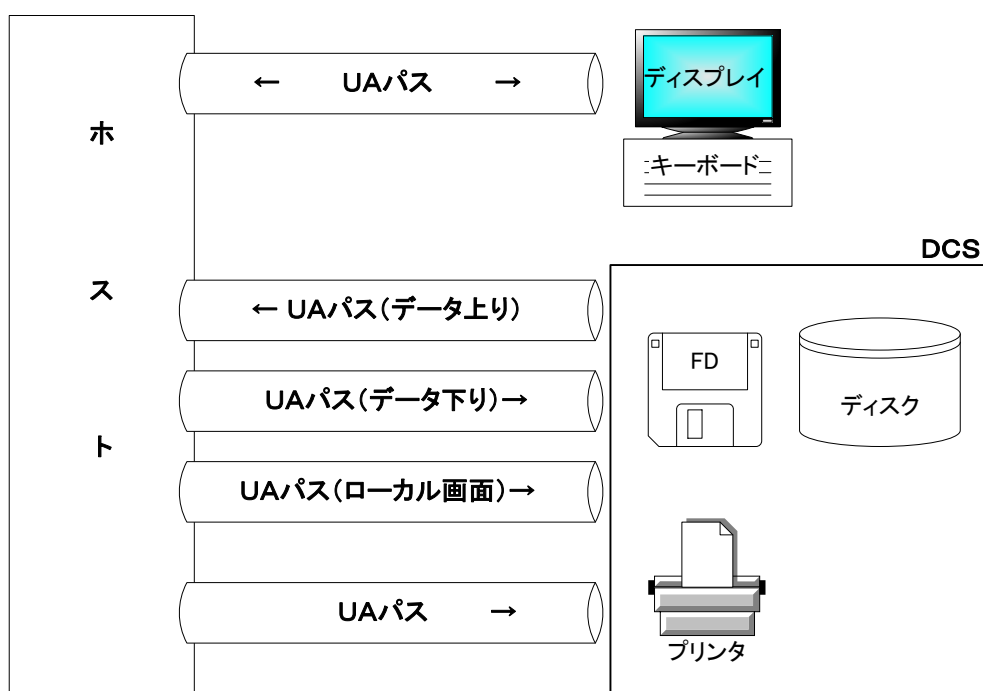
ETOSJX は、ホストと端末間のデータのやりとりを2つのデータルート

- ・UA パス
- ・COMI-2 パス

を使って行っています。

(1) UA パス

ホストと端末の各入力装置が UA(Unit Address)によって直接接続され、ホストがそれらの入出力装置を直接制御するデータルートです。



補足 DCS(Device Control Server)とは、ETOSJX と別プログラムで UA パスを使ってファイルの送受信、プリンタ出力とローカル画面の受信を行います。ETOSJX のバックグラウンドで動き、ETOSJX との並行動作が可能です。

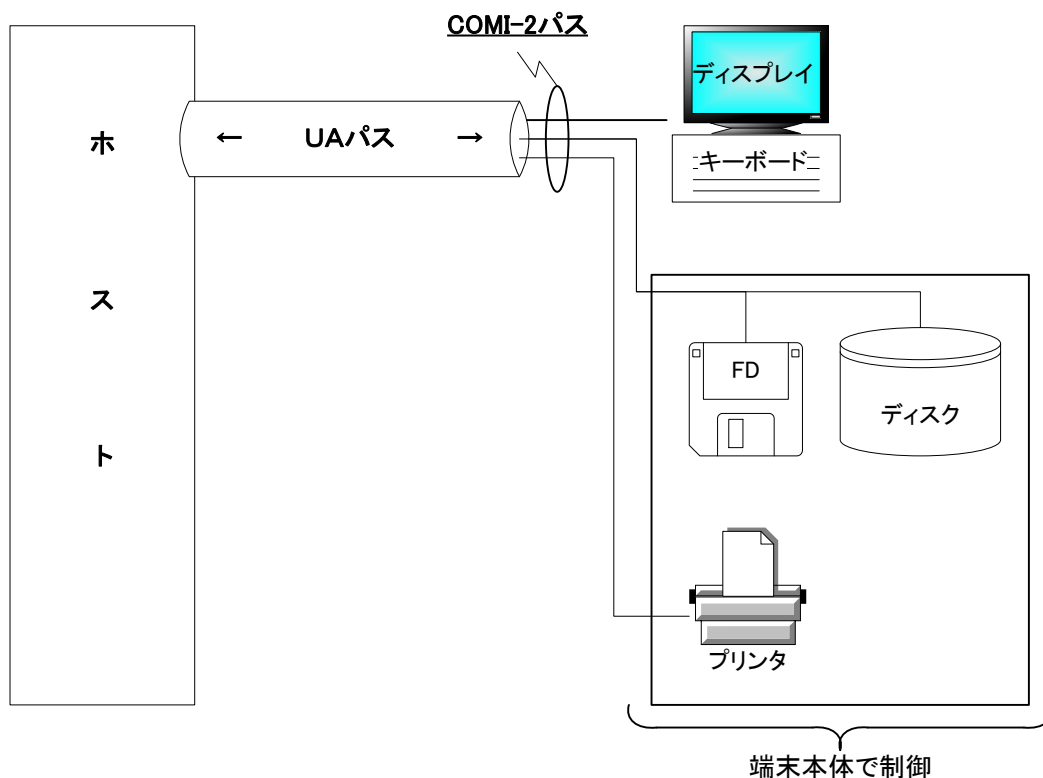
(2) COMI-2 パス

ホストと端末が接続され、端末の各入出力装置が、端末により制御されるデータルートです。

端末は、ホストから受信する COMI-2 コマンドに従い、データの受信を行います。

このとき、端末は、入力送信ならば実際の入出力装置(ハードディスク、フロッピーディスク、キーボード)からデータを読み取り、それをホストから指示されたデータに編集して送信します。

また、受信出力ならば、ホストから指示されたデータを出力装置に出力します。



1.1.4 ETOSJXの動作モード

ETOSJXには3種類の動作モード

- ・FORMモード
- ・COMI-2(FORM)モード
- ・COMI-2(KB/PR)モード

があり、ホストからの指示によって変更されます。

なお、ETOSJXを起動したときの初期動作モードは、動作環境を設定するETOSJX-PGによって決定されます。

各動作モードの詳細については、リファレンスマニュアル「**ETOSJXの基本機能**」を参照してください。

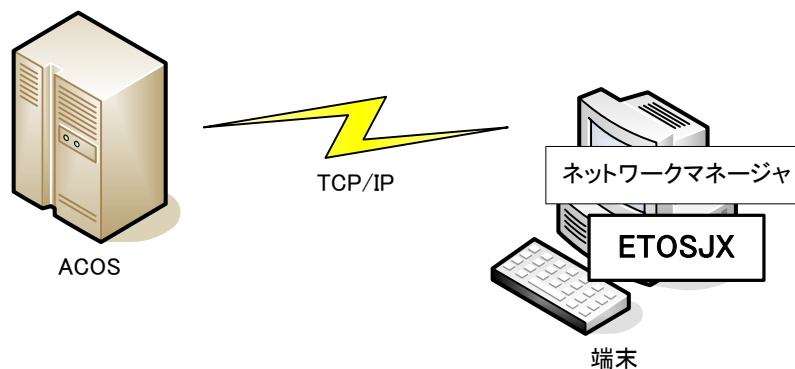
1.2 システム形態

ETOSJX は、次のシステム形態で動作します。

以降、本マニュアルでは、ETOS 通信 GW 接続形態について説明します。

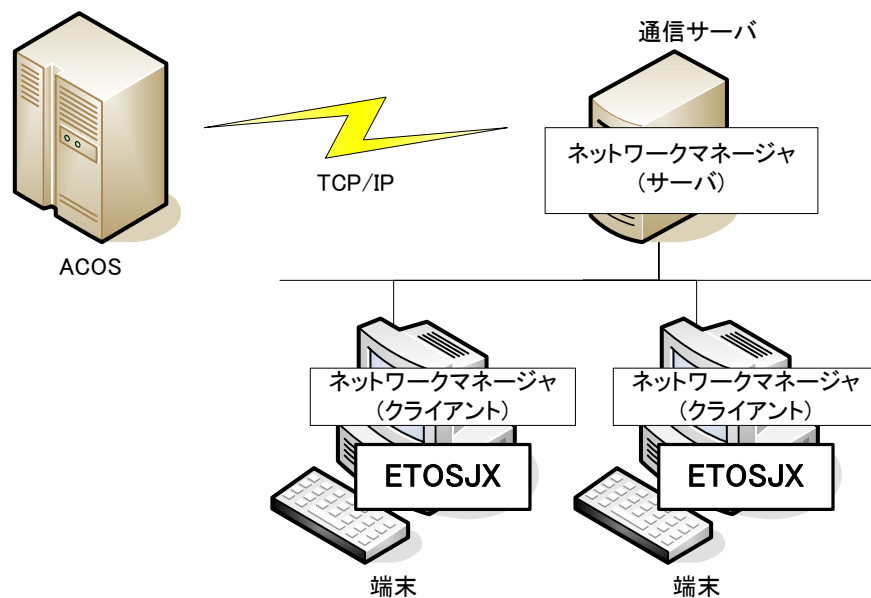
(1) スタンドアロン接続

スタンドアロンで動作する端末とホストを回線で接続する形態です。



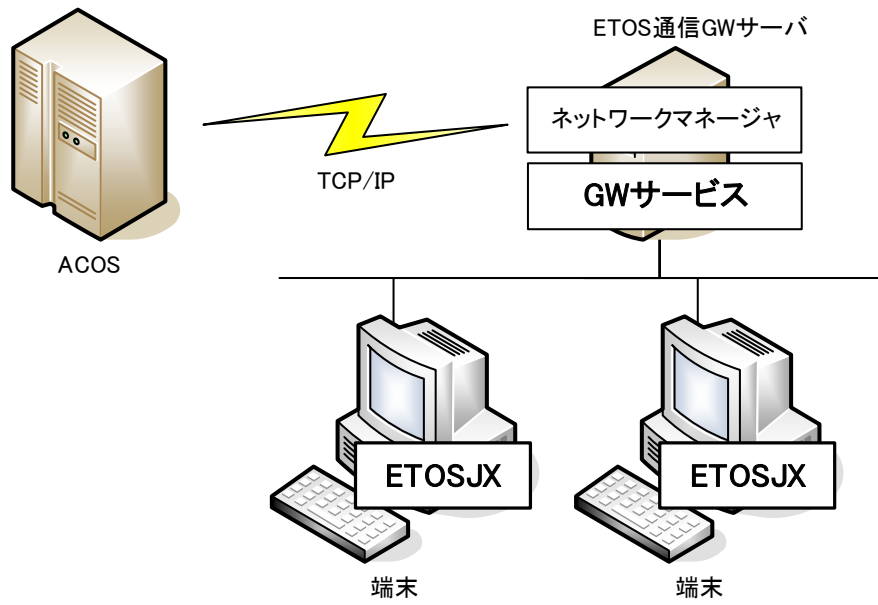
(2) PC 通信サーバ接続(サーバ・クライアント形態)

ネットワークマネージャの PC 通信サーバ接続形態において、通信クライアントとして動作する端末とホストとを接続する形態です。



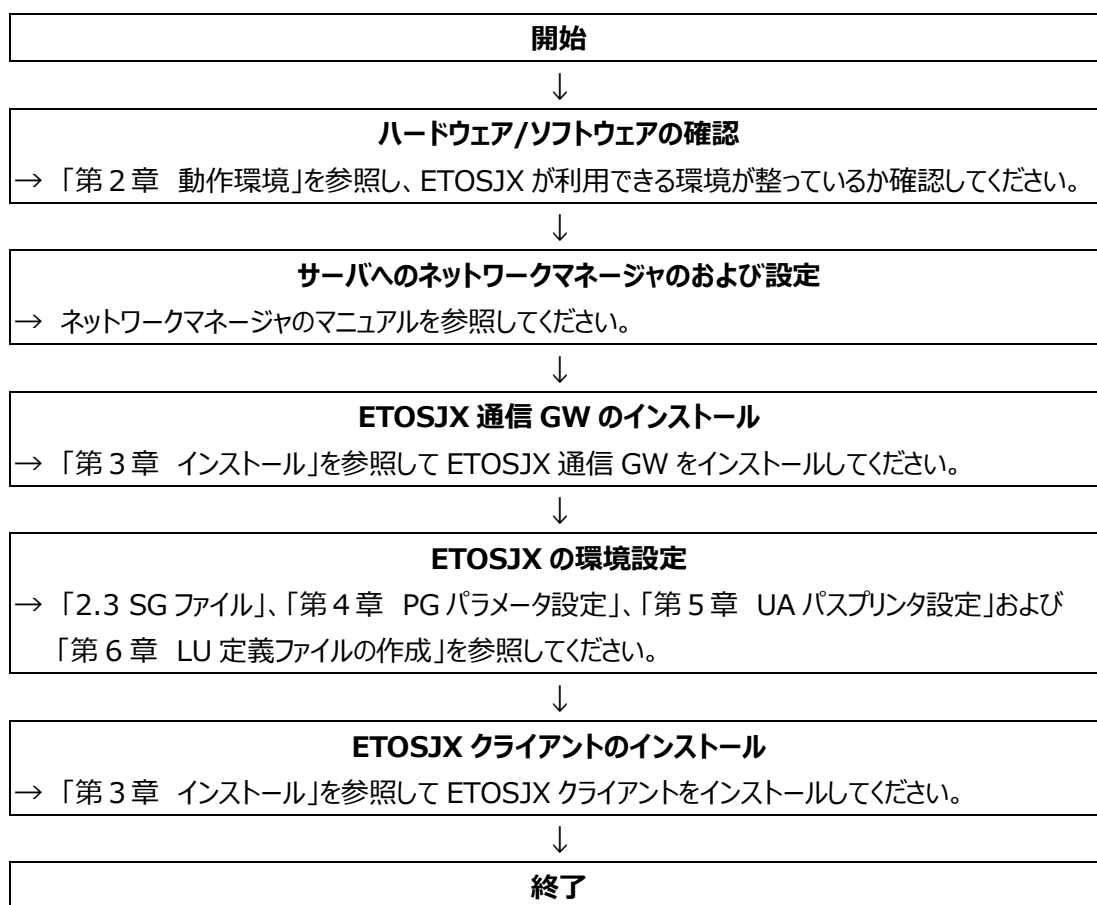
(3) ETOS 通信 GW 接続

ETOS 通信 GW サーバを介して、端末とホストとを接続する形態です。



1.3 インストールから ETOSJX を使用するまで

次に示すインストールの流れにしたがって、インストールを行ってください。



第 2 章

動作環境

- 2.1 サーバ環境
- 2.2 クライアント環境
- 2.3 SG ファイル

第 2 章 動作環境

この章では、ETOSJX を動作させるために必要なハードウェア環境とソフトウェア環境および ETOSJX の SG ファイルについて説明します。

2.1 サーバ環境

2.1.1 ハードウェア環境

(1) コンピュータ本体

Windows Server 2016、Windows Server 2019 が動作する Express 5800/100 シリーズまたは Express 5800/ft サーバシリーズが必要です。

(2) メモリ

12MB 以上必要です。

(3) ハードディスクドライブ

空き容量 12MB 以上必要です。

(4) CD-ROM ドライブ

インストール時に 1 ユニット必要です。

(5) ディスプレイ

カラー表示可能なもの(1024×768 ピクセル以上を推奨)が必要です。

(6) キーボード

109 キーボード(106 キーボード)、または 98 キーボードが必要です。

(7) プリンタ

ホストからのデータを印字する場合に必要です。

PC-PR201 互換のプリンタ、PC-PTOS 対応プリンタが使用できます。

(8) マウス

操作性をよくするためにご使用ください。

(9) 通信機器

ネットワークマネージャでサポートされている通信機器が使用可能です。

詳細については、ネットワークマネージャのユーザーズマニュアルをご覧ください。

2.1.2 ソフトウェア環境

(1) OS

Windows Server 2016 Standard または Windows Server 2019 Standard が必要です。

ただし、Server Core、Nano Server および Terminal Service 環境での動作は保証しておりません。

また、仮想環境およびリモートデスクトップ上での動作も保証しておりません。

お客様責任でご利用いただくことは可能ですが、障害等が発生しても、標準の動作環境(物理環境等)で同様の事象が発生しない場合は、問い合わせ対応等のサポートは行いませんので、あらかじめご了承ください。

なお、標準の動作環境における事象の再現確認については、お客様(または弊社担当 SE)で実施していただく必要がありますので、ご注意ください。

(2) ランタイム

Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012 が必要です。

(3) 通信ソフト

ネットワークマネージャ(16 ユーザ)が必要です。

2.2 クライアント環境

2.2.1 ハードウェア環境

(1) コンピュータ本体

Windows 10 が動作する NEC 製ビジネス PC または Express 5800/50 シリーズが必要です。
ただし、タブレット PC 上での動作は保証しておりません。

(2) メモリ

12MB 以上必要です。

(3) ハードディスクドライブ

空き容量 10MB 以上必要です。

(4) ディスプレイ

カラー表示可能なもの(1024×768 ピクセル以上を推奨)が必要です。

(5) キーボード

109 キーボード(106 キーボード)、または 98 キーボードが必要です。

(6) プリンタ

画面のハードコピーまたは、ホストからのデータを印字する場合に必要です。
PC-PR201 互換のプリンタ、PC-PTOS 対応プリンタが使用できます。

(7) マウス

操作性をよくするためにご使用ください。
ETOSJX のデータ連携機能を利用するときは、マウスの使用が必須となります。

(8) ID カードリーダー

ホスト側のアプリケーションプログラムで、ID カードリーダーを使用する場合に必要です。
次に示す ID カードリーダーが使用可能です。

・PC-9801-95

・MCT-1800

また、使用する前にデバイスマネージャの通信ポート(COM1)の設定を ID カードリーダー機器の設定に合わせてください。

(注 1) 使用する端末が PC98-NX シリーズの場合、「変換コネクタ」が必要です。

(注 2) Express5800 上で ID カードリーダーは使用できません。

(9) サウンド機能

WAVE ファイルでブザーを鳴らす場合(ブザー永久鳴動を含む)は、サウンド機能が必要となります。
なお、スピーカを内蔵していない機種の場合、外付けスピーカが必要です。

2.2.2 ソフトウェア環境

(1) OS

Windows 10 Pro が必要です。

ただし、タブレットモードでの動作は保証しておりません。

また、仮想環境、Terminal Services クライアント環境およびリモートデスクトップ上での動作も保証しておりません。

お客様責任でご利用いただくことは可能ですが、障害等が発生しても、標準の動作環境(物理環境等)で同様の事象が発生しない場合は、問い合わせ対応等のサポートは行いませんので、あらかじめご了承ください。

なお、標準の動作環境における事象の再現確認については、お客様(または弊社担当 SE)で実施していただく必要がありますので、ご注意ください。

(2) ランタイム

Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012 が必要です。

(3) フォント

JIS78 フォントを使用する場合、『FontAvenue JIS78/90 文字セット(Ver3.3)』以降が必要です。

2.3 SG ファイル

ETOSJX を使用するには、ETOSJX の動作を設定する SG ファイルを作成する必要があります。

ETOSJX の SG ファイルには、ETOSJX の動作を定義する PG ファイルと DCS プリンタの動作を定義する PGD ファイルがあります。

PG ファイルは ETOSJX-PG、PGD ファイルは DCS プリンタで作成します。

また、使用するネットワークマネージャの通信リソース(注 1)ごとに ETS ファイルと ELU ファイルがあります。

ETS ファイルは、ETOSJX が通信リソース単位に使用する情報を記録します。

同一通信リソース名で複数の PG ファイルを作成(同一ホストに対して複数の PG ファイルを設定)する場合には注意が必要です。

ELU ファイルは ETOSJX および DCS プリンタが使用する LU 情報を定義します。

ELU ファイルは LU 定義ツールで作成します。

ETOSJX で使用する SG ファイルをまとめると以下の通りとなります。

	ファイル名	ファイルの概要	作成ツール
PG ファイル	*.PG (注 2)	ETOSJX の動作を定義するファイル	ETOSJX-PG
PGD ファイル	(通信リソース名).PGD (注 3)	DCS プリンタの動作を定義するファイル	DCS プリンタ
ETS ファイル	(通信リソース名).ETS (注 3)	ETOSJX が通信リソース単位に使用する情報を定義するファイル (注 4) ローカル画面のファイル名やコード変換テーブルのファイル名等を記録しています。	ETOSJX-PG
ELU ファイル	(通信リソース名).ELU (注 3)	ETOSJX が使用する画面 LU と DCS プリンタが使用するプリンタ LU を定義するファイル (注 4)(注 5)	LU 定義ツール

(注 1) 通信リソースの詳細については、ネットワークマネージャのマニュアルを参照してください。

(注 2) PG ファイルは ETOSJX-PG で保存時に任意のファイル名を作成できます(拡張子を変更できません)。

(注 3) ファイル名は、各作成ツールで定義したネットワークマネージャの通信リソース名となります。ファイル名の変更はできません。誤ってファイル名を変更した場合、ETOSJX の動作が不正になりますので注意してください。

(注 4) ネットワークマネージャの通信リソース名毎に作成されるため、複数の PG ファイルで同一の通信リソース名を使用する場合、SG ファイルは共有されます。

(注 5) 画面 LU は、ETOSJX-PG の基本パラメータ [ユニットアドレス] で「LU 定義ファイル」を指定した場合に有効となります。プリンタ LU は、常に LU 定義ファイルの定義が有効となります。

次に SG ファイルの格納ディレクトリについて説明します。

ETOS 通信 GW 接続形態の場合、SG ファイルは必ず ETOS データフォルダに保存してください。

ETOSJX や DCS プリントは、起動時に PG ファイルや PGD ファイルを指定し、これらの SG ファイルを読み込んで動作を開始します。

この時、PG ファイルや PGD ファイルに定義されている通信リソース名から動作に必要となる ETS ファイルと ELU ファイルを読み込みますが、ETS ファイルと ELU ファイルは、PG ファイルや PGD ファイルと同一ディレクトリに存在する必要があります。

なお、ETOSJX-PG や DCS プリント、LU 定義ツールで SG ファイルを作成している限り、PG ファイル、PGD ファイル、ETS ファイルおよび ELU ファイルは ETOS データフォルダに保存されます。

第 3 章

インストール

- 3.1 インストールする前に
- 3.2 ETOSJX の登録
- 3.3 ライセンスの追加と削除
- 3.4 ETOSJX の削除

第3章 インストール

この章では、ETOSJX のインストール方法について説明します。

なお、ETOSJX のインストールにあたり、以下の内容に注意してください。

- ①ETOSJX および ETOSJX 関連モジュールの動作中にはインストールできません。
- ②ETOSJX のインストール終了後は、OS を再起動してください。
- ③インストールは Windows 10、Windows Server 2016、または Windows Server 2019 をインストール済みの端末に対して行ってください。
- ④旧製品(ETOSJX Ver5.3 または ETOSWEB SERVER V6.3)がインストールされている場合、旧製品をアンインストールしてから本製品をインストールしてください。

ETOSJX のモジュールが何らかの原因で不正になった場合は、ETOSJX の再インストールが必要となります。

3.1 インストールする前に

- (1) ETOSJX の実行には、以下のランタイムコンポーネントが必要です。

「Visual C++ Redistributable for Visual Studio 2012」(x86)

サーバおよびクライアントで、CD-ROM 媒体添付のパッケージ(¥vcredist_x86¥vcredist_x86.exe)を起動してインストールしてください。

- (2) ETOSJX が提供する ETOSJX クライアントのインストール用 Web ページを使用する場合は、サーバに ETOSJX をインストールする前に IIS(インターネット インフォメーション サービス)を追加してください。

なお、IIS.NET はサポートしておりません。

※ETOSJX クライアントのインストール用 Web ページを使用しない場合は、サーバにインストールされる ETOSJX クライアントのインストーラ(ETOSCLSETUP.EXE)を、任意の手段で共有してクライアントに展開してください。

3.2 ETOSJX の登録

3.2.1 ETOSJX 通信 GW のインストール

(1) インストーラを起動します。

『ETOSJX for シフト JIS V7.0 CD-ROM』をサーバの CD-ROM ドライブに挿入し、エクスプローラから SETUP.EXE を実行してください。

セットアップの初期画面が表示されたら、[次へ] ボタンを押してください。

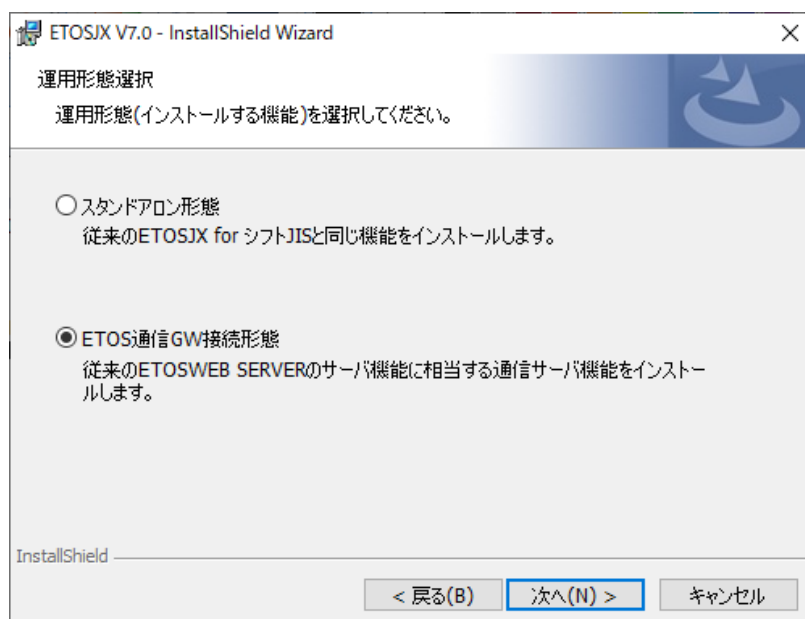


(注意)

インストールの際、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

(2) 運用形態を選択します。

「ETOS 通信 GW 接続形態」を選択し、[次へ] ボタンを押してください。



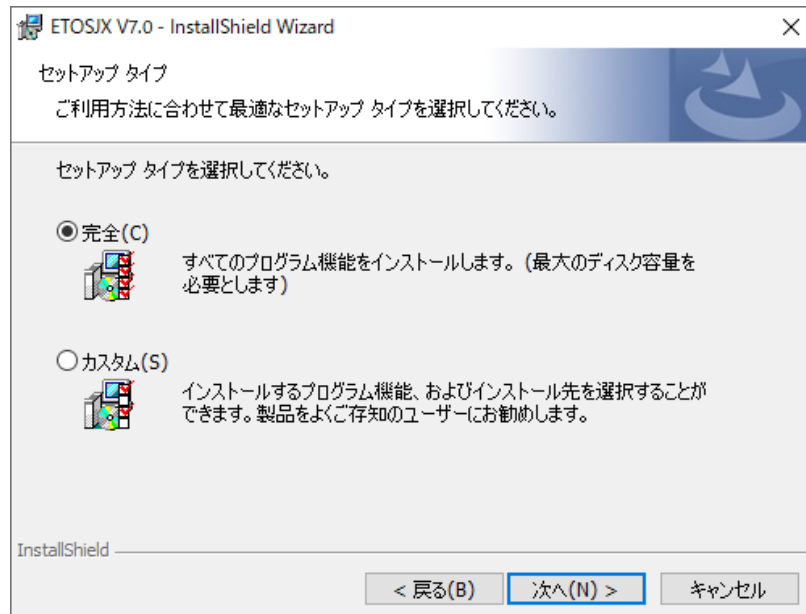
(3) セットアップタイプを選択します。

ETOSJX 通信 GW の全機能をインストールする場合、「完全」を選択します。

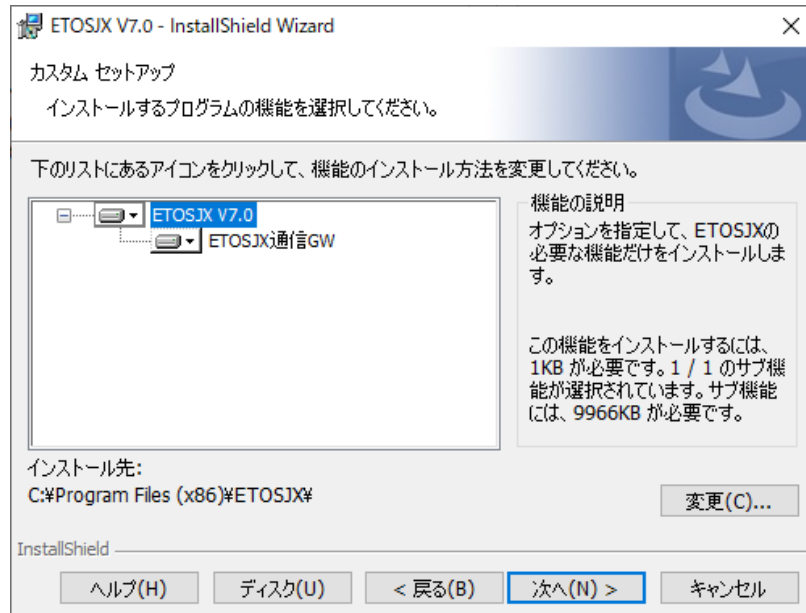
インストール先のフォルダを選択する場合、「カスタム」を選択します。

「完全」を選択し、[次へ] ボタンを押すと、ETOSJX GW サーバの設定画面が表示されます。

「カスタム」を選択し、[次へ] ボタンを押すと、カスタムセットアップ画面が表示されます。



- (4) セットアップタイプに「カスタム」を選択した場合、インストール先のフォルダを指定します。
インストール先フォルダを変更する場合、[変更] ボタンを押して、インストールするフォルダを選択してください。
設定完了後、[次へ] ボタンを押してください。



(5) ETOSJX GW サーバの設定を行います。

- ①サーバの IP アドレスやポート番号を変更する場合は、新しい値を入力してください。
- ②サーバとクライアント間のポーリングを行う場合は、[指定する] をチェックし、ポーリング間隔に 1～1440 の値を、1 分間隔で入力してください。
ポーリングを行わない場合は、チェックをはずします。
- ③クライアントライセンスの管理を端末の IP アドレスで管理するか、コンピュータ名で管理するかを選択してください。
- ④接続を許可するクライアントを自動登録する場合は、[ライセンス自動登録] をチェックしてください。
手動登録する場合は、チェックをはずします。

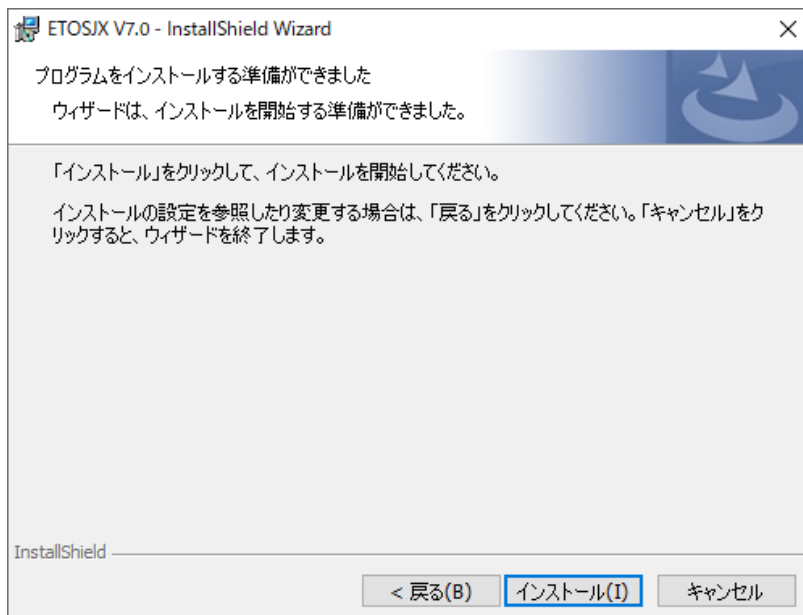
設定完了後、[次へ] ボタンを押してください。

The screenshot shows a Windows-style dialog box titled "ETOSJX V7.0 - InstallShield Wizard". The main title bar also includes a close button (X). The dialog content is as follows:

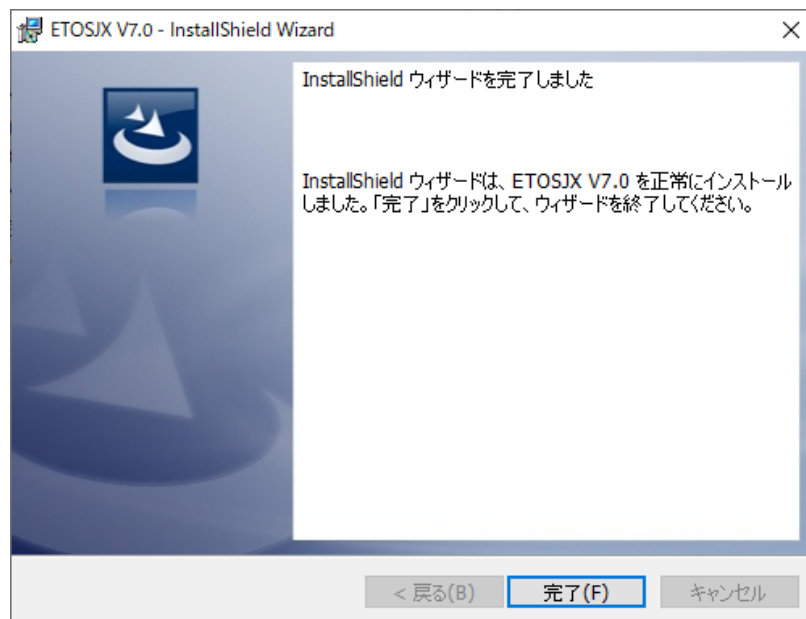
- ETOSJX GWサーバの設定**
IP アドレス、ポート番号、ポーリング指定、ライセンス管理方式を設定してください。
- サーバ IP アドレス: . . .
- ポート番号: (1024 ~ 65535)
- ポーリング指定:
 - 指定する
 - ポーリング間隔: 分 (1 ~ 1440)
- ライセンス管理方式:
 - IP管理方式
 - コンピュータ名管理方式
- ライセンス自動登録

At the bottom, there are three buttons: "< 戻る(B)", "次へ(N) >" (highlighted with a blue border), and "キャンセル". The "InstallShield" logo is visible in the bottom left corner.

(6) 「インストール」 ボタンを押すと、インストールが始まります。

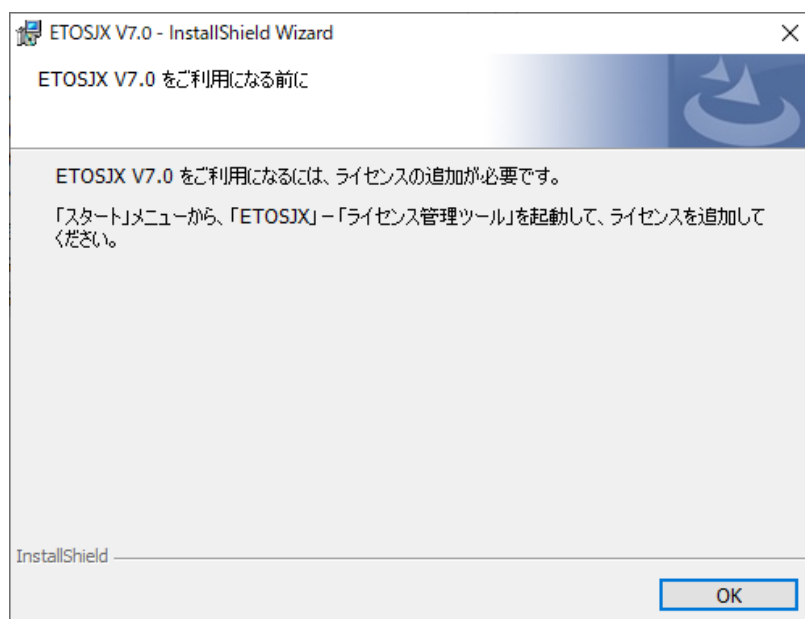


- (7) セットアップの完了画面が表示されます。
[完了] ボタンを押してください。



(8) 以下の画面が表示されます。

[OK] ボタンを押してセットアップを終了します。



3.2.2 ETOSJX クライアントのインストール

(1) インストーラを起動します。

インストーラは以下の方法で起動できます。

① ETOSJX クライアントのインストール用 Web ページを使用する場合

ウェブブラウザで「[http://\(サーバの IP アドレス\)/ETOSJX/ETSINDEX.HTM](http://(サーバのIPアドレス)/ETOSJX/ETSINDEX.HTM)」を開いて、「インストールの実行」のリンクをクリックしてください。



② インストール用 Web ページを使用しない場合

任意の手段で共有された ETOSCLSETUP.EXE を実行してください。

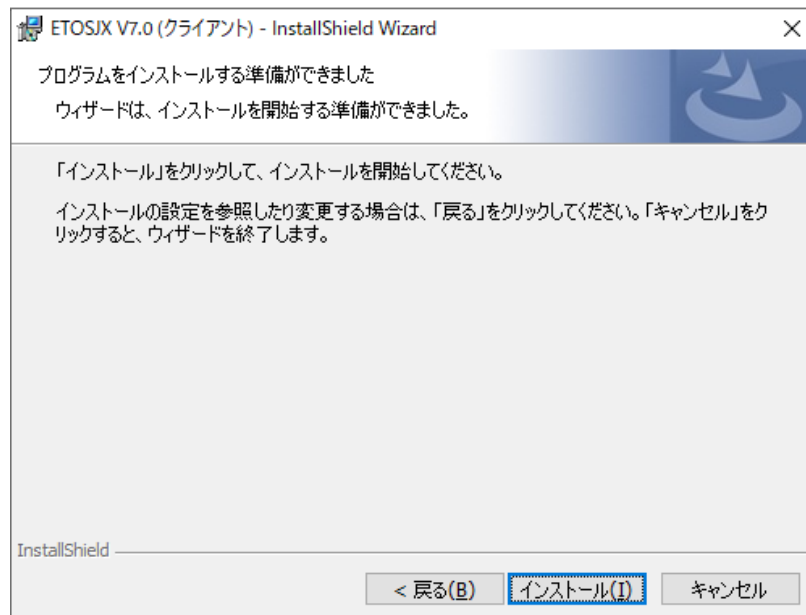
セットアップの初期画面が表示されたら、[次へ] ボタンを押してください。



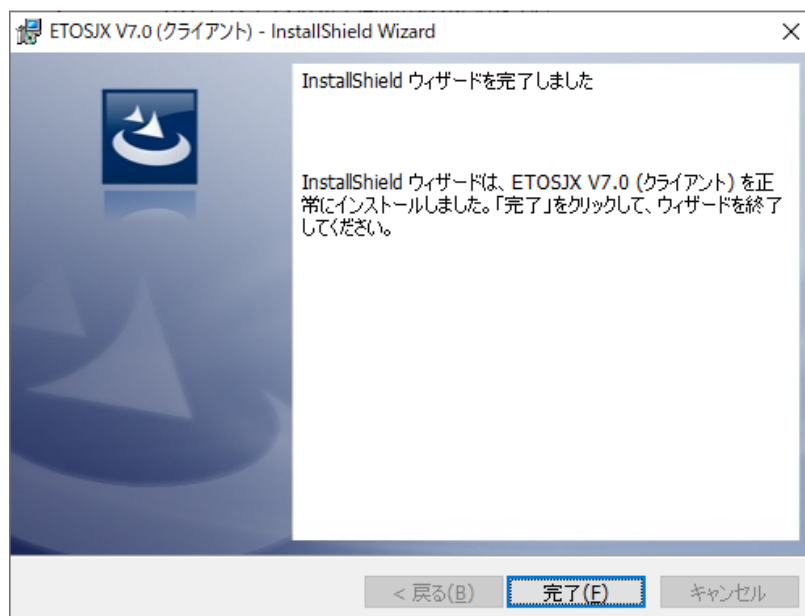
(注意)

インストールの際、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

(2) 「インストール」 ボタンを押すと、インストールが始まります。



- (3) セットアップの完了画面が表示されます。
[完了] ボタンを押してセットアップを終了します。



3.3 ライセンスの追加と削除

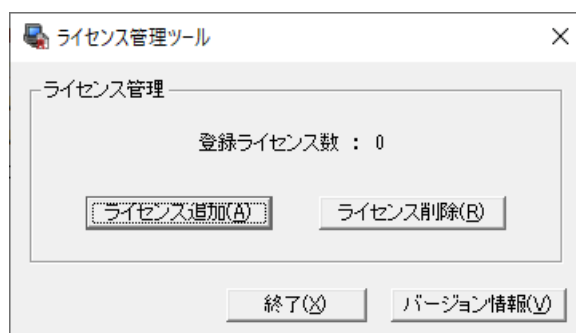
ETOSJX のライセンスの追加と削除について説明します。

3.3.1 ライセンスの追加

ETOSJX をインストールした時点では、ライセンスは登録されていません。ETOSJX を使用するには、ライセンスを追加する必要があります。

ライセンスの追加は、以下の手順で行ってください。製品に添付されている 1 ユーザライセンスの追加を例として説明します。

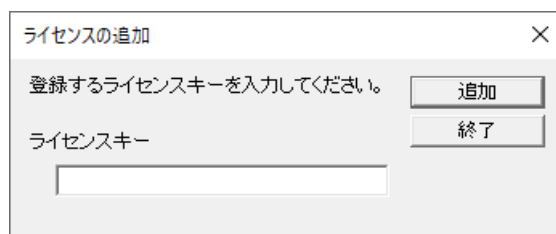
(1) Windows のメニューからライセンス管理ツールを選択し、ライセンス管理ツールを起動します。



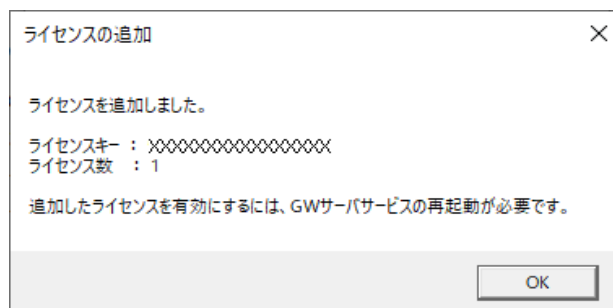
(2) [ライセンス追加(A)] ボタンを押します。

(3) 「ライセンスの追加」画面が表示されます。

登録するライセンスキーを入力して [追加] を押してください。



(4) ライセンス追加完了画面が表示されます。[OK] ボタンを押してください。



(5) 再度、「ライセンスの追加」画面が表示されます。続けてライセンスを登録する場合は、(3)～(4)の操作を繰り返してください。

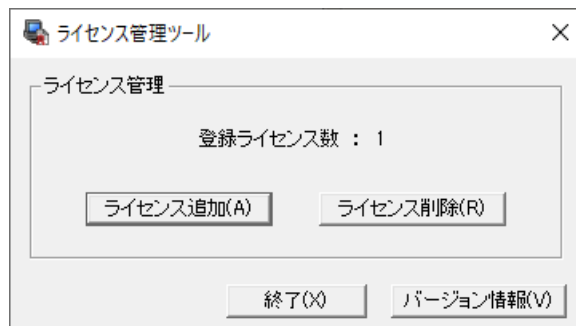
ライセンスの登録を終了する場合は、「ライセンスの追加」画面で [終了] ボタンを押してください。

(6) ライセンス情報を有効にするために、システムを再起動してください。

3.3.2 ライセンスの削除

ライセンスの削除は、以下の手順で行ってください。

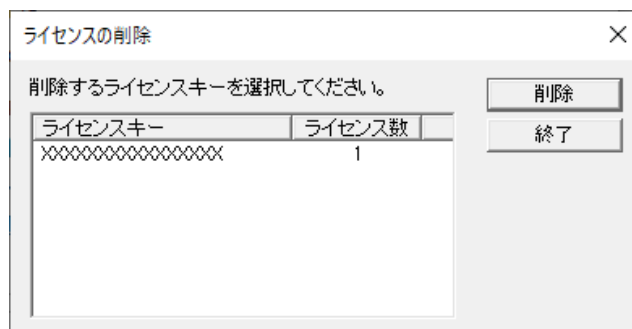
- (1) Windows のメニューからライセンス管理ツールを選択し、ライセンス管理ツールを起動します。



- (2) [ライセンス削除(R)] ボタンを押します。

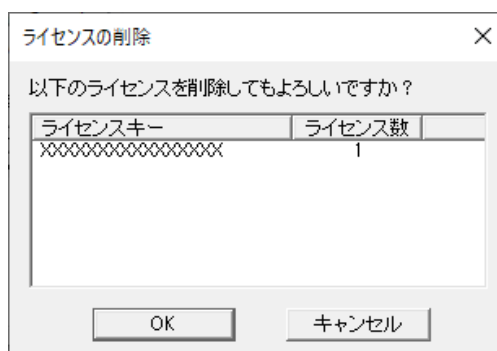
- (3) 「ライセンスの削除」画面が表示されます。

登録されているライセンスキーの一覧から、削除するライセンスキーを選択し [削除] ボタンを押してください。

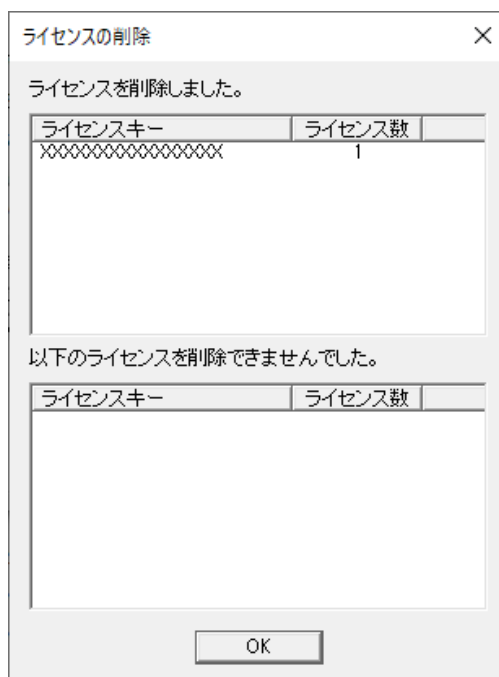


- (4) ライセンス削除の確認画面が表示されます。

表示されているライセンスキーを確認後、[OK] ボタンを押してください。



(5) ライセンスの削除完了画面が表示されます。[OK] ボタンを押してください。



(6) ライセンスの削除を終了する場合は、「ライセンスの削除」画面で [OK] ボタンを押してください。

(7) ライセンス情報を有効にするために、システムを再起動してください。

3.4 ETOSJX の削除

ETOSJX のアンインストールを行います。

3.4.1 ETOSJX 通信 GW のアンインストール

(1) CD-ROM 媒体を使用する場合

- ① サーバの CD-ROM ドライブに ETOSJX の媒体をセットしてエクスプローラから SETUP.EXE を起動してください。

以下の画面が表示されたら [次へ] ボタンを押してください。

ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。

ETOSJX 関連モジュールが動作していると ETOSJX の削除ができません。

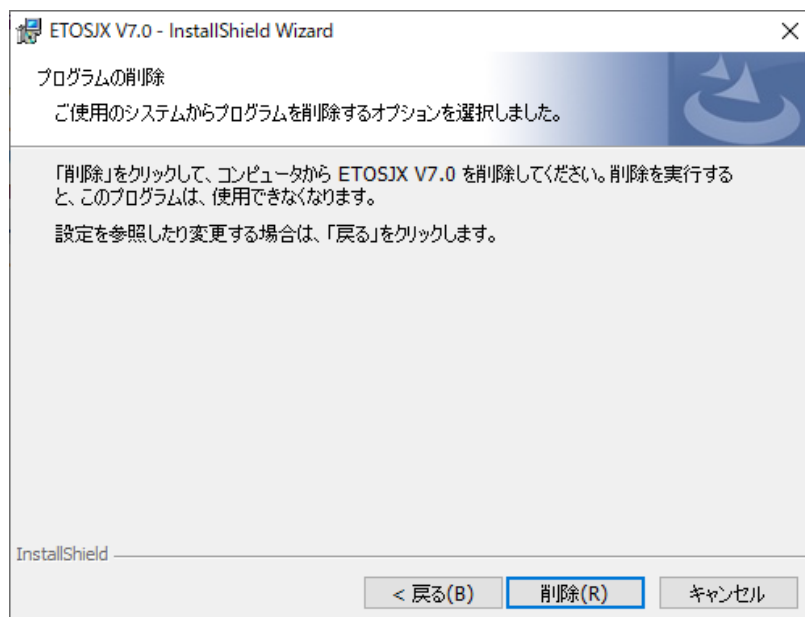
また、ETOSJX 関連モジュールが動作しているとインストーラの動作が遅くなる場合があります。



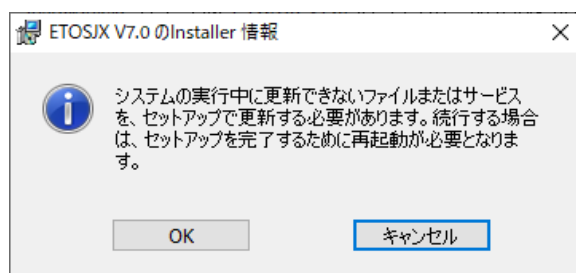
(注意)

アンインストールの際、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

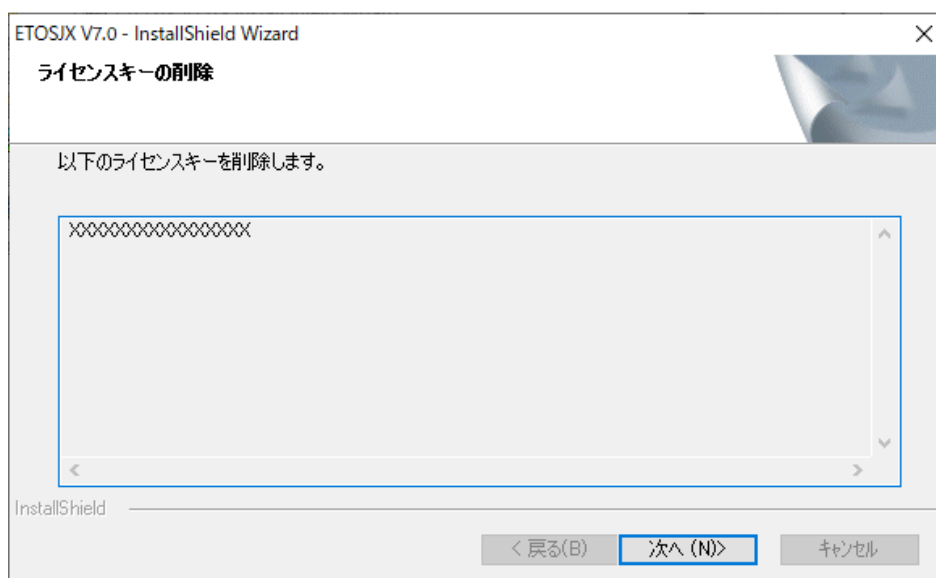
- ② [削除] ボタンを押すと、アンインストールが始まります。



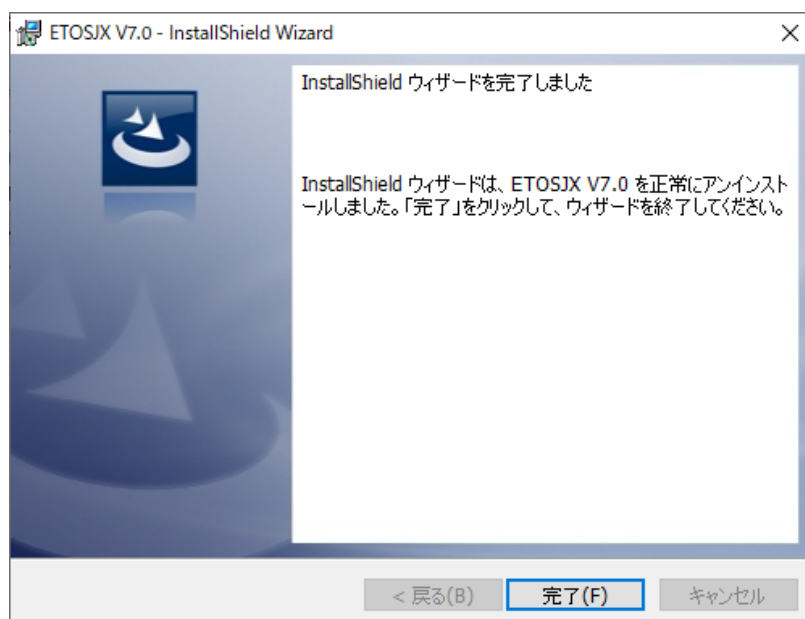
- ③ GW サービスが起動中の場合、以下の画面が表示されることがあります。
[OK] ボタンを押して続行してください。



- ④ ライセンスが追加されている場合、以下の画面が表示されます。
[次へ] ボタンを押して続行してください。

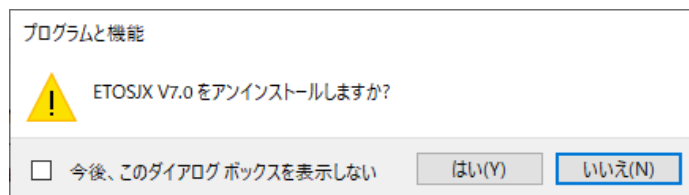


- ⑤ アンインストールの完了画面が表示されます。
[完了] ボタンを押してください。



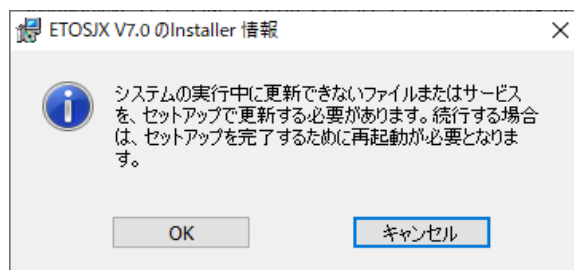
(2) コントロールパネルを使用する場合

- ① Windows の [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択してください。
ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。
ETOSJX 関連モジュールが動作しているとインストーラの動作が遅くなります。
- ② [コントロールパネル] の [プログラムと機能] を選択します。
- ③ 「ETOSJX V7.0」を選択し、[アンインストール] を選択します。

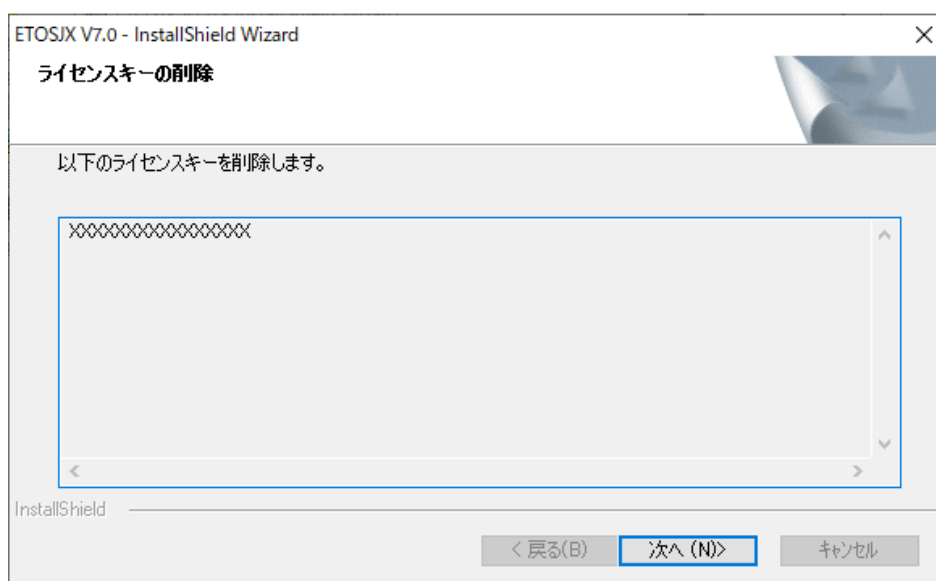
**(注意)**

アンインストールの際、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ ID、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

- ④ GW サービスが起動中の場合、以下の画面が表示されることがあります。
[OK] ボタンを押して続行してください。



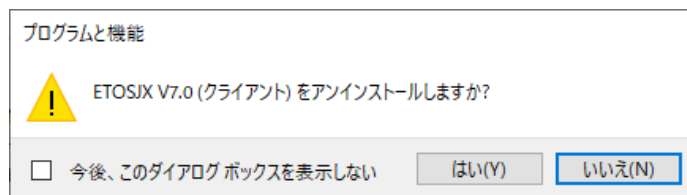
- ⑤ ライセンスが追加されている場合、以下の画面が表示されます。
[次へ] ボタンを押して続行してください。



- ⑥ 【プログラムと機能】 から「ETOSJX V7.0」が削除されます。

3.4.2 ETOSJX クライアントのアンインストール

- (1) Windows の [スタート] メニューから [コントロールパネル] を選択してください。
ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。
ETOSJX 関連モジュールが動作しているとインストーラの動作が遅くなります。
- (2) [コントロールパネル] の [プログラムと機能] を選択します。
- (3) 「ETOSJX V7.0 (クライアント)」を選択し、[アンインストール] を選択します。



- (4) [プログラムと機能] から「ETOSJX V7.0 (クライアント)」が削除されます。

(注意)

アンインストールの際、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ ID、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

第4章

PG パラメータ設定

- 4.1 パラメータファイルとは
- 4.2 ETOSJX-PG とは
- 4.3 パラメータファイルの作成手順
- 4.4 ETOSJX-PG を起動する
- 4.5 基本パラメータを入力する
- 4.6 拡張パラメータを入力する
- 4.7 リソースパラメータを入力する
- 4.8 全パラメータに既定値をセットする
- 4.9 ヘルプを使う
- 4.10 作成したファイルを保存する
- 4.11 作成したファイルを開く
- 4.12 パラメータファイルを印刷する
- 4.13 ファイル作成を終了する

第4章 PG パラメータ設定

この章では、端末システムの使用形態を設定する ETOSJX-PG の操作方法について説明します。

4.1 パラメータファイルとは

パラメータファイルとは、ETOSJX が動作するために必要なシステム情報を格納しておくためのファイルです。パラメータファイルを作成するには、ETOSJX-PG を使用します。

4.2 ETOSJX-PG とは

ETOSJX-PG とは、パラメータファイルの作成、更新、印刷を行うためのユーティリティプログラムです。

4.3 パラメータファイルの作成手順

パラメータファイルを、次の手順で作成します。

- ① ETOSJX-PG を起動する。
- ② 基本パラメータを入力する。
ETOSJX システムを動作させるために最低限必要なパラメータです。
- ③ 拡張パラメータを入力する。
拡張パラメータは、端末オペレータの操作性を向上させるために利用します。
- ④ リソースパラメータを入力する。
ローカル画面ファイル、UA パスファイル転送、コード変換テーブルファイル等、通信リソース(ホスト)ごとに一意な情報を設定します。
- ⑤ 作成したパラメータファイルを保存する。
- ⑥ ETOSJX-PG を終了する。

(注 1) システムのプリンタ情報を変更(ETOSJX で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など)した場合は、パラメータファイルの関連する項目の設定を行う必要があります。

(注 2) 他のマシンからパラメータファイルをコピーして使用する場合は、コピー元のマシンと異なる設定項目(プリンタ名やフォーム格納ディレクトリ)については再度設定を行う必要があります。

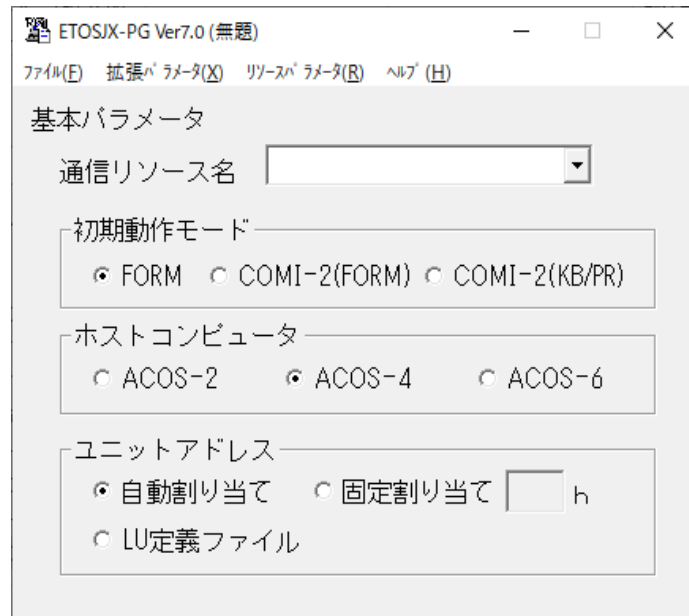
(注 3) パラメータファイルは、OS 毎(Windows Server 2016、Windows Server 2019)に作成してください。他 OS で作成したパラメータファイルは使用できません。

他 OS で作成したパラメータファイルを使用する場合は、PG コンバータでファイルコンバートしてご利用ください。

4.4 ETOSJX-PG を起動する

パラメータファイルを作成するために、ETOSJX-PG を起動します。

- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] – [ETOSJX-PG] の項目を選択する。
- ② ETOSJX-PG のウィンドウがオープンする。
ETOSJX-PG の画面が表示されます(本画面を基本パラメータ入力画面と呼びます)。

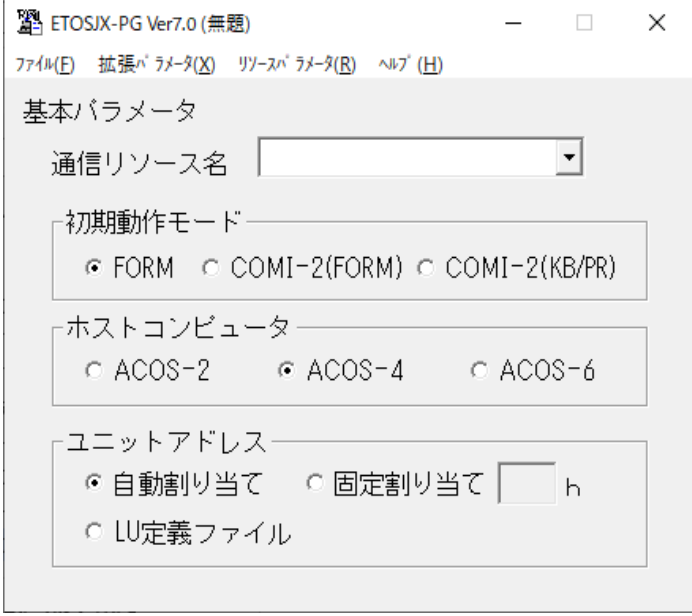


4.5 基本パラメータを入力する

基本パラメータの設定を行います。

① 基本パラメータを入力する。

各パラメータの説明に従い、基本パラメータを入力してください。



The screenshot shows a window titled "ETOSJX-PG Ver7.0 (無題)" with a menu bar containing "ファイル(F)", "拡張パラメータ(X)", "リソースパラメータ(R)", and "ヘルプ(H)". The main area is titled "基本パラメータ" and contains the following settings:

- 通信リソース名: A dropdown menu.
- 初期動作モード: Radio buttons for FORM, COMI-2(FORM), and COMI-2(KB/PR).
- ホストコンピュータ: Radio buttons for ACOS-2, ACOS-4, and ACOS-6.
- ユニットアドレス: Radio buttons for 自動割り当て and 固定割り当て. The fixed address field is empty, followed by the unit "h".
- LU定義ファイル

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
通信リソース名	なし	同一端末上でユニークに指定するホストの名前です。 必ずネットワークマネージャで定義した通信リソース名を指定してください。 最大 16 文字まで入力可能です。 なお、通信リソース名にスペースを含めることはできません。 (注 1)	なし
初期動作モード	・FORM ・COMI-2(FORM) ・COMI-2(KB/PR)	ETOSJX 起動時の動作モードを指定します。	FORM
ホストコンピュータ	・ACOS-2 ・ACOS-4 ・ACOS-6	ホストコンピュータを指定します。	ACOS-4
ユニットアドレス	・自動割り当て ・固定割り当て	ユニットアドレス(UA)の値を指定します。 自動割り当て： ETOSJX の UA 表(リファレンスマニュアルの付録を参照)に従った値で動作します。(注 2) 固定割り当て： このテキストボックスで 指定した値で動作します。 有効範囲は、00～FF です。	自動割り当て

(注 1) パラメータファイルを保存する際、ETOSJX-PG はパラメータファイルと同じディレクトリに基本パラメータ情報を格納するリソースファイルを作成します。リソースファイルは、通信リソース名に拡張子「ETS」を付けてファイル名とします。

(例)	通信リソース名	リソースファイル名
	RESOURCE-1	RESOURCE-1.ETS
	RESOURCE-2	RESOURCE-2.ETS

(注 2) マルチ LU 機能を使用して 3 個以上の ETOSJX を“自動割り当て”で使用する場合、ネットワークマネージャの定義(LU 情報定義)が必要となります。

4.6 拡張パラメータを入力する

拡張パラメータの設定を行います。

拡張パラメータは、[拡張パラメータ] メニューのメニューコマンドを使って設定します。

4.6.1 簡易操作機能の指定をする

簡易操作機能の指定を行います。各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

パラメータを入力して [OK] ボタンを押すと、設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面へ戻ります。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コマンドファイル名	なし	コマンドファイル名を 253 文字以内で指定します。拡張子は指定できません。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。実際のコマンドファイル名は、本項目で指定したコマンドファイル名にコマンド識別子を付けた名となります。 (注)	E52CMD

(注) 例えば、コマンドファイル名が“C:¥EOPTXT¥E52CMD”で、識別子が“01”の場合、実際に使用するファイル名は、“C:¥EOPTXT¥E52CMD01”となります。

識別子の設定については、「[4.6.3 キーをカスタマイズする](#)」を参照してください。

4.6.2 初期動作を指定する

ETOSJX 起動時の初期動作を指定します。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

初期動作指定

初期ローカル画面 番号

初期簡易操作 名称

初期マクロ 番号

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期ローカル画面	なし	ETOSJX 起動時に、ローカル画面を表示する場合、表示するローカル画面番号を数字 3 桁で指定します。ローカル画面番号の有効範囲は、拡張ローカル画面を使用する場合は 000～999、拡張ローカル画面を使用しない場合は 000～255 です。	なし
初期簡易操作	なし	ETOSJX 起動時に、簡易操作を実行する場合に、実行するコマンドファイルの識別子(英数およびカタカナ)を指定します。 識別子は最大 2 文字まで指定できます。	なし
初期マクロ	なし	ETOSJX 起動時に、マクロを実行する場合に、実行するマクロ番号を指定します。 マクロ番号の有効範囲は、01～25 です。	なし

(注 1) 各項目とも、何も指定しない場合には実行されません。

(注 2) 複数の項目を指定した場合、以下の順番で実行されます。

初期ローカル画面 → 初期簡易操作 → 初期マクロ

4.6.3 キーをカスタマイズする

物理キーに ETOSJX のファンクションキーを自由に割り当てます。また、PF1～PF24 のファンクションキーに、ID 送信機能、ローカル画面ファイル機能、簡易操作機能、マクロ機能を割り当てます。

(1) キーボードを選択する

使用するキーボードの種類を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーのカスタマイズ] メニューコマンドを選ぶ。
- ② 98 配列 USB キーボードまたは 98 標準キーボードを使用する場合は [98 キーボード] を選択する。
[98 キーボード] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ 109 キーボードまたは 106 キーボードを使用する場合は [109 キーボード] を選択する。
[109 キーボード] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) 物理キーにファンクションキーを割り当てる

- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーの割り当て] メニューコマンドを選ぶ。
- ② 物理キーにファンクションキーを割り当てる。

[キーの割り当て] ダイアログボックスがオープンします。表示されるダイアログボックスは、キーボードの種類によって異なります。

各パラメータの説明に従い、物理キーにファンクションキーを割り当ててください。

<98 キーボード>

キーの割り当て					
キー	機能	キー	機能	キー	機能
<input checked="" type="radio"/> f・1	PF1	<input type="radio"/> vf・2		<input type="radio"/> ESC	
<input type="radio"/> f・2	PF2	<input type="radio"/> vf・3		<input type="radio"/> TAB	Skip
<input type="radio"/> f・3	PF3	<input type="radio"/> vf・4		<input type="radio"/> BS	BackSkip
<input type="radio"/> f・4	PF4	<input type="radio"/> vf・5		<input type="radio"/> Enter	TAB
<input type="radio"/> f・5	PF5	<input type="radio"/> ROLL UP	STOP ID	切り換えキー	
<input type="radio"/> f・6	全消去(クリア)	<input type="radio"/> ROLL DOWN	HELP ID	<input checked="" type="radio"/> 単独	
<input type="radio"/> f・7	I	<input type="radio"/> HOME	項消去	<input type="radio"/> SHIFT	<input type="radio"/> CTRL
<input type="radio"/> f・8	II	<input type="radio"/> HELP	リセット	<input type="radio"/> SHIFT+CTRL	
<input type="radio"/> f・9	III	<input type="radio"/> APキー		機能選択項目一覧	
<input type="radio"/> f・10	実行/送信	<input type="radio"/> INS	挿入	未設定	
<input type="radio"/> vf・1	IMEモード切替	<input type="radio"/> DEL	削除	PF1	
				PF2	
				PF3	

[既定値] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーに既定値をセットします。

[一括消去] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーの値を消去します。

各パラメータの説明

キー項目	機能項目	説明	既定値
<ul style="list-style-type: none"> ・f・1～f・10 ・SHIFT+f・1～SHIFT+f・10 ・CTRL+f・1～CTRL+f・10 ・SHIFT+CTRL+f・1～SHIFT+CTRL+f・10 ・vf・1～vf・5 ・SHIFT+vf・1～SHIFT+vf・5 ・CTRL+vf・1～CTRL+vf・5 ・SHIFT+CTRL+vf・1～SHIFT+CTRL+vf・5 ・ROLL UP ・ROLL DOWN ・HOME ・CTRL+HOME ・SHIFT+HOME ・SHIFT+CTRL+HOME ・HELP ・AP ｷｰ ・SHIFT+AP ｷｰ ・CTRL+AP ｷｰ ・SHIFT+CTRL+AP ｷｰ ・INS ・SHIFT+INS ・CTRL+INS ・SHIFT+CTRL+INS ・DEL ・SHIFT+DEL ・CTRL+DEL ・SHIFT+CTRL+DEL ・ESC ・SHIFT+ESC ・TAB ・SHIFT+TAB ・CTRL+TAB ・SHIFT+CTRL+TAB ・BS ・SHIFT+BS ・CTRL+BS ・SHIFT+CTRL+BS ・Enter ・SHIFT+Enter ・CTRL+Enter ・SHIFT+CTRL+Enter 	<ul style="list-style-type: none"> ・未設定 ・PF1～PF24 ・全消去(クリア) ・I ・II ・III ・実行/送信 ・セッション切換 ・割込 ・全項消去 ・復改 ・コマンド入力 ・パラメータ変更 ・再開 ・チェックオフ ・DEV CANCEL ・ERASE EOF ・STOP ID ・HELP ID ・項消去 ・カーソルホーム ・IDENT ・リセット ・COPY ID ・挿入 ・削除 ・HCOPY 文字 ・HCOPY 文字+罫線 ・HCOPY すべて ・HCOPY グラフ ・TAB ・BackSkip ・BackSpace ・Skip ・IME モード切替 	<p>物理キーに対応するファンクションキーを指定します。</p> <p>[機能選択項目一覧] のリストボックスから指定したいファンクションキーを選び、そのファンクションキーを物理キーに指定します。</p> <p>複数のキーに同じ機能を割り当てることもできます。</p> <p>SHIFT キー、CTRL キーを押しながら押すキーを指定する場合は、[切り換えキー] で SHIFT、CTRL、SHIFT + CTRL を指定してください。</p> <p>指定できないキーは、ハーフトーンで表示されます。</p>	<p>操作ガイド「キーボードを使う」を参照してください。</p>

<109 キーボード>

キーの割り当て (109)

キー	機能	キー	機能	キー	機能
<input checked="" type="radio"/> F 1	PF1	<input type="radio"/> F 11	PF11	<input type="radio"/> TAB	Skip
<input type="radio"/> F 2	PF2	<input type="radio"/> F 12	PF12	<input type="radio"/> BS	BackSkip
<input type="radio"/> F 3	PF3	<input type="radio"/> Ins	挿入	<input type="radio"/> Enter	TAB
<input type="radio"/> F 4	PF4	<input type="radio"/> Del	削除	切り換えキー <input checked="" type="radio"/> 単独 <input type="radio"/> SHIFT <input type="radio"/> CTRL <input type="radio"/> SHIFT+CTRL	
<input type="radio"/> F 5	PF5	<input type="radio"/> Home	項消去		
<input type="radio"/> F 6	PF6	<input type="radio"/> End	Ⅲ	機能選択項目一覧 未設定 PF1 PF2 PF3	
<input type="radio"/> F 7	PF7	<input type="radio"/> PageUp	I		
<input type="radio"/> F 8	PF8	<input type="radio"/> PageDown	実行/送信		
<input type="radio"/> F 9	PF9	<input type="radio"/> APキー			
<input type="radio"/> F 10	PF10	<input type="radio"/> ESC			

OK キャンセル 既定値 一括消去 ヘルプ

[既定値] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーに既定値をセットします。

[一括消去] ボタンを押すと、切り換えキーによって指定されたキーの値を消去します。

各パラメータの説明

キー項目	機能項目	説明	既定値
<ul style="list-style-type: none"> • F1～F12 • Shift + F1～Shift + F12 • Ctrl + F1～Ctrl + F12 • Shift+Ctrl+F12～Shift+Ctrl+F12 • Insert • Shift + Insert • Ctrl + Insert • Shift + Ctrl + Insert • Delete • Shift + Delete • Ctrl + Delete • Shift + Ctrl + Delete • Home • Shift + Home • Ctrl + Home • Shift + Ctrl + Home • End • Shift + End • Ctrl + End • Shift + Ctrl + End • Page Up • Shift + Page Up • Ctrl + Page Up • Shift + Ctrl + Page Up • Page Down • Shift + Page Down • Ctrl + Page Down • Shift + Ctrl + Page Down • AP ｷｰ, Shift + AP ｷｰ • Ctrl + AP ｷｰ • Shift + Ctrl + AP ｷｰ • Esc, Shift + Esc • Tab, Shift + Tab • Ctrl + Tab • Shift + Ctrl + Tab • BackSpace • Shift + BackSpace • Ctrl + BackSpace • Shift+Ctrl+BackSpace • Enter, Shift + Enter • Ctrl + Enter • Shift + Ctrl + Enter 	<ul style="list-style-type: none"> • 未設定 • PF1～PF24 • 全消去(クリア) • I • II • III • 実行/送信 • セッション切換 • 割込 • 全項消去 • 復改 • コマンド入力 • パラメータ変更 • 再開 • チェックオフ • DEV CANCEL • ERASE EOF • STOP ID • HELP ID • 項消去 • カーソルホーム • IDENT • リセット • COPY ID • 挿入 • 削除 • HCopy 文字 • HCopy 文字+罫線 • HCopy すべて • HCopy グラフ • TAB • BackSkip • BackSpace • Skip • IME モード切替 	<p>物理キーに対応するファンクションキーを指定します。 [機能選択項目一覧] のリストボックスから指定したいファンクションキーを選び、そのファンクションキーを物理キーに指定します。 複数のキーに同じ機能を割り当てることもできます。 Shift キー、Ctrl キーを押しながら押すキーを指定する場合は、[切り換えキー] で SHIFT、CTRL、SHIFT + CTRL を指定してください。 指定できないキーは、ハーフトーンで表示されます。</p>	<p>操作ガイド「キーボードを使う」を参照してください。</p>

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

- (3) PF1～PF24、I、II、IIIのファンクションキーに機能を割り当てる
- ① [拡張パラメータ] メニューの [キーのカスタマイズ] メニューコマンドを選ぶ。
 - ② [ファンクションキー機能割当] メニューを選択する。
 - ③ ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスがオープンする。

ファンクションキー機能割当

ファンクションキー設定選択

PF1	PF2	PF3	PF4
PF5	PF6	PF7	PF8
PF9	PF10	PF11	PF12
PF13	PF14	PF15	PF16
PF17	PF18	PF19	PF20
PF21	PF22	PF23	PF24
I	II	III	

スイッチの使用

使用する 使用しない

OK キャンセル ヘルプ 一覧表示

- ④ [ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスで、設定する PF キーのボタンを選ぶ。

- ⑤ PF キーのダイアログボックスで、パラメータを入力する。
 指定した PF キーのダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファンクションキー機能指定	<ul style="list-style-type: none"> ・ID 送信 ・ローカル画面 ・簡易操作 ・マクロ実行 	<p>ID 送信 : PF キーに対する ID をホストに送信します。</p> <p>ローカル画面 : 表示するローカル画面番号を数字 3 桁で指定します。ローカル画面番号の有効範囲は、000～255 です。ただし、拡張ローカル画面を使用する場合は、000～999 となります。</p> <p>簡易操作 : 実行するコマンドファイルの識別子(英数およびカタカナ)を指定します。何も指定しない場合、簡易操作は実行されません。識別子は最大 2 文字まで指定できます。</p> <p>マクロ実行 : 実行するマクロ番号を指定します。何も指定しない場合は実行されません。マクロ番号の有効範囲は 01～25 です。</p>	ID 送信
キーの名前	なし	PF キーの名前を変更します。キーの名前は、32 文字まで入力できます。ツールボタンの説明として、ステータスバーに表示されます。	なし

- ⑥ PF キーのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
 PF キーダイアログボックスで設定したパラメータを保存し、[ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスに戻ります。

- ⑦ スイッチの使用の有無を選択する。
各パラメータの説明に従い、スイッチの設定を行ってください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
スイッチの使用	・使用する ・使用しない	使用する： ID 送信、ローカル画面、簡易操作、マクロ実行を複数同時に指定した場合、これらの機能を実行する優先順位を変更することができます。 使用しない： ID 送信、ローカル画面、簡易操作、マクロ実行を複数同時に指定した場合、これらの機能を実行する優先順位は、マクロ実行、簡易操作、ローカル画面、ID 送信の順となります。	使用しない

- ⑧ [ファンクションキー機能指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注) 1つの PF キーに複数の機能を指定した場合、最も優先順位の高い機能のみを実行します。

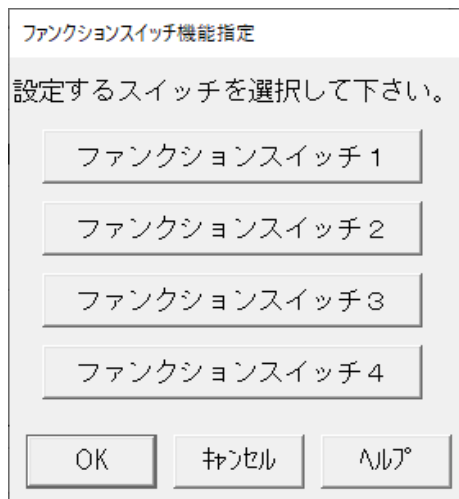
スイッチの使用		優先順位			
使用する (注)	SW(ID)	ID 送信	→マクロ実行	→簡易操作	→ローカル画面
	SW(MET)	マクロ実行	→簡易操作	→ローカル画面	→ID 送信
	SW(EOP)	簡易操作	→マクロ実行	→ローカル画面	→ID 送信
	SW(GFM)	ローカル画面	→マクロ実行	→簡易操作	→ID 送信
使用しない		マクロ実行	→簡易操作	→ローカル画面	→ID 送信

- (注) スイッチは Ctrl + K を押すことによって切り換えます。
スイッチの状態は画面の制御領域に表示されます(詳細は操作ガイド「画面フォーマット」の制御領域の説明を参照して下さい)。

4.6.4 ファンクションスイッチ機能を指定する

ファンクションスイッチの設定を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ファンクションスイッチ機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
[ファンクションスイッチ機能指定] ダイアログボックスがオープンします。
設定するファンクションスイッチのボタンを押してください。



- ② 各ファンクションスイッチのダイアログボックスで、パラメータを入力する。
各ファンクションスイッチのダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

<ファンクションスイッチ 1 >

ファンクションスイッチ 1		ファンクションスイッチ 1	
BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/> 初期アトリビュート指定	8	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/> NL動作指定	9	<input type="checkbox"/> 画面展開モード指定
2	<input type="checkbox"/> 復改キー指定	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/> コピーキー指定	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/> ローカルコピー復改指定	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 送信済みデータ保護指定	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/> 入力可ブザー鳴動指定	E	<input type="checkbox"/> IDカードリーダーモード指定
7	<input type="checkbox"/> IBMエミュレートモード指定	F	<input type="checkbox"/> プリンタ同時出力指定

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT0 初期アトリビュート指定 (注 1)		YES : 初期モードはアトリビュート非占有モードとなります。 NO : 初期モードはアトリビュート占有モードとなります。	NO
BIT1 NL 動作指定 (注 1)		YES : ホストコンピュータから受信した画面へのメッセージ中の NL を画面に書き込み復改します。 NO : ホストコンピュータから受信した画面へのメッセージ中の NL を単なるデータとして扱い、画面に書き込みます。	NO
BIT2 復改キー指定 (注 1)		YES : 復改キーが押された時、NL を画面に書き込み復改します。 NO : 復改キーが押された時、復改動作のみ行います。	NO
BIT3 コピーキー指定 (注 1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : コピーキーが押された時、端末ローカルで PR チャネルに画面のハードコピーを印字出力します。 NO : コピーキーが押された時、ホストコンピュータにコピーキーメッセージを送信します。	NO
BIT4 ローカルコピー復改指定 (注 1)		YES : 端末ローカルに画面のハードコピーを出力する時、画面上の NL によって復改します。 NO : 端末ローカルに画面のハードコピーを出力する時、画面の各行の終わりに NL を付加し復改します。	NO
BIT5 送信済みデータ保護指定 (注 1)		YES : 一度送信したフィールドは、送信キーおよび SOT でスキップされ何も送信されません。 NO : 一度送信したフィールドは、送信キーおよび SOT によって、再度送信されます。	NO
BIT6 入力可ブザー鳴動指定 (注 1)		YES : 入力不可→入力可への変化時に、ブザーを鳴らします。ブザー音は、[拡張パラメータ] - [ブザー鳴動指定] で指定可能です。 NO : 入力不可→入力可への変化時に、ブザーを鳴らしません。	NO
BIT7 IBMエミュレートモード指定 (注 1)		YES : IBM3270 エミュレートモードへの切換コマンド受信時エミュレートモードとなり、PF キーを押した時に、各 PF キーの ID だけでなく、送信キーを押した時と同様に画面のデータをホストに送信します。 NO : IBM3270 エミュレートモードへの切換コマンドを受信してもエミュレートモードにはなりません。	NO
BIT9 画面展開モード指定 (注 1)		YES : 画面に対するテキストを受信ブロック単位に表示します。 NO : 画面に対するテキストをすべて受信した後に表示します。	NO

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BITE ID カードリーダモード指定 (注 1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ID カードリーダをモデル 50N 互換モードで使用します。 NO : ID カードリーダをモデル 55N 互換モードで使用します。 リファレンスマニュアル「 アトリビュート文字 」を参照。	NO
BITF プリンタ同時出力指定 (注 2)		YES : ホストからの画面への表示データまたはキーボードからの入力データを同時にプリンタへ出力します。 NO : ホストからの画面への表示データまたはキーボードからの入力データをプリンタへ出力しません。	NO

(注 1) FORM、COMI-2(FORM)モードのみ有効。

(注 2) COMI-2(KB/PR)モードでのみ有効。

＜ファンクションスイッチ 2＞

ファンクションスイッチ 2			
BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/> 倍画面使用指定
1	<input type="checkbox"/> 数字フィールドジャスティファイ指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/> マウス使用指定(ライトペン機能)	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/> 英小文字変換指定	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT1 数字フィールド ジャスティファイ指定 (注)		YES : 数字フィールドは ATR3 の J 指定にかかわらずジャスティファイ動作します。 NO : 数字フィールドは ATR3 で J 指定されていない場合はジャスティファイ動作しません。	NO
BIT2 マウス使用指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ライトペン機能を使用します(ATR1 の指定で BL、HL のどちらか一方のみ ON の場合にライトペンフィールドを生成します)。 NO : ライトペンフィールドを生成しません。	NO
BIT7 英小文字変換指定		YES : キーボードから入力された英小文字を英大文字に変換して表示します。 NO : 文字の変換を行いません。	NO
BIT8 倍画面使用指定		YES : 倍画面モードで動作します。 NO : 通常モードで動作します。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

(注) FORM、COMI-2(FORM)モードでのみ有効です。

＜ファンクションスイッチ3＞

ファンクションスイッチ3			
BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/>	8	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/> XFERキー送信機能指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input checked="" type="checkbox"/> 罫線補正指定	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/> 左クリック動作指定	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT1 XFER キー送信機能 指定	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : XFER キーを実行/送信キーとして扱います。 NO : XFER キーを実行/送信キーとして扱いません。	NO
BIT2 罫線補正指定		YES : 横罫線をカラムの中央から引きます。 NO : 横罫線をカラムの左端から引きます。	YES
BIT5 左クリック動作指定		YES : マウス左クリックにより入力位置カーソルを移動可能とします。 NO : マウス左クリックでは入力位置カーソルを移動しません。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

<ファンクションスイッチ 4 >

ファンクションスイッチ 4			
BIT	指定項目	BIT	指定項目
0	<input type="checkbox"/> モノクロディスプレイ互換モード	8	<input type="checkbox"/>
1	<input type="checkbox"/> WMSCファイル転送動作指定	9	<input type="checkbox"/>
2	<input type="checkbox"/>	A	<input type="checkbox"/>
3	<input type="checkbox"/>	B	<input type="checkbox"/>
4	<input type="checkbox"/>	C	<input type="checkbox"/>
5	<input type="checkbox"/>	D	<input type="checkbox"/>
6	<input type="checkbox"/>	E	<input type="checkbox"/>
7	<input type="checkbox"/>	F	<input type="checkbox"/>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
BIT0 モノクロディスプレイ互換モード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : ホストからの画面に対するカラー指定を無視します。通常は、緑色で表示され、高輝度表示指定のフィールドのみ、黄色で表示されます。 NO : ホストからの画面に対するカラー指定を有効にします。	NO
BIT1 WMSC ファイル転送動作指定		YES : 1レコードを複数テキストに分割して送信する COMI-2 上り可変長ファイル転送において、1テキストの WMSC 受信に対して、1レコード分の全テキストを送信して、MS-DOS 版 ETOS と同等の動作をします。 NO : 1レコードを複数テキストに分割して送信する COMI-2 上り可変長ファイル転送において、1テキストの WMSC 受信に対して、1テキストのみ送信します。	NO

※上記以外のパラメータは、指定しても無視されます。

- ③ 指定したファンクションスイッチのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消えます。
- ④ [ファンクションスイッチ機能指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消え、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.5 COMI-2 パス拡張機能を指定する

COMI-2 パスを使用する場合の各種機能の設定を行います。

(注意) クライアント上のファイルを指定してください。

(1) ファイル情報を定義する。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [ファイル情報定義] メニューを選択する。
[ファイル情報定義] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

ファイル情報定義			
	ファイル名	レコード長	
FI00	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI10
FI01	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI11
FI02	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI12
FI03	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI13
FI04	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI14
FI05	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI15
FI06	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI16
FI07	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI17
FI08	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI18
FI09	<input type="text"/>	<input type="text"/>	FI19
レコード長既定値		<input type="text" value="256"/>	
		<input type="button" value="OK"/>	<input type="button" value="キャンセル"/>
		<input type="button" value="ヘルプ"/>	

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
レコード長既定値	なし	レコード長の既定値を指定します。ファイル名直接指定の固定長ファイル転送やファイル名間接指定の\$CHG を使用した固定長モードファイル転送でレコード長が指定されていない場合、この値がレコード長となります。有効範囲は、1～999 バイトです。	256
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ディレクトリも指定し、64 文字以内で入力します。 なお、本ファイル名はホストから指定されるファイル名と同じ文字列を指定する必要があります。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。ファイルは、本項目で指定されたレコード長で送信されます。有効範囲は、1～999 バイトです。	なし

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) 拡張機能を指定する

① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス拡張機能] メニューコマンドを選ぶ。

② [拡張機能] メニューを選択する。

[拡張機能] ダイアログボックスがオープンします。各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
送信データ圧縮指定 ・フロッピーディスク ・カードリーダー	・圧縮する ・圧縮しない	フロッピーディスクイメージデータ/カードリーダーイメージデータ送信時にデータの圧縮を行うかを指定します。	圧縮する
トレーラスペース削除	・削除する ・削除しない	トレーラスペースを削除するかを指定します。	削除する
COMI-2(間接指定) ファイル転送 ・ファイルアロケーション	・アロケートする ・アロケートしない	COMI-2 パスファイル転送(下り間接指定)において、ファイルが存在しない場合にファイルを作成するかを指定します。	アロケートしない
COMI-2(間接指定) ファイル転送 ・ファイル種別	・固定長モード ・可変長モード	COMI-2 パスファイル転送(間接指定)においてファイル転送のモードを指定します。 固定長モード：チャンネル指定のレコード長を有効とし、レコードサイズが固定となります。 可変長モード：CRLF までを 1 レコードとし、レコード長が可変となります。	固定長モード
不正コードエラー	・表示する ・表示しない	COMI-2 パスファイル転送で、扱うことのできないコード(G1 文字、NEC 付加文字、その他不正コード)を受信した時に、エラーを表示するか指定します。	表示しない

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(3) 端末オペレータコマンドを指定する

端末オペレータコマンドの登録を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [端末オペレータコマンド指定] メニューを選択する。
[端末オペレータコマンド指定] ダイアログボックスがオープンします。
設定したい登録番号のボタンを押してください。

- ③ 指定した登録番号のダイアログボックスで、パラメータを入力する。

指定した登録番号のダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

また、登録した端末オペレータコマンドを削除したい場合には、[登録削除] ボタンを押してください。

その登録番号を未登録状態にし、ダイアログボックスは消えます。

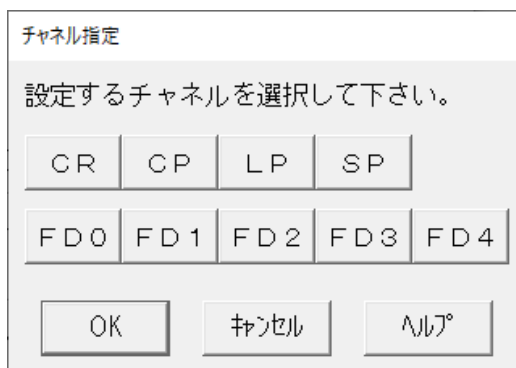
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
イメージ	・キーボード ・フロッピーディスク	送信データイメージを指定します。	キーボード
入力装置	・キーボード ・DRIVE A～Z	入力装置を指定します。キーボードを指定した場合、以降のパラメータを指定する必要はありません。 キーボード：キーボード入力フィールドに入力されたデータがホストに送信されます。 DRIVE A～Z：ファイル 1 レコード分のデータが、ホストに送信されます。	キーボード
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントドライブにない場合は、ドライブやディレクトリも指定します([入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください)。 64 文字まで入力できます。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します([入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください)。 有効範囲は、1～999 バイトです。	なし
データコード	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します([入力装置] で、DRIVE A～Z を指定した場合のみ指定してください)。 JIPS(J)SE：ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J)：ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 シフト JIS→JIPS(J)SE (送信時)	JIPS(J)SE

(4) チャンネルを指定する(COMI-2 パス ファイル名間接指定)

COMI-2 パスを使用してファイル転送(ファイル名間接指定)を行う場合、ファイル名を間接的に表すチャンネルに、あらかじめファイル名と入出力装置を設定する必要があります。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [チャンネル指定] メニューを選択する。
[チャンネル指定] ダイアログボックスがオープンします。



- ③ [チャンネル指定] ダイアログボックスで、指定するチャンネルを選ぶ。
各パラメータの説明に従い、チャンネルを選択してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
チャンネル	<ul style="list-style-type: none"> •CR •CP •LP •SP •FD0 •FD1 •FD2 •FD3 •FD4 	設定したいチャンネルを指定します。 CR : カードリーダーチャンネル CP : カードパンチチャンネル LP : ラインプリンタチャンネル SP : シリアルプリンタチャンネル FD0~4 : フロッピーディスクチャンネル	なし

- ④ 指定したチャンネルのダイアログボックスでパラメータを入力する。
指定したチャンネルのダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

<CR チャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。 64文字まで入力できます。	C : DATAR
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。 有効範囲は、1～999バイトです。	80
データコード	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。 JIPS(J)SE : ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 シフト JIS→JIPS(J)SE(送信時)	JIPS(J)SE

<CP/LP/SP チャネルチャネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
出力装置	・プリンタ ・DRIVE A~Z	チャネルの出力装置を指定します。	プリンタ
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。 64文字まで入力できます([出力装置] で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください)。	なし
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。 有効範囲は、1~999 バイトです([出力装置] で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください)。	CP : 80 LP : 256 SP : 256
データコード (注)	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内へ格納するデータのコードを指定します([出力装置] で、DRIVE A~Z を指定した場合のみ指定してください)。 JIS(J)SE : ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 JIPS(J)SE→シフト JIS(受信時)	JIPS(J)SE

(注) LP/SPチャネルの場合、[データコード] で内部(J)を指定しても無効となります。この場合、データコードは JIPS(J)SE で処理されます。

<FD0~FD4 チャンネル>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ファイル名	なし	ファイル名を指定します。指定するファイルが、カレントディレクトリにない場合には、ドライブやディレクトリも指定します。 64 文字まで入力できます。	FD0…C:DATA0 FD1…C:DATA1 FD2…C:DATA2 FD3…C:DATA3 FD4…C:DATA4
レコード長	なし	ファイルのレコード長を指定します。 有効範囲は、1~999 バイトです。	256
データコード	・JIPS(J)SE ・内部(J)	ファイル内に格納されているデータのコードを指定します。 JIPS(J)SE : ホストと同じコード体系。漢字コードの変換を行いません。 内部(J) : ホストと異なるコード体系。漢字コードの変換を行います。 JIPS(J)SE→シフト JIS(受信時)	JIPS(J)SE

- ⑤ 指定したチャンネルのダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、ダイアログボックスは消えます。
- ⑥ [チャンネル指定] ダイアログボックスで [OK] ボタンを押す。
ダイアログボックスは消え、もとの画面に戻ります。

(5) ファイル受信終了後の自動起動アプリケーションを指定する

COMI-2 パスを使用したファイル転送(ファイル名直接指定)終了後、起動するアプリケーションを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [アプリケーション自動起動設定] メニューを選択する。

[アプリケーション自動起動設定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
受信ファイル名	なし	COMI-2 パスファイル転送で受信するファイル名を指定します。 12 文字まで入力できます。	なし
実行アプリケーション名	なし	COMI-2 パスファイル転送で受信したファイル名が、設定した受信ファイル名と一致した場合に起動するアプリケーションを指定します。(注)	なし

(注) 1) 指定したアプリケーションが実行される場合、実行ファイルの第 1 引数として、受信ファイル名が指定されます。

実行アプリケーション名は、フルパスで指定してください。

2) ファイル名以外の引数を指定することはできません。

- ③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(6) ファイル転送ディレクトリを指定する

COMI-2 パスを使用したファイル転送(ファイル名直接指定)で使用するディレクトリをユニット番号毎に指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [ユニット番号ディレクトリ指定] メニューを選択する。
[ユニット番号ディレクトリ指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

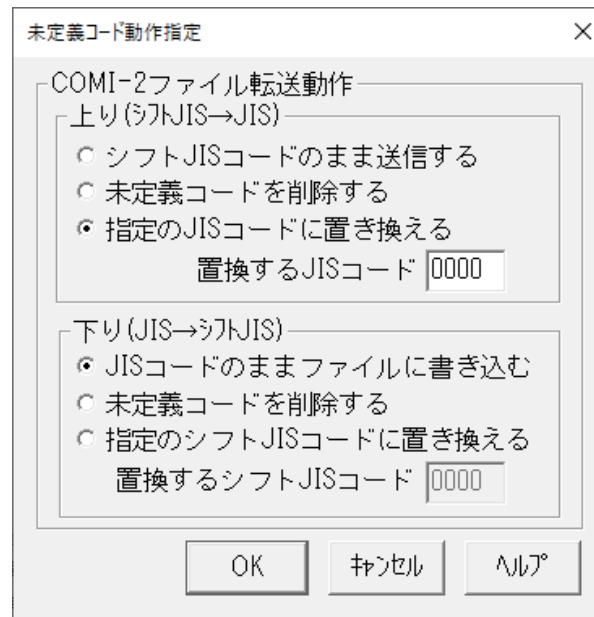
項目名	パラメータ	説明	既定値
転送ディレクトリ	なし	COMI-2 パスファイル転送で使用するディレクトリをユニット番号(ドライブ番号)毎に指定します。ユニット番号0～9はドライブ番号A～Jに対応します。本指定は、ファイル名直接指定でのみ有効です。 転送ディレクトリはフルパスで指定してください。	なし

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(7) ファイル転送時の未定義コード動作を指定する

コード変換テーブルを使用して COMI-2 パスファイル転送(バイナリデータ転送は除く)を行う場合、コード変換テーブルで未定義としたコードの取り扱いを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [COMI-2 パス機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② [未定義コード動作指定] メニューを選択する。
[未定義コード動作指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
上り (シフト JIS→JIS)	・シフト JIS コードのまま送信する ・未定義コードを削除する ・指定の JIS コードに置き換える	ファイル内に存在する未定義コードをホストへ送信する際の動作を指定します。	指定の JIS コードに置き換える
	置換する JIS コード	上記で[指定の JIS コードに置き換える]を指定した場合、置き換える JIS コードを指定します。有効範囲は 0000～FFFF です。	0000
下り (JIS→シフト JIS)	・JIS コードのままファイルに書き込む ・未定義コードを削除する ・指定のシフト JIS コードに置き換える	ホストから受信したデータ内に存在する未定義コードをファイルに書き込む際の動作を指定します。	JIS コードのままファイルに書き込む
	置換するシフト JIS コード	上記で[指定のシフト JIS コードに置き換える]を指定した場合、置き換えるシフト JIS コードを指定します。有効範囲は 0000～FFFF です。	0000

(注 1) 置換する JIS コードは、ホスト側に影響がないコードを指定してください。

指定コードによっては、JIS の日本語コードにならない範囲があります。

(注 2) 置換するシフト JIS コードは、Windows で使用する場合に影響がないコードを指定してください。

指定コードによっては、シフト JIS の日本語コードにならない範囲や字体がないコードになる範囲があります。

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.6 IDカードリーダ機能を指定する

IDカードリーダを使用するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [IDカードリーダ機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② IDカードリーダを使用する場合には [使用する] を選択する。
[使用する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ IDカードリーダを使用しない場合には [使用しない] を選択する。
[使用しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意)

IDカードリーダ使用時は、デバイスマネージャの通信ポート(COM1)の設定をIDカードリーダ機器の設定に合わせてください。

4.6.7 回線接続に関するパラメータを指定する

TCP/IP 手順使用時のレジーム確立の方法と、ETOSJX の起動時または回線切断時に、ETOSJX から発行する接続要求の回数を設定します。

① [拡張パラメータ] メニューの [回線接続パラメータ設定] メニューコマンドを選ぶ。

② パラメータを入力する。

[回線接続パラメータ] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
接続の確立	・自動 ・マニュアル	TCP/IP 手順において、接続の確立を行う方法を指定します。「自動」を選択した場合、ETOSJX は常にレジームを確立しようとします。	自動
画面送信応答監視	・しない ・する	TCP/IP 手順で、画面送信、COMI-2 ファイル送信、分散テキスト送信の際、ホストへの到達確認を行うかを指定します。	しない
回線接続リトライ	・無限 ・回数設定	回線接続が失敗した場合の再接続試行回数を指定します。無限を選択した場合は回線接続完了まで、接続要求を繰り返します。	回数設定 0

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.8 プリンタ情報を設定する(COMI-2パス)

[拡張パラメータ] メニューの [プリンタ出力指定] メニューで COMI-2 パスプリンタ出力機能の設定を行います。

(1) 出力方法の設定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [プリンタ出力指定] を選択する。
- ② [COMI-2 パス指定] 設定を選択する。
- ③ パラメータを入力する。

プリンタ制御コード指定ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

プリンタ出力指定(COMI-2)

現在設定されている出力先プリンタ
未設定 プリンタ設定

通常使うプリンタを使用する

プリンタ言語

PC系コード

N5200系コード 従来変換 無変換 イメージ変換

プリンタコードチェック 詳細設定

障害通知の有無

通知する すべて永久障害で通知する

通知しない

プリンタ監視

監視しない 監視する 秒

(注意) 出力先プリンタは指定できません。

既定値は、クライアントで指定されている通常使うプリンタとなります。

それ以外のプリンタを指定する場合は、ETOSJX を起動後に [オプション] メニューの [プリンタ情報の設定] にてプリンタを変更してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
現在選択されている出力先プリンタ	プリンタ名	現在選択されているプリンタを表示します。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先プリンタを Windows で設定されている「通常使うプリンタ」に出力するかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	YES
プリンタ言語	・N5200 系コード ・PC 系コード ・従来変換 ・無変換 ・イメージ変換	ホストから受信するプリンタ言語およびコード変換方法を指定します。 N5200 系コード : ホストから受信するデータが旧情報コードの場合指定します。 PC 系コード : ホストから受信するデータが 201PL または NPDL2 の時指定します。 従来変換 : ETOSJX で一部のホスト側制御コードを変換し、プリンタへ出力します。 無変換 : ETOSJX ではデータの加工は一切行わず、プリンタへ出力します。 イメージ変換 : ETOSJX にて PC-PR201 系プリンタをエミュレートし、印字イメージデータをプリンタへ出力します。	従来変換
プリンタコードチェック	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	ホストからの印字データが設定にあっているかのチェックを行うか設定します。 YES: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信した場合に、エラーを表示し、プリンタ出力を中止します。 NO: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信しても、エラーを表示せず、プリンタ出力を継続します。	YES
障害通知の有無	・通知する ・通知しない	N5200 系コード選択時、プリンタの障害通知機能を選択します。 通知する : プリンタ障害発生時、ホストへ障害情報を通知します。 (注 1) 通知しない : プリンタ障害発生時、プリントマネージャに処理をまかせます。	通知する
障害通知 ・全て永久障害で通知する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	上記で「通知する」を選択時、全て永久障害で通知するか否かを選択します。 PC98-NX シリーズ/Express5800 シリーズでは、電源断、未接続を用紙切れで通知する場合があります。 YES: 用紙切れを含む全ての障害を検出した場合、永久障害でホストへ障害通知します。 NO : 用紙切れとその他の障害を区別してホストへ障害通知します。	NO

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ監視	・監視しない ・監視する	COMI-2 パスでのプリンタ出力をタイム監視するか指定します。 監視しない：プリンタをオープン後、ETOSJX を終了するまで、クローズを行いません。(注2) 監視する：プリンタ監視時間を指定します。 指定した時間を経過しても次の印刷データを受信しなければ、プリンタをクローズします。 有効範囲は、1～9999 秒です。(注3)	監視する 10 秒

(注1) 障害通知機能を使用する場合、ETOSJX 専用プリンタを登録する必要があります。ETOSJX 専用プリンタの登録方法は、「[9.2 ETOSJX 専用プリンタ登録](#)」を参照してください。

障害通知機能は、プリンタポートに直接接続されたローカルプリンタのみ使用可能です。ネットワークプリンタおよび USB 接続プリンタでは使用できません。

PrintBridge と連携を行う場合の設定方法は、「[9.4 PrintBridge を経由して印刷する](#)」も参照してください。

(注2) プリンタ監視しない設定は、N5200 系コード(障害通知する)の場合のみ使用して下さい。

それ以外の設定で使用した場合、ETOSJX を終了するまで、印刷が開始されない場合があります。

(注3) ホストからの印刷データが終了しても、この指定時間だけ待ってから印刷を開始します。

N5200 系コードの場合、プリンタ監視時間経過後および印刷開始時にプリンタ装置のリセット、用紙長の再設定(シリアルプリンタのみ)を行うため、極端に小さい値を設定するとプリンタ性能の低下やページずれが発生する恐れがあります。業務ごとに適切な値を設定してください。

④ 詳細設定を行う。

[プリンタ出力指定(COMI-2)]ダイアログボックスで [詳細設定] ボタンを選択し、コード変換パラメータを設定します。
表示されるダイアログボックスは、プリンタ言語、および印字方法によって異なります。

<N5200系コード>

N5200系コード詳細設定

プリンタ機種名

初期化コード
 出力する 出力しない

印字方向
 ポートレイト ランドスケープ

用紙位置
 中央 左端

外字
 Windows標準外字 移行外字

用紙サイズ

給紙方法

1ページの行数 66

自動復帰改行
 復帰改行 復帰のみ

連続する同期コード
 1個に置換 そのまま

追加コード

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ機種名	プリンタ型番	リストボックスに PC-PTOS 対応プリンタが表示されます。一覧の中から使用するプリンタを指定します。(注 1)	なし
初期化コード	・出力する ・出力しない	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。通常は、出力するを指定し、ホスト側にてプリンタを制御する場合に出力しないを指定します。	出力する
印字方向	・ポートレート ・ランドスケープ	用紙の印字方向を指定します。(注 2)	ポートレート
用紙位置	・中央 ・左端	用紙の位置を指定します。(注 2)	左端
外字	・Windows 標準外字 ・移行外字	N5200 系コード印刷で使用する外字を指定します。移行外字は、PTOS/A-VX5 の外字を「日本語文字拡張セット」を使用して変換したものです。	Windows 標準外字
用紙サイズ		用紙サイズを指定します。(注 2)	
給紙方法		給紙方法を指定します。(注 2)	
1 ページの行数	行数	1 ページの行数を指定します。 本指定は、シリアルプリンタ使用時のみ有効となります。	66
自動復帰改行	・復帰改行 ・復帰のみ	帳票印刷時、1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。	復帰のみ
連続する同期コード	・1 個に置換 ・そのまま	印字データに連続する同期コード(00 ₁₆)が存在する場合の動作を指定します。 1 個に置換：ホストから受信した連続する同期コードを 1 個にまとめて出力します。大量の同期コードが原因で、印字速度が遅い場合に指定してください。 そのまま：ホストから受信した同期コードをすべてプリンタへ出力します。	1 個に置換

(注 1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 サーバに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能であり、PC には接続できません。

(注 2) シリアルプリンタの場合、印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法のパラメータは、レフトマージンを求めるための指定となります。従って、この設定によって、プリンタ本体の印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法を変更することはできません。

プリンタ本体の設定を変更するには、ホストよりデータとして制御コードを送るか、追加コードの指定機能によって制御コードを出力するようにしてください。

(注 3) 移行外字を選択した場合、コード変換テーブルは、有効となりません。

※PrintBridge や BizReporting と連携を行う場合の設定方法は、[「9.4 PrintBridge を経由して印刷する」](#)、[「9.5 BizReporting を経由して印刷する」](#)も参照してください。

[追加コード] のボタンで初期化コード／終了コードを指定します

追加コード設定(N5200系)

初期化コード

追加コード

終了コード

追加コード

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力開始時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力終了時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加コードは N5200 系制御コードで記述してください。

また、追加コードファイルのファイルサイズは、最大 512 バイトです。

<PC系コード(従来変換)>

PC系コード(従来変換) 詳細設定

201データ

プリンタ言語
 201PL NPDL2

プリンタタイプ
 ODA CENTRO

外字変換方法
 ドットイメージ ダウンロード文字

縦罫線変換方法
 ドットイメージ 縦罫線コード

コード設定

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	・201PL ・NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	201PL
プリンタタイプ	・ODA ・CENTRO	プリンタの出カタイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角 = 1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角 = 1:0.75:1.5	ODA
外字変換方法	・ドットイメージ ・ダウンロード文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ : 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字 : プリンタに外字を登録後、印字します。(注 1)	ドットイメージ
縦罫線変換方法	・ドットイメージ ・縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ : 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で 1ドット占有します。 縦罫線コード : 縦罫線コード(FS ;)に変換して出力します。(注 2)	ドットイメージ

(注 1) プリンタの外字領域 7620₁₆を使用します。

(注 2) 縦罫線コードは、プリンタによってサポートされていない場合があります。

[コード設定] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します。

コード設定

初期化コード

基本設定 全て付加 同期コード以外付加 付加しない

付加する場合の設定

印字方向 縦 横

用紙位置 中央 左端

用紙サイズ A4

追加コード(ファイル)

給紙方法

シートガイド

終了コード

基本設定 付加する 付加しない

追加コード(ファイル)

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全て付加 ・同期コード以外付加 ・付加しない 	<p>プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。</p> <p>全て付加： プリンタの初期化コードを付加します。</p> <p>付加しない： プリンタの初期化コードを付加しません。ホスト側にてプリンタを制御する場合に指定します。</p> <p>同期コード以外付加： 同期コード(FF 0D₁₆)以外のプリンタ初期化コードを付加します。全て付加を指定してプリンタ出力開始時に白紙が一枚出力される場合に指定します。</p>	全て付加
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> ・縦 ・横 	初期化コードの基本設定で全て付加または同期コード以外付加を指定した場合に、コードを生成するためのパラメータを設定します。	縦
用紙位置	<ul style="list-style-type: none"> ・中央 ・左端 		左端
用紙サイズ			A4
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES: 初期化コードの基本設定に続けて、指定した制御コードを追加出力します。(注)</p> <p>NO: 基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO
給紙方法	<ul style="list-style-type: none"> ・シートガイド ・トラクタフィーダ ・シートフィーダ 	プリンタの給紙機構を設定します。	シートガイド
終了コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・付加する ・付加しない 	<p>プリンタ出力終了時に、プリンタのバッファに残ったデータを全て出力するための制御コードを出力するかどうかを指定します。</p> <p>・付加する : プリンタの排出コードを付加します。</p> <p>・付加しない : プリンタの排出コードを付加しません。</p>	付加しない
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES: 終了コードの基本設定に続けて、指定した制御コードを追加出力します。(注)</p> <p>NO : 基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO

(注) テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。

<PC 系コード(無変換)>

詳細設定(無変換)

初期化コード

追加コード ...

終了コード

追加コード ...

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。 NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に、制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。 NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

<PC系コード(イメージ変換)>

PC系コード(イメージ変換) 詳細設定

プリンタタイプ
 ODA CENTRO

CRコード動作指定
 復帰のみ 復帰+改行

最大印字桁数 最大印字行数

バッファフル印字動作指定
 復帰のみ 復帰+改行

初期化コード
 追加コード

終了コード
 追加コード

フォント指定 OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

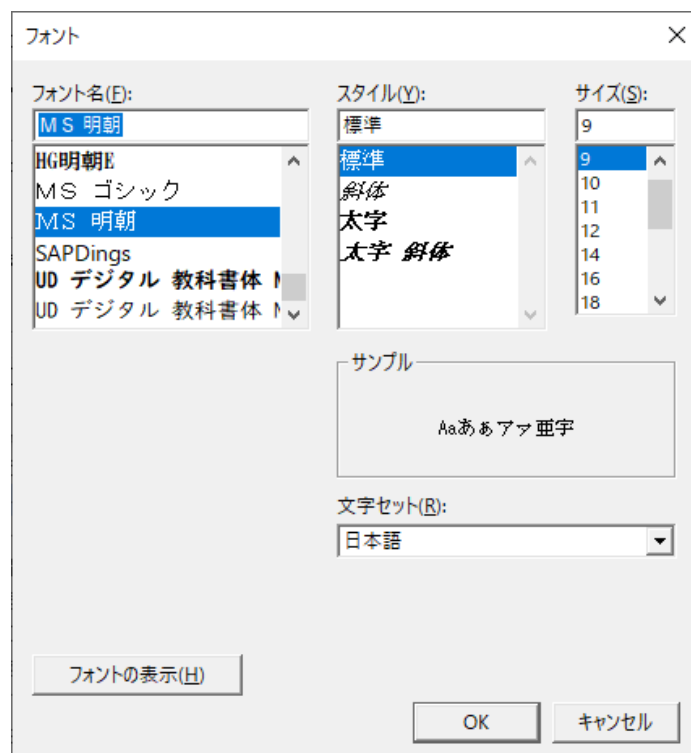
項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタタイプ	・ODA ・CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角 = 1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角 = 1:0.75:1.5	CENTRO
CRコード動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	印字データにCR(OD ₁₆)コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ : CRコード受付時、印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : CRコード受付時、印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1行の最大印字桁数を指定します。	136
最大印字行数	行数	1ページの最大印字行数を指定します。	66
バッファフル印字動作指定	・復帰のみ ・復帰+改行	1行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ : 印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : 印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰+改行
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力開始時に指定した制御コードを追加出力します。 (注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES:プリンタ出力終了時に指定した制御コードを追加出力します。 (注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。

【フォント指定】のボタンで印字に使用するフォントを指定します。

文字セットは、必ず「日本語」を指定してください。

なお、コード変換テーブルを使用する設定の場合は、コード変換テーブルで指定したフォントで印刷するため、この設定は無視されます。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	表示するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。回転特性のあるフォントは未サポートです。動作は保証していません。	M S 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・標準 ・斜体 ・太字 ・太字 斜体 	本設定は無効。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによってそれぞれ異なります。	本設定は無効。	9 (既定値は変わる場合があります)
文字セット	フォントの言語が表示されます。	必ず「日本語」を選択します。	日本語 (既定値は変わる場合があります)

4.6.9 プリンタ情報を設定する(UAパス)

UAパス使用時のプリンタ情報の設定は、DCSプリンタにて行います。
詳細は、「[第5章 UAパスプリンタ設定](#)」を参照して下さい。

4.6.10 ハードコピー機能を指定する

グラフハードコピーの倍率およびハードコピーの印字インクを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ハードコピー機能指定] メニューコマンドを選ぶ。
- ② パラメータを入力する。

[ハードコピー機能指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

ハードコピー機能指定

ハードコピー倍率指定

縦 100 % 横 100 %

ハードコピーの印字インク

モノクロ カラー

現在選択されている出力先プリンタ

未設定 プリンタ設定

通常使うプリンタを使用する

OK キャンセル ヘルプ

(注意) 出力先プリンタは指定できません。

既定値は、クライアントで指定されている通常使うプリンタとなります。

それ以外のプリンタを指定する場合は、ETOSJX を起動後に [オプション] メニューの [ハードコピー機能指定] にてプリンタを変更してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ハードコピー 倍率指定	・縦倍率 ・横倍率	ハードコピーの縦横倍率を指定します。 倍率は、フォントサイズ 10P を 100%とし、10%単位で指定します。 有効範囲は、10%～990%です。 なお、フォントの種類により指定可能なサイズが異なります。	縦 100% 横 100%
ハードコピーの印字 インク	・モノクロ ・カラー	白黒印字かカラー印字かを指定します。	モノクロ
現在選択されてい る出力先プリンタ	プリンタ名	現在選択されているプリンタを表示します。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	出力先プリンタを Windows で設定されている「通常使うプリンタ」に 出力するかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	YES

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.11 ETOSJX 起動時の表示情報を指定する

ETOSJX 起動時のウィンドウ表示位置と表示情報を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。
- ② [画面指定] メニューを選択する。
- ③ パラメータを入力する。

[画面指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

画面指定

フルスクリーン表示
 する しない

エラーメッセージウィンドウ
 表示する 表示しない

表示位置の指定
 指定する 指定しない

表示位置
x座標 y座標

サイズの指定
 指定する 指定しない

ウィンドウサイズ
 任意指定
高さ 幅
 アイコン化表示指定
 最大化表示指定

タイトルバー
 表示する 表示しない

タイトルバー表示内容
 設定しない 設定する

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フルスクリーン表示	・する ・しない	する：ETOSJX 起動時にディスプレイ全体に表示します。本機能を指定すると、ETOSJX のタイトルバーおよびメニューは表示されません。 (注 1) しない：ETOSJX をウィンドウ表示で起動します。ウィンドウ表示位置およびウィンドウサイズは、指定により異なります。	しない
エラーメッセージ ウィンドウ	・表示する ・表示しない	表示する：ETOSJX でエラーが発生した時、エラーメッセージをポップアップウィンドウで表示します。 表示しない：ETOSJX でエラーが発生しても、エラーメッセージを表示しません。(注 2)	表示する
表示位置の指定	・指定する ・指定しない	指定する：ETOSJX 起動時のウィンドウ表示位置を指定します。 指定しない：ETOSJX 起動時のウィンドウ表示位置を指定しません。 表示位置は Windows によって制御されます。	指定しない
表示位置	x 座標 y 座標	ウィンドウ表示位置を指定する時、ウィンドウの左上の座標を指定します。	x 座標：0 y 座標：0
サイズの指定	・指定する ・指定しない	ウィンドウサイズを指定するかしないかを指定します。(注 3) 指定する：ETOSJX 起動時のウィンドウサイズを指定します。 指定しない：ETOSJX 起動時のウィンドウサイズを指定しません。	指定しない
ウィンドウサイズ	・任意指定 ・アイコン化表示指定 ・最大化表示指定	ETOSJX 起動時のウィンドウの状態を指定します。 任意指定を選択した場合は、ウィンドウのサイズを指定します。(注 4)	任意指定 高さ：640 幅：400
タイトルバー	・表示する ・表示しない	ETOSJX 起動時、タイトルバーを表示するか指定します。	表示する
タイトルバー表示 内容	・設定しない ・設定する	設定しない：ETOSJX 起動時にリソース名をタイトルバーに表示します。 設定する：ETOSJX 起動時に、続くテキストボックスに入力した文字をタイトルバーに表示します。	設定しない

(注 1) ETOSJX 起動時にマウスカーソルは、画面右下へ位置付きます。

(注 2) エラーコードはステータスバーにも表示されます。エラーメッセージを表示しない場合、ETOSJX で [ヘルプ] メニューの [エラー詳細] を選択すると、エラーの内容を確認することができます。

(注 3) ウィンドウサイズは、フォント指定(可変/固定、フォントサイズ)によって異なります。可変フォントの場合、ウィンドウサイズを指定するとフォントサイズを補正して表示します。

(注 4) ETOSJX の制限(80 桁×24 行、80 桁×48 行)により、設定した値に一番近い値でウィンドウ表示します。

4.6.12 ETOSJX 起動時の画面補助機能をカスタマイズする

ETOSJX 起動時のメニュー、ステータスバー、ツールバーの表示情報を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] を選ぶ。
- ② [画面補助指定] メニューを選択する。
- ③ パラメータを入力する。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
メニュー	<ul style="list-style-type: none"> ・表示する ・表示しない 	表示する：ETOSJX 起動時にメニューを表示します。メニューの編集も可能です。 表示しない：ETOSJX 起動時にメニューを表示しません。	表示する
ステータスバー	<ul style="list-style-type: none"> ・表示する ・表示しない 	表示する：ETOSJX 起動時にステータスバーを表示します。 表示しない：ETOSJX 起動時にステータスバーを表示しません。	表示する
ツールバー	<ul style="list-style-type: none"> ・表示する ・表示しない 	表示する：ETOSJX 起動時にツールバーを表示します。表示するツールバーの編集も可能です。 表示しない：ETOSJX 起動時にツールバーを表示しません。	表示する
ボタンサイズ	<ul style="list-style-type: none"> ・小さいボタン ・大きいボタン 	ツールバーで表示するボタンのサイズを指定します。	小さいボタン
キーパッドとして使用	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES：ツールバーをポップアップウィンドウとして ETOSJX の画面から切り離して起動します。 NO：ツールバーを ETOSJX の画面にドッキングさせて起動します。	NO

④ メニューの編集を行う。

[画面補助指定] ダイアログで [メニュー編集] ボタンを選択し、パラメータを設定します。

(本画面をメニューカスタマイズ メイン画面と呼びます)

メニューのカスタマイズ			
メニュー名	表示	使用	表示メニュー
送信	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	送信 <input type="button" value="詳細"/>
セッション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	セッション <input type="button" value="詳細"/>
ファイル転送	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ファイル転送 <input type="button" value="詳細"/>
簡易操作	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	簡易操作 <input type="button" value="詳細"/>
編集	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	編集 <input type="button" value="詳細"/>
表示	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	表示 <input type="button" value="詳細"/>
マクロ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	マクロ <input type="button" value="詳細"/>
オプション	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	オプション <input type="button" value="詳細"/>
ヘルプ	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	ヘルプ <input type="button" value="詳細"/>

送信機能 既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
表示		YES : 該当するメニューを表示します。 NO : 該当するメニューを表示しません。	YES
使用	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : メニューに割り当てられた機能をメニューから選択可能とします。 なお「表示」項目で「NO」を選択した場合はここで「YES」を選択しても無効となります。 NO : メニューに割り当てられた機能をメニューから選択不可とします。	YES
表示メニュー	なし	ETOSJX のウィンドウのメニューに表示される文字列を指定します。指定できる文字の長さは最大 27 文字(半角)です。	それぞれ左端に表示されているメニュー名

[既定値] ボタンを押すと全てのパラメータが既定値にリセットされます。

[詳細] ボタンを押すと、該当メニューの下位レベルのメニューコマンドに対するカスタマイズのダイアログボックスが表示されます。メニューカスタマイズメイン画面での設定と同様にパラメータを設定してください。

送信メニューのカスタイズ1/5

メニュー名	表示	使用	表示メニュー	
PF 1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 1	詳細
PF 2	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 2	詳細
PF 3	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 3	詳細
PF 4	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 4	詳細
PF 5	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 5	詳細
PF 6	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 6	詳細
PF 7	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 7	詳細
PF 8	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 8	詳細
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		詳細

送信機能 既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

【既定値】 ボタンを押すと全てのパラメータが既定値にリセットされます。

同一レベルのメニューコマンドが多数存在する場合 【次画面】 ボタンが表示されます。

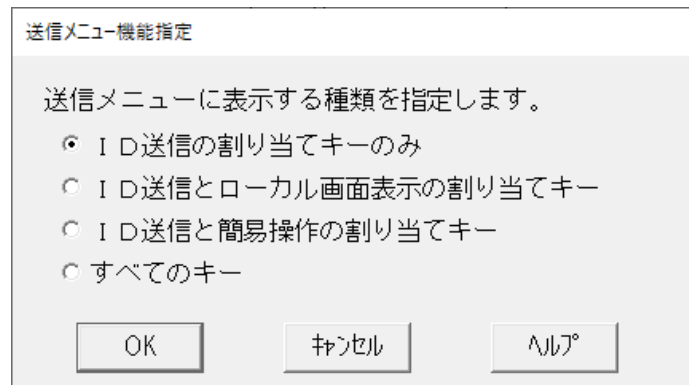
【次画面】 ボタンを押すと、次のメニューコマンド画面が表示されます。この場合、【前画面】 ボタンが表示されますので、【前画面】 ボタンを押すことにより前のメニューコマンド画面へ戻ることができます。

送信メニューのカスタイズ2/5

メニュー名	表示	使用	表示メニュー	
PF 9	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 9	詳細
PF 10	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 10	詳細
PF 11	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 11	詳細
PF 12	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 12	詳細
PF 13	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 13	詳細
PF 14	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 14	詳細
PF 15	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 15	詳細
PF 16	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	PF 16	詳細
	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		詳細

送信機能 既定値 OK キャンセル ヘルプ 前画面 次画面

メニューカスタマイズメイン画面で [送信機能] ボタンを押すと、[送信メニュー機能指定] ダイアログボックスがオープンします。



[送信メニュー機能指定] ダイアログボックスでは、送信メニューに表示する設定内容を指定します。送信メニューで表示する形式を選択し、[OK] ボタンを押してください。

メニューカスタマイズメイン画面で [OK] ボタンを押すと、設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面へ戻ります。

⑤ ツールバーを編集する。

[画面補助指定] ダイアログで [ツールバー編集] ボタンを選択し、使用するツールバーの登録/編集を行います。














- ツールバーにボタンを登録する
 - [登録一覧] の登録する位置にカーソルを合わせます。
 - [アイテム一覧] の登録するボタンにカーソルを合わせます。
 - [←挿入] ボタンを選択し、ボタンを登録します
 - ([アイテム一覧] の登録するボタンのダブルクリックでも登録できます)。
- ツールバーからボタンを削除する
 - [登録一覧] の削除する位置にカーソルを合わせます。
 - [→削除] ボタンを選択し、ボタンを削除します
 - ([登録一覧] の削除するボタンのダブルクリックでも削除できます)。
- ツールバーのボタンの位置を移動する
 - [登録一覧] の移動したいボタンにカーソルを合わせます。
 - [↑へ移動] または [↓へ移動] ボタンを選択し、ボタンを移動します。
- ツールバーの設定を既定値へ戻す
 - [既定値] ボタンを押します。

各パラメータの説明







項目名	説明
登録一覧	ツールバーで表示するボタンの一覧です。
アイテム一覧	ツールバーに登録可能なボタンの一覧です。既に登録済みのボタンは表示されません。

各アイテムの説明

ボタン	機能	既定値	
 ツールバー/キーパッド切替	登録したボタンをツールバーとして表示するか、キーパッドとして表示するかを切り替えます。	登録一覧	
 実行/送信	画面データを送信します。 (実行/送信キーと同じ動作)		
 PF1 ～  PF15	PF1～PF15 機能を実行します。 (プログラムファンクションキー(PF1～PF15)と同じ動作)		
 I  II  III	I、II、IIIキーを送信します。 (I、II、IIIキーと同じ動作)		(注1)
 マクロ実行	[マクロファイルを選択] ダイアログを表示し、ここで指定したマクロを実行します。		
 マクロ実行(記録)終了	・マクロ実行中の場合、実行中のマクロを強制終了します。 ・マクロ記録中の場合、[マクロファイルの保存] ダイアログを表示し、操作内容を保存します。		
 マクロ記録開始	マクロの記録を開始します。 このボタン押下後、マクロ記録終了ボタンを押すまでの操作が記録可能です。		
 スナップショットダンプ	スナップショットダンプを採取します。 障害発生時に資料を採取する際に使用します。		

ボタン	機 能	既定値
 PF16 ～  PF24	PF16～PF24 機能を実行します。 (プログラムファンクションキー(PF16～PF24)と同じ動作) (注 1)	アイテム一覧
 割込	COMI-2 パスのファイル転送を中断します。 (割込キーと同じ動作)	
 全項消去	全項目内の文字を消去します。 (全項消去キーと同じ動作)	
 全消去(クリア)	画面をクリアし、不定様式にします。 (全消去(クリア)キーと同じ動作)	
 項消去	項目内の文字を消去します。 (項消去キーと同じ動作)	
 チェックオフ	フィールドのチェックキーを無効にします。 (チェックオフキーと同じ動作)	
 コマンド入力	[コマンド入力] ダイアログを表示します。 (コマンド入力キーと同じ動作)	
 COPY-ID	COPY キー-ID を送信します。 (注 2)	
 HELP-ID	HELP キー-ID を送信します。 (HELP ID キーと同じ動作) (注 2)	
 STOP-ID	STOP キー-ID を送信します。 (STOP ID キーと同じ動作) (注 2)	
 DEV CANCEL	DEV CANCEL キー-ID を送信します。 (DEV CANCEL キーと同じ動作) (注 1)	
 ERASE EOF	ERASE EOF キー-ID を送信します。 (ERASE EOF キーと同じ動作) (注 1)	
 IDENT	IDENT キー-ID を送信します。 (IDENT キーと同じ動作) (注 1)	
 復改	次行以降の入力フィールドに移動します。 (復改キーと同じ動作)	
 リセット	エラー表示のリセットを行います。 (リセットキーと同じ動作)	
 再開	中断していた処理を再開します。 (再開キーと同じ動作)	
 セッション切換	[セッション切換] ダイアログを表示します。 (セッション切換キーと同じ動作) (注 1)	

ボタン	機 能	既定値
 ローカル画面表示	[ローカル画面の表示(番号指定)] ダイアログを表示し、ここで指定した番号のローカル画面を表示します。	アイテム一覧
 ハードコピー(文字)	文字のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字と同じ動作)	
 ハードコピー(すべて)	全情報のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字 + 罫線 + グラフと同じ動作)	
 ハードコピー (文字 + 罫線)	文字 + 罫線のハードコピーを取ります。 (HCOPY 文字 + 罫線と同じ動作)	
 ハードコピー(グラフ)	グラフのハードコピーを取ります。 (HCOPY グラフと同じ動作)	
 簡易操作実行	[簡易操作ファイルを選択] ダイアログを表示し、ここで指定した簡易操作を実行します。	
 簡易操作終了	簡易操作を強制終了します。	
 複写	指定範囲の文字をクリップボードへコピーします。	
 貼り付け	クリップボード上の文字を画面へ貼り付けます。[編集]メニュー [文字貼り付け]メニューコマンドの [項目] を選択した場合と同一の結果が得られます。	
 カーソル右移動	カーソルを1桁右へ移動します。 (カーソル右移動キーと同じ動作)	
 カーソル左移動	カーソルを1桁左へ移動します。 (カーソル左移動キーと同じ動作)	
 カーソル下移動	カーソルを1行下へ移動します。 (カーソル下移動キーと同じ動作)	
 カーソル上移動	カーソルを1行上へ移動します。 (カーソル上移動キーと同じ動作)	
 バックスペース	カーソル位置の1桁前の文字を削除します。 (バックスペースと同じ動作)	
 スキップ	次の入力フィールドに進みます。 (Skipと同じ動作)	
 バックスキップ	前の入力フィールドに戻ります。 (BackSkipと同じ動作)	
 挿入モード変更	挿入 / 上書きの切り替えを行います。 (挿入キーと同じ動作)	
 削除	カーソル位置の文字を1文字削除します。 (削除キーと同じ動作)	

ボタン	機能	既定値
 HOME	先頭の入力フィールドに移動します。 (カーソルホームキーと同じ動作)	アイテム一覧
 TAB	入力フィールドでの入力を終了します。 (TABと同じ動作)	
 優先機能変更	優先機能(SW 状態)を変更します。 (SW キーと同じ動作) (注3)	
 パラメータ情報保存	ETOSJX の現在の設定情報を PG ファイルに保存します。 ([Ctrl] + [S] と同じ動作)	
 パラメータ変更	[パラメータ変更] ダイアログを表示します。 (パラメータ変更キーと同じ動作)	
 強制終了	ETOSJX を強制終了します。 (プログラム終了キーと同じ動作)	

(注 1) IBM エミュレートモード時のみ使用可能か、通常と異なる機能となります。

IBM エミュレートモードについてはホスト側サポート状況等を確認してください。

(注 2) ホスト側で本 ID をサポートしているか確認が必要です。

(注 3) SW 状態は、制御領域に表示します。SW 状態による優先順位は以下の通りです。

SW 状態表示	優先順位			
表示なし	マクロ	→簡易操作	→ローカル画面	→ID 送信
SW(MET)	マクロ	→簡易操作	→ローカル画面	→ID 送信
SW(EOP)	簡易操作	→マクロ	→ローカル画面	→ID 送信
SW(GFM)	ローカル画面	→マクロ	→簡易操作	→ID 送信
SW(ID)	ID 送信	→マクロ	→簡易操作	→ローカル画面

4.6.13 表示フォントを指定する

ETOSJX ウィンドウで表示されるフォントを指定します。

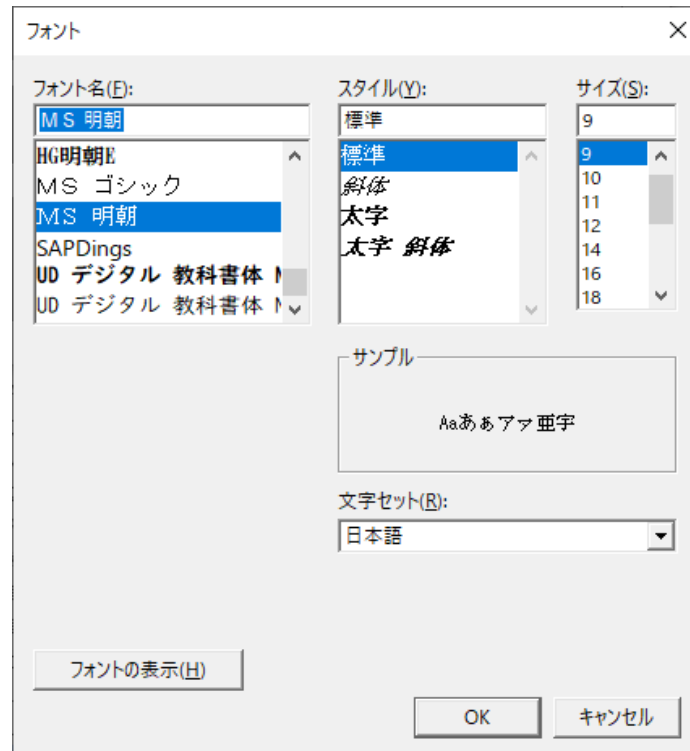
- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。
- ② 可変フォントを指定する場合には [フォント指定] メニューの可変フォントを選択する。
[可変フォント] メニューにチェックマークが付加され基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ 固定フォントを指定する場合には [フォント指定] メニューの固定フォントを選択する。
[固定フォント] メニューにチェックマークが付加され基本パラメータ入力画面に戻ります。

- ④ フォントを指定する場合には、[フォント指定] メニューの [フォントの指定] メニューを選択する。
- ⑤ パラメータを入力する。

[フォントの指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

文字セットは、必ず「日本語」を選択してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	画面表示に使用するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。回転特性のあるフォントは現在未サポートですので指定しないでください。	M S 明朝
スタイル	・標準 ・斜体 ・太字 ・太字 斜体	フォントのスタイルを指定します。斜体、太字および太字 斜体は現在未サポートで、表示は保証していません。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによってそれぞれ異なります。	フォントのサイズを指定します。既定値は変わる場合があります。	9
文字セット	フォントの言語が表示されます。	必ず「日本語」を選択します。 ※既定値は変わる場合があります。	日本語

⑥ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータが保存され基本パラメータ入力画面に戻ります。

(注意)

- ・ETOSJX は、Windows システムに組み込まれているフォントを利用しています。
- ・ETOSJX 起動時に、ETOSJX-PG で登録したフォントが Windows システム上にない場合には、システムで指定されているフォントを画面に表示します。
- ・M S 明朝および M S ゴシックのフォントは必ず必要となりますので、削除しないでください。

4.6.14 画面表示色を指定する

(1) 画面のテキストの色指定を行う

① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。

② [表示指定] メニューの [テキスト表示指定] メニューを選択する。

[テキスト表示指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
背景色	・黒	画面の背景色を指定します。	黒
罫線色	・赤	画面の罫線色を指定します。	緑
テキスト表示色	・青	テキスト表示色を指定します。	赤：赤
	・マゼンタ	ETOSJX 画面で使用するテキスト表示色を変更する場合、基本色	青：青
	・緑	7色に対してそれぞれ任意の色を指定します。	マゼンタ：マゼンタ
	・黄	テキスト表示色は、テキスト背景色とは別の色にしてください。	緑：緑
	・シアン		黄：黄
	・白		シアン：シアン
	・暗いグレー		白：白
	・暗い赤		
	・暗い青		
	・暗いマゼンタ		
	・暗い緑		
	・茶		
	・暗いシアン		
・明るいグレー			

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) ブリンク表示の指定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。
- ② [表示指定] メニューの [ブリンク表示指定] メニューを選択する。
[ブリンク表示指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

ブリンク表示指定

表示方法

- ブリンク表示
- リバース表示
- 網掛け表示

表示範囲

- フィールド全体
- 文字のみ

網掛け表示色

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
表示方法	・プリンキング表示 ・リバーズ表示 ・網掛け表示	プリンキング表示の表示方法を指定します。	網掛け表示
表示範囲	・フィールド全体 ・文字のみ	リバーズ表示、または網掛け表示を行う範囲を指定します。 文字のみを選択した場合、対象はプリンキングフィールド内の文字のみとなります(△、NULL は、対象となりません)。	フィールド全体
網掛け表示色	・黒 ・赤 ・青 ・マゼンタ ・緑 ・黄 ・シアン ・白 ・暗いグレー ・暗い赤 ・暗い青 ・暗いマゼンタ ・暗い緑 ・茶 ・暗いシアン ・明るいグレー	網掛けの色を指定します。	白

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.15 グラフの表示方法を指定する

(1) グラフの表示指定を行う

- ① [拡張パラメータ] メニューの [画面指定] メニューコマンドを選択する。
- ② [表示指定] メニューの [グラフ表示指定] メニューを選択する。
[グラフ表示指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
背景色	・黒 ・白	グラフ画面の背景色を指定します。	黒
グラフ表示色	・黒 ・赤 ・青 ・マゼンタ ・緑 ・黄 ・シアン ・白 ・暗いグレー ・暗い赤 ・暗い青 ・暗いマゼンタ ・暗い緑 ・茶 ・暗いシアン ・明るいグレー	グラフ表示色を指定します。ETOSJX 画面で使用するグラフ表示色を変更する場合、基本色 7 色に対してそれぞれ任意の色を指定します。 グラフ表示色は、グラフ背景色とは別の色にしてください。	赤：赤 青：青 マゼンタ：マゼンタ 緑：緑 黄：黄 シアン：シアン 白：白
グラフ表示モード	・精細 ・高速	グラフ描画を精細に行うか、高速に行うかを 指定します。高速モードを指定した場合、表示される線種は制限されます(代替の線で表示されます)。	高速
グラフ解像度指定	<input checked="" type="checkbox"/> :YES <input type="checkbox"/> :NO	グラフ表示時の解像度を指定します。 YES：以下のいずれかのグラフ解像度を指定します。 640×384：PC9800 DOS 互換モード 640×456：N5200/03 互換モード 1120×720：N5200/07 互換モード NO：グラフの解像度を指定しません。 Windows のディスプレイ解像度により 800×600 未満の場合は 640×384、800×600 以上の場合は 1120×720 となります。 (注)倍画面モード(ファンクションスイッチ 2-8:ON)の時は 1120×1440 固定で動作します。	NO

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.16 データ連携の区切り文字を指定する

文字列のコピー時および貼り付け時のフィールドの区切り文字を指定します。

① [拡張パラメータ] メニューの [データ連携区切り文字指定] メニューコマンドを選択する。

② パラメータを入力する。

[データ連携区切り文字指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コピー時	・TAB ・スペース ・ユーザ指定	文字列をクリップボードにコピーする時に、同一行内のフィールドの区切りとする文字を指定します。	TAB
貼り付け時	・TAB ・スペース ・ユーザ指定	項目貼り付けをする時に、クリップボード内の文字列中にあるフィールドの区切りとする文字を指定します。	TAB

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.17 入力モードを指定する

ETOSJX へ文字入力する時の、動作方法を指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [入力モード指定] メニューコマンドを選択する。
- ② パラメータを入力する。

[入力モード指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

入力モード指定

先行打鍵機能

使用する 使用しない

IME制御

かな入力指定

無効 有効

入力モード

ローマ字 かな

漢字フィールド"かな漢起動

起動する 起動しない

ひらがな

継続入力

ANKフィールド"かな漢自動終了

終了する 終了しない

混在フィールド"かな漢自動終了

終了する 終了しない

N5200系既定値 既定値 OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
先行打鍵機能	・使用する ・使用しない	使用する : 入力不可状態でキー入力されたデータを入力可能な状態まで保留します。 使用しない : 入力不可状態ではキー入力は無効です。	使用しない
IME 制御 (注 1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : カナシフト指定、入力モード、漢字フィールドかな漢起動、ANK フィールドかな漢自動終了、混在フィールドかな漢自動終了の設定を有効にします。 NO : カナシフト指定、入力モード、漢字フィールドかな漢起動、ANK フィールドかな漢自動終了、混在フィールドかな漢自動終了の設定を無効にします。	YES
カナシフト指定	・無効 ・有効	無効 : カナシフトフィールドでのカナシフトの自動制御を行いません。 (注 2) 有効 : カナシフト指定フィールドにカーソルが位置付いた場合、カナ入力モードに変更します。また、カナシフト指定以外のフィールドにカーソルが位置付いた場合、カナ入力モードを解除します。(注 3)	無効
入力モード (注 4)	・ローマ字 ・かな	ローマ字 : 入力モードをローマ字入力に変更します。 かな : 入力モードをかな入力に変更します。	ローマ字
漢字フィールド かな漢起動	・起動する ・起動しない	起動する : 漢字フィールドにカーソルが位置付いた時、日本語入力システムを起動します。 起動しない : 漢字フィールドにカーソルが位置付いても、日本語入力システムを起動しません。	起動しない
漢字フィールド かな漢起動 ・起動する	・ひらがな ・継続入力	上記で「起動する」を選択した場合、以下の設定を選択します。 ひらがな : 漢字フィールドへ位置付く毎に入力文字を「ひらがな」にします。 継続入力 : 漢字フィールドへ位置付いた際に日本語入力システムを前回と同じ状態で起動します。	継続入力
ANK フィールド かな漢自動終了	・終了する ・終了しない	終了する : 漢字フィールドでも混在フィールドでもないフィールドに位置付いた時、日本語入力システムを終了します。 終了しない : 漢字フィールドでも混在フィールドでもないフィールドに位置付いても、日本語入力システムは終了しません。	終了する
混在フィールド かな漢自動終了	・終了する ・終了しない	終了する : 混在フィールドに位置付いた時、日本語入力システムを終了します。 終了しない : 混在フィールドに位置付いても、日本語入力システムは終了しません。	終了しない

(注 1) Windows 10、Windows Server 2016、Windows Server 2019 では、ETOSJX の IME 制御を有効にすると、他のアプリケーションの IME の状態に影響することがあります。

問題がある場合は、ETOSJX の IME 制御を無効にするか、アプリケーションごとに IME の状態を保持するよう OS の設定を変更してください。

- (注2) カナシフトフィールドについては、リファレンスマニュアル「**アトリビュート文字**」のATR3(アトリビュート3)を参照してください。
- (注3) 使用する日本語入力システムによっては、自動制御できないことがあります。
- (注4) ETOSJXのIME制御を無効にした場合も、制御領域に入力モード(ローマ字/かな)が表示されますが、実際の入力モードはIMEの動作状態に依存します(表示と一致しない場合があります)。
- (注5) 「付録A 注意事項」-「文字の入力と画面表示に関する注意事項」も参照してください。

[既定値]、[N5200系既定値] ボタンを押した時、全てのパラメータが以下の既定値に設定されます。

項目名	既定値	N5200系既定値
先行打鍵機能	使用しない	使用しない
IME制御	YES	YES
カナシフト指定	無効	有効
入力モード	ローマ字	ローマ字
漢字フィールドかな漢起動	起動しない	起動する(ひらがな)
ANKフィールドかな漢自動終了	終了する	終了する
混在フィールドかな漢自動終了	終了しない	終了する

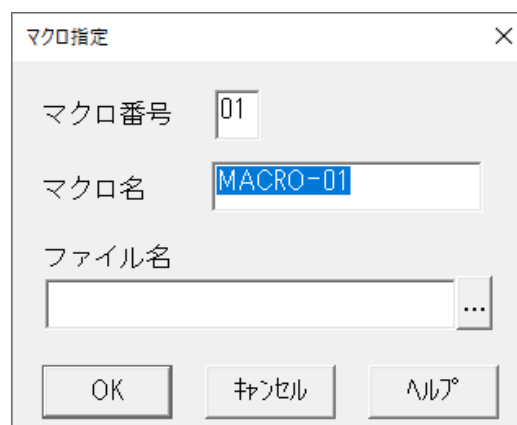
4.6.18 マクロファイルを指定する

マクロ機能のファイルの登録／削除を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [マクロ指定] メニューコマンドを選択する。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
登録されているマクロの一覧が表示されます。



- ② マクロファイルを登録する場合は、[追加] ボタンを押す。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
パラメータ入力後、[OK] ボタンを押してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
マクロ番号	なし	マクロ番号を指定します。マクロ使用時は、この番号を使用します。有効範囲は、01～25 です。	01～25
マクロ名	なし	マクロ番号に名前をつけます。マクロの名前は、16 文字まで入力できます。	MACRO-01～ MACRO-25
ファイル名	なし	マクロファイル名を指定します。	なし


- ③ マクロ設定を変更する場合は、変更するマクロ番号にカーソルを合わせて、[更新] ボタンを押す。
もしくは、変更するマクロ番号をダブルクリックする。
[マクロ指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。
- ④ 登録されているマクロを削除する場合は、削除するマクロ番号にカーソルを合わせて、[削除] ボタンもしくは Delete キーを押す。
選択されているマクロが、一覧から削除されます。
- ⑤ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。


4.6.19 ブザー鳴動を指定する

ETOSJX の使用するブザー音の設定を行います。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ブザー鳴動指定] メニューコマンドを選択する。
- ② パラメータを入力する。

[ブザー鳴動指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

また、 ボタンを押すと、ブザー音のテストが可能です。

(永久鳴動のテストを終了させるには、 ボタンを押してください。)



ブザー鳴動指定

ブザー鳴動
 行う 行わない

鳴動タイプ
 WAVE BEEP

1秒鳴動
 既定値 ユーザ指定

永久鳴動
 既定値 ユーザ指定

エラー鳴動
 既定値 ユーザ指定

入力可ブザー鳴動
 既定値 ユーザ指定

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
ブザー鳴動	・行う ・行わない	ブザー鳴動を行うかどうかを指定します。	行う
鳴動タイプ	・WAVE ・BEEP	ブザー鳴動を行う音源を指定します。 スピーカが接続されていない場合、BEEP を選択してください。	WAVE
1 秒鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	IND コマンドで 1 秒鳴動指定の場合のブザー音を指定します。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
永久鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	IND コマンドで永久鳴動指定の場合のブザー音を指定します。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
エラー鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	エラー発生時のブザー音を指定します。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値
入力可ブザー 鳴動	・既定値 ・ユーザ指定	入力可指定の画面を受信した場合のブザー音を指定します。ファンクションスイッチ 1 の BIT6 をチェックした場合のみ有効となります。 ユーザ指定を選択した場合は、任意の WAVE ファイルを指定してください。	既定値

※WAVE ファイルが使用できない環境では BEEP 以外の設定は行えません。

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.20 ETOS 制御 API 機能を指定する

ETOS 制御 API 機能を使用するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [ETOS 制御 API 指定] メニューコマンドを選択する。
- ② ETOS 制御 API 機能を使用する場合には [使用する] を選択する。
[使用する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ ETOS 制御 API 機能を使用しない場合には [使用しない] を選択する。
[使用しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.21 DCSプリンタの起動を指定する

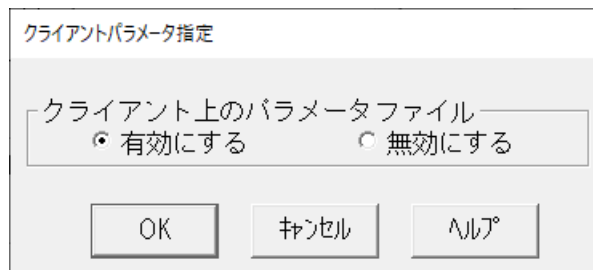
ETOSJX 起動時に DCS プリンタを起動するかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [DCS プリンタ起動指定] メニューコマンドを選択する。
- ② DCS プリンタを起動する場合には [起動する] を選択する。
[起動する] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。
- ③ DCS プリンタを起動しない場合には [起動しない] を選択する。
[起動しない] メニューにチェックマークが付加され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.6.22 クライアントパラメータを指定する

ETOSJX 起動中に設定を変更してクライアントにパラメータを保存している場合(注 1)に、そのパラメータ情報を有効にするかどうかを指定します。

- ① [拡張パラメータ] メニューの [クライアントパラメータ指定] メニューコマンドを選択する。
[クライアントパラメータ指定] ダイアログボックスがオープンします。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
クライアント上のパラメータファイル	・有効にする ・無効にする	クライアントに保存されているパラメータファイルを ETOSJX クライアント起動時に有効にするかどうかを指定します。 有効にする：クライアント上のパラメータファイルを有効にします。(注 2) 無効にする：サーバ上のパラメータファイルのみを使用します(クライアントに保存したパラメータ情報は使用しません)。	有効にする

(注 1) 保存できる情報は、ETOSJX 起動中に変更できる設定のみです。

(注 2) ETOSJX 起動中に変更できる設定は、サーバ上で PG ファイルを変更しても反映されません。

- ② [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7 リソースパラメータを入力する

リソースパラメータの設定を行います。

リソースパラメータは、[リソースパラメータ] メニューのメニューコマンドを使って設定します。

4.7.1 ローカル画面を設定する

拡張ローカル画面の使用の有無、および、ローカル画面ファイル名を指定します。

① [リソースパラメータ] メニューの [ローカル画面指定] メニューコマンドを選択する。

② パラメータを入力する。

[ローカル画面指定] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
拡張ローカル画面	・使用する ・使用しない	拡張ローカル画面の使用／不使用を指定します。	使用しない
ファイル名	なし	ローカル画面ファイルのファイル名を指定します。 指定するファイルがカレントディレクトリにない場合は、ドライブやディレクトリも指定します。ローカル画面ファイル名は 255 文字まで入力できます。	GFORM00

③ [OK] ボタンを押す。

設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.2 UAパス機能を指定する

UAパスを使用する場合の各種機能の設定を行います。

- ① [リソースパラメータ] メニューの [UAパス拡張機能] メニューコマンドを選択する。
- ② パラメータを入力する。

[UAパス拡張機能] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
DCSメッセージ機能	<ul style="list-style-type: none"> ・利用しない ・利用する ・一定時間表示 	DCS からメッセージを表示するかを指定します。 利用しない：メッセージが表示されません。 利用する：メッセージが表示されます。 一定時間表示：メッセージが一定時間表示されます。	利用しない

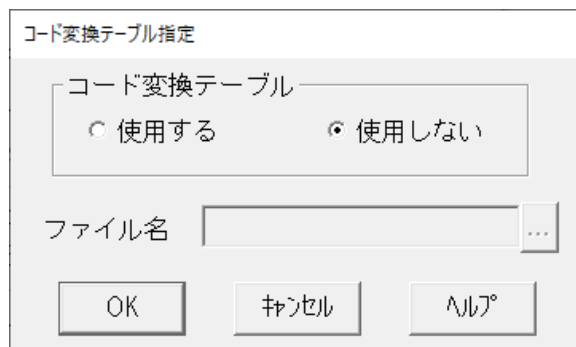
- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.3 UAパスファイル受信終了時の自動起動アプリケーションを設定する

本機能は、ETOS通信GW接続形態では使用できません。

4.7.4 コード変換テーブルを設定する

- ① リソースパラメータ] メニューの [コード変換テーブル指定] メニューコマンドを選択する。
- ② パラメータを入力する。
[コード変換テーブル指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コード変換テーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する ・使用しない 	<p>使用する：</p> <p>画面テキスト表示、グラフ文字表示、画面送信および COMI-2 ファイル転送、COMI-2 プリンタ出力におけるコード変換(JIPS\leftrightarrowシフト JIS)を、コード変換テーブルを使用していきます。本機能により、1文字単位のコードマッピングが可能となり、コード変換規則のカスタマイズが可能となります。</p> <p>使用しない：</p> <p>画面テキスト、グラフ文字表示、画面送信および、COMI-2 ファイル転送、COMI-2 プリンタ出力におけるコード変換(JIPS\leftrightarrowシフト JIS)にコード変換テーブルを使用しません。</p>	使用しない
ファイル名	なし	コード変換に使用するテーブルファイル名を指定します。テーブルファイルは、ETOSJX ユーティリティのコード変換テーブル作成ツールで作成します。	なし

(注意) コード変換テーブルについては、「[付録 C コード変換テーブル](#)」を参照してください。

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.7.5 DCSエラー鳴動を設定する

- ① [リソースパラメータ] メニューの [DCSエラー鳴動指定] メニューコマンドを選択する。
- ② パラメータを選択する。
[DCSエラー鳴動指定] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明

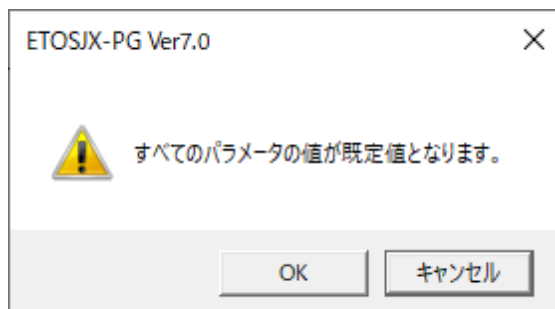
項目名	パラメータ	説明	既定値
DCSエラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> ・する ・しない 	<p>する： DCS(ローカル画面の書き込み等)でエラーが発生した場合、エラー表示と同時にブザー鳴動します。</p> <p>しない： DCS(ローカル画面の書き込み等)でエラーが発生しても、ブザー鳴動しません。</p>	しない

- ③ [OK] ボタンを押す。
設定したパラメータを保存し、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.8 全パラメータに既定値をセットする

すべてのパラメータ(基本パラメータ、拡張パラメータ、リソースパラメータ)に既定値をセットします。

- ① [ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドを選択する。
- ② 既定値をセットすることを確認するダイアログボックスがオープンする。



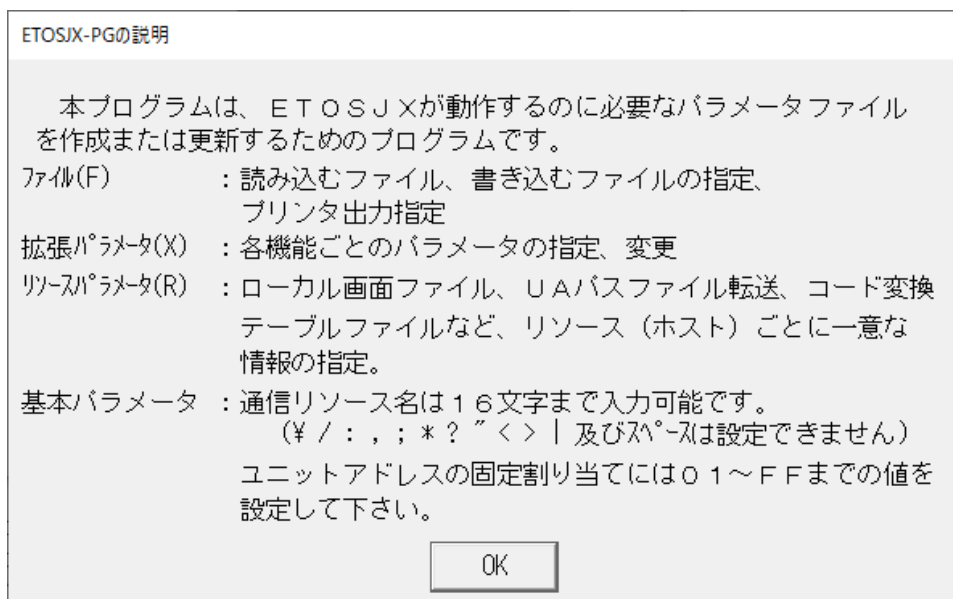
- ③ [OK] ボタンを押す。
すべてのパラメータに既定値をセットし、基本パラメータ入力画面に戻ります。

4.9 ヘルプを使う

ETOSJX-PG のバージョン情報や操作方法は、ヘルプを使って調べることができます。

(1) ETOSJX-PG の説明を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [ETOSJX-PG の説明] メニューコマンドを選択する。
- ② ETOSJX-PG の説明を確認する。
[ETOSJX-PG の説明] ダイアログボックスがオープンします。



(2) ETOSJX-PG のバージョン情報を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選択する。
- ② バージョン情報を確認する。
 [ETOSJX-PG のバージョン情報] ダイアログボックスがオープンします。
 バージョン情報を確認してください。

(3) ETOSJX-PG の操作方法を見る場合

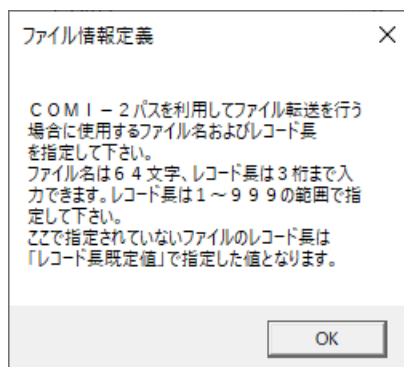
- ① 各ダイアログボックス内の [ヘルプ] ボタンを押す。

ファイル情報定義

ファイル名		レコード長		ファイル名		レコード長	
FI00		...		FI10		...	
FI01		...		FI11		...	
FI02		...		FI12		...	
FI03		...		FI13		...	
FI04		...		FI14		...	
FI05		...		FI15		...	
FI06		...		FI16		...	
FI07		...		FI17		...	
FI08		...		FI18		...	
FI09		...		FI19		...	

レコード長既定値

- ② 操作方法を確認する。
ダイアログボックスがオープンします。
操作方法を確認してください。



4.10 作成したファイルを保存する

作成したパラメータファイルを保存します。

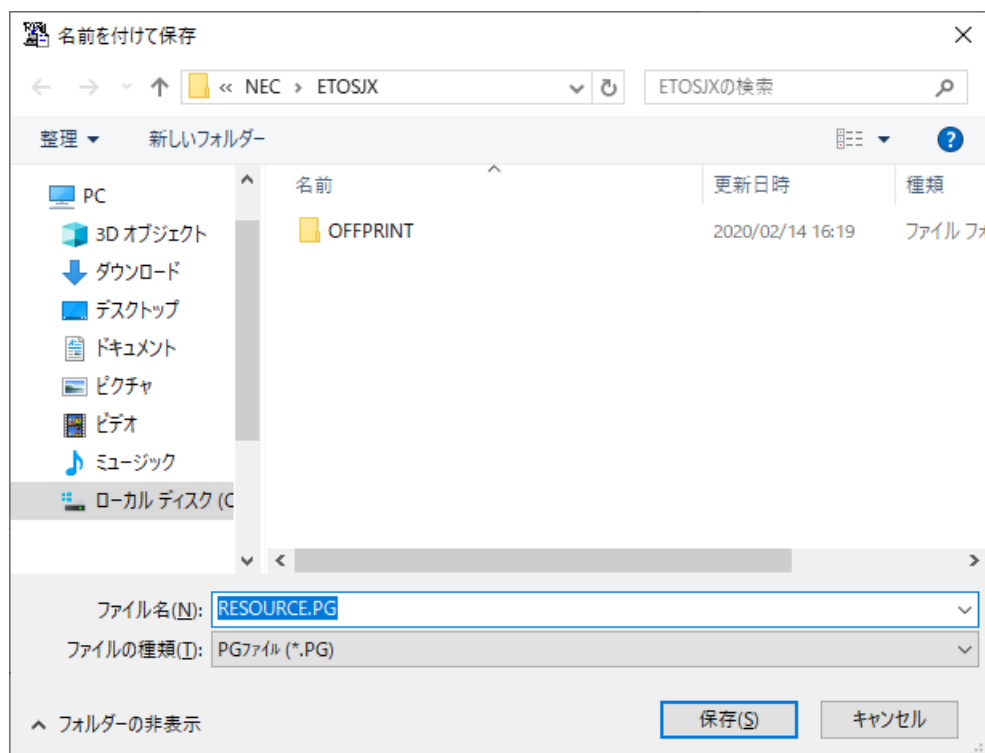
(1) 指定のファイル名で保存する

① [ファイル] メニューの [名前を付けて保存] メニューコマンドを選択する。

② 保存するファイル名を指定する。

[名前を付けて保存] ダイアログボックスがオープンします。

[ファイル名] テキストボックスに、作成または更新したパラメータを保存するパラメータファイル名を入力してください。



③ [保存] ボタンを押す。

新規作成または更新されたパラメータがパラメータファイルに保存され、基本パラメータ入力画面に戻ります。

(2) 読み込んだファイルに上書きで保存する

① [ファイル] メニューの [上書き保存] メニューコマンドを選択する。

読み込んだファイルに更新されたパラメータが保存されます。

4.11 作成したファイルを開く

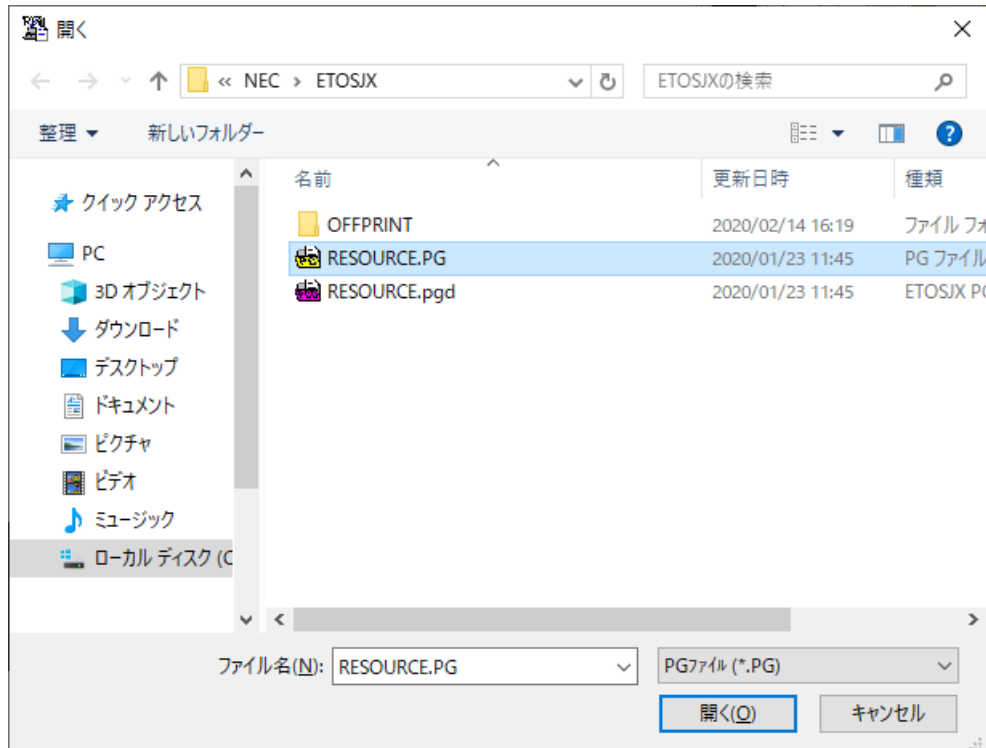
① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選択する。

② オープンするファイル名を指定する。

[開く] ダイアログボックスがオープンします。

[ファイル名] テキストボックスに、オープンするパラメータファイル名を入力します。

指定するファイル名がカレントディレクトリにない場合は、ディレクトリやドライブを [ディレクトリ] 一覧や [ドライブ] 一覧で指定します。



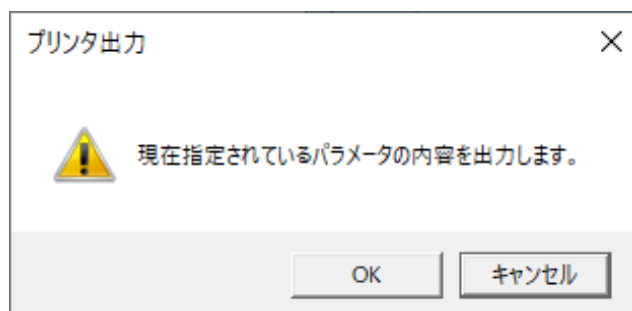
③ [開く] ボタンを押す。

ダイアログボックスが消え、指定したファイルを開きます。

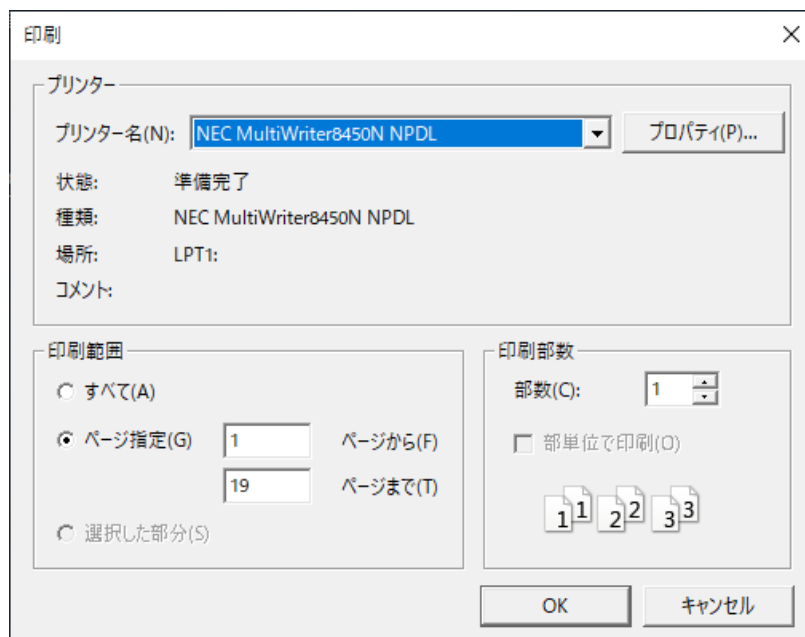
4.12 パラメータファイルを印刷する

パラメータファイルの内容をプリンタに出力します。

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを使って、印刷するパラメータファイルをオープンする。
- ② [ファイル] メニューの [プリンタ出力] メニューコマンドを選択します。
- ③ 印刷を開始することを確認するダイアログボックスがオープンする。



- ④ プリンタ名、印刷範囲および印刷部数を設定する。



- ⑤ [OK] ボタンを押す。

ダイアログボックスがクローズし、指定したプリンタからパラメータファイルの内容が印刷されます。

パラメータファイルは、次のフォーマットでプリンタに出力されます。

					Page 1
パラメータファイル名	:				resource.pg
ファイル作成日時	:				20xx年xx月xx日 xx:xx:xx
使用可能OS	:				Windows(R) Server 2019/Windows(R) 10
バージョン情報	:				ETOSJX-PG VerX.X
[基本パラメータ]					
通信リリース名	:				RESOURCE
通信形態	:				ネットワークマネージャ
初期動作モード	:				FORM
ホストコンピュータ	:				ACOS-4
エントリアドレス	:				自動割り当て
[拡張パラメータ]					
[簡易操作機能]					
コマンドファイル名	:				E52CMD
[初期動作指定]					
初期ローカル画面	:				
初期簡易操作	:				
初期マクロ	:				
[キーのカスタマイズ] 109KB					
	<単独>	<SHIFT>	<CTRL>	<SHIFT+CTRL>	
F 1	P F 1	P F 1 3	リセット	未設定	
F 2	P F 2	P F 1 4	復改	IDENT	
F 3	P F 3	P F 1 5	未設定	DEV CANCEL	
F 4	P F 4	P F 1 6	未設定	ERASE EOF	
F 5	P F 5	P F 1 7	STOP ID	チェックオフ	
F 6	P F 6	P F 1 8	HELP ID	未設定	
F 7	P F 7	P F 1 9	COPY ID	未設定	
F 8	P F 8	P F 2 0	再開	未設定	
F 9	P F 8	P F 2 1	割込	未設定	
F 1 0	P F 1 0	P F 2 2	コマンド入力	未設定	
F 1 1	P F 1 1	P F 2 3	パラメータ変更	未設定	
F 1 2	P F 1 2	P F 2 4	セッション切替	未設定	
Enter	TAB	未設定	未設定	未設定	

4.13 ファイル作成を終了する

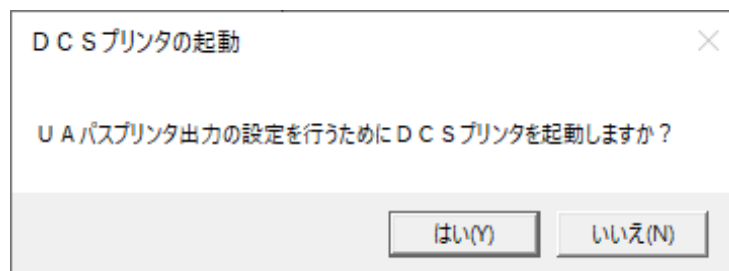
パラメータファイルの作成を終了します。

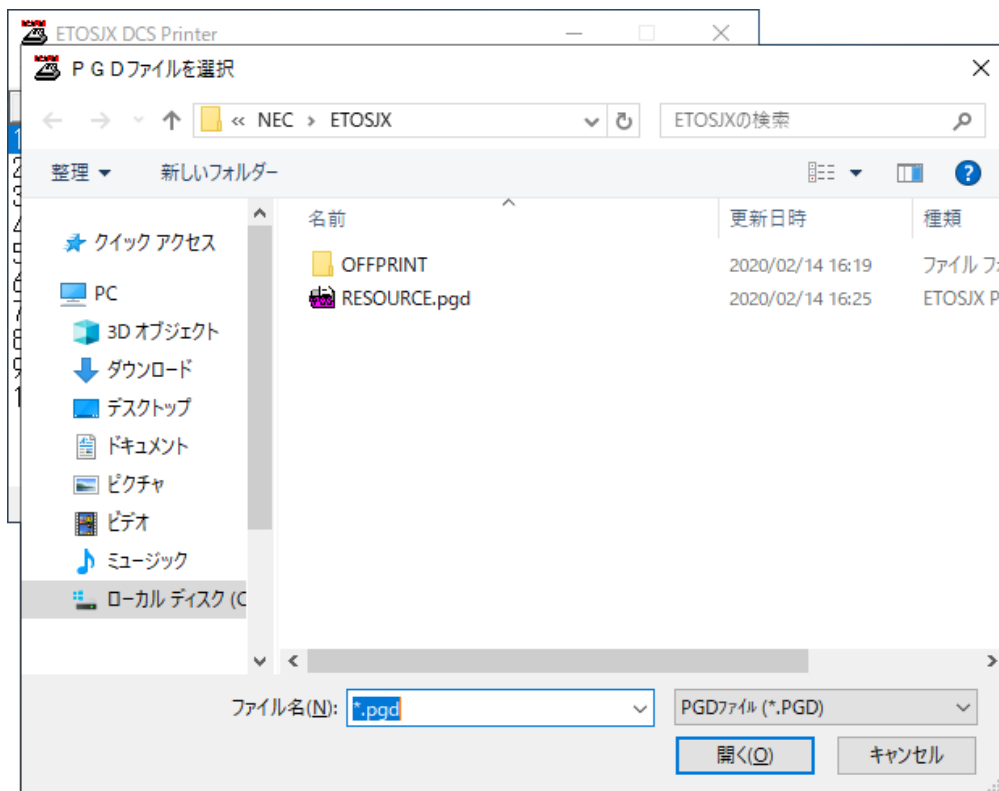
① [ファイル] メニューの [終了] メニューコマンドを選択する。

② DCS プリンタを起動するか選択する。

ETOSJX-PG でパラメータファイルを新規に作成した場合、DCS プリンタ起動を確認するダイアログボックスがオープンします。

続けて UA パスプリンタ出力の設定を行うかどうかを選択します。





(補足)

ETOSJX-PGにて、UAパス使用時のプリンタ情報を保存したファイル(PGDファイル)が、初期値の状態で作成されています(PGDファイルが既に存在する場合、新規作成は行いません)。作成したPGDファイルを選択すれば、そのままUAパス使用時のプリンタ情報の設定が可能です。

PGDファイルの詳細については、「[第5章 UAパスプリンタ設定](#)」を参照してください。

③ ETOSJX-PGを終了する。

第 5 章

UA パスプリンタ設定

- 5.1 PGD ファイルとは
- 5.2 DCS プリンタとは
- 5.3 PGD ファイルの作成手順
- 5.4 DCS プリンタを起動する
- 5.5 PGD ファイルを新規作成する
- 5.6 パラメータを設定する
- 5.7 ヘルプを使う
- 5.8 作成したファイルを保存する
- 5.9 作成したファイルを開く
- 5.10 PGD ファイルを印刷する
- 5.11 ファイル作成を終了する

第 5 章 UA パスプリンタ設定

この章では、端末システムの UA パスプリンタ出力時における使用形態の設定方法について説明します。

5.1 PGD ファイルとは

PGD ファイルとは、DCS プリンタが動作するために必要なシステム情報を格納しておくためのファイルです。PGD ファイルを作成するためには、DCS プリンタを使用します。

5.2 DCS プリンタとは

DCS プリンタとは、PGD ファイルの作成と UA パスプリンタ出力の管理を行うプログラムです。PGD ファイル作成機能は、ファイルのアロケーションを行い、PGD ファイルを作成します。また、既に作成済みのパラメータファイルの内容を更新します。UA パスプリンタ出力管理機能については、操作ガイド「**UA パスでプリンタ出力する**」を参照してください。

5.3 PGD ファイルの作成手順

PGD ファイルを、次の手順で作成します。

- ① DCS プリンタを起動する。
- ② 「新規」メニューを選択し、通信情報の設定を入力する。
DCS プリンタを動作させるために最低限必要なパラメータです。
- ③ パラメータ設定を入力する。
「プリンタ情報の設定」は、UA パスプリンタ出力を行うために必要なパラメータです。
その他の設定は、UA パスプリンタ出力の拡張機能です。
- ④ 作成した PGD ファイルを保存する。
- ⑤ DCS プリンタを終了する。

(注 1) システムのプリンタ情報を変更(ETOSJX で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など)した場合は、DCS プリンタの「プリンタ情報の設定」を再設定してください。

(注 2) PGD ファイルは、OS 毎(Windows Server 2016、Windows Server 2019)に作成してください。他 OS で作成した PGD ファイルは使用できません。
他 OS で作成したパラメータファイルを使用する場合は、PG コンバータでファイルコンバートしてご利用ください。

(注 3) 作成した PGD ファイルは、旧バージョンでは使用できません。また、旧バージョンで作成した PGD ファイルへ上書き保存すると旧バージョンで使用できなくなります。

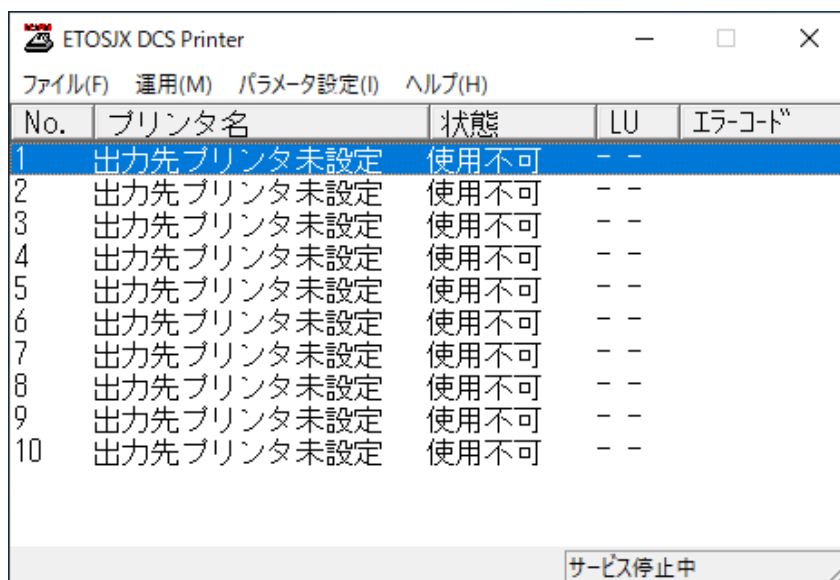
5.4 DCS プリンタを起動する

PGD ファイルを作成するために、DCS プリンタを起動します。

① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] – [DCS プリンタ] の項目を選択する。

② DCS プリンタのウィンドウがオープンする。

DCS プリンタの画面が表示されます。



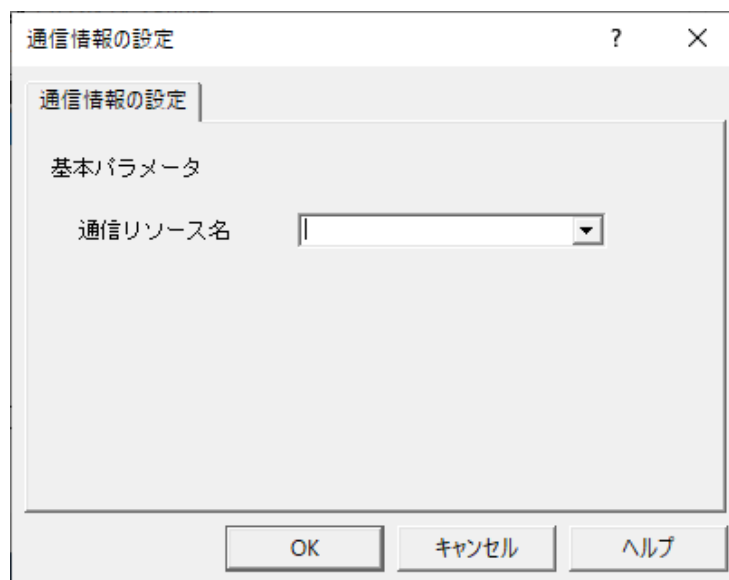
No.	プリンタ名	状態	LU	エラーコード
1	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
2	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
3	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
4	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
5	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
6	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
7	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
8	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
9	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	
10	出力先プリンタ未設定	使用不可	--	

サービス停止中

5.5 PGD ファイルを新規作成する

PGD ファイルを新しく作成します。

- ① [ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドを選択する。
[通信情報の設定] プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い、基本パラメータを入力してください。



項目名	パラメータ	説明	既定値
通信リソース名	なし	同一端末上でユニークに指定するホストの 名前です。 ネットワークマネージャで定義した通信リソース名を指定してください。 最大 16 文字まで入力可能です。	なし

5.6 パラメータを設定する

パラメータの設定を行います。

パラメータは、[パラメータ設定] メニューのメニューコマンドを使って設定します。

5.6.1 通信情報を設定する

DCS プリンタを動作させるための通信情報を設定します。

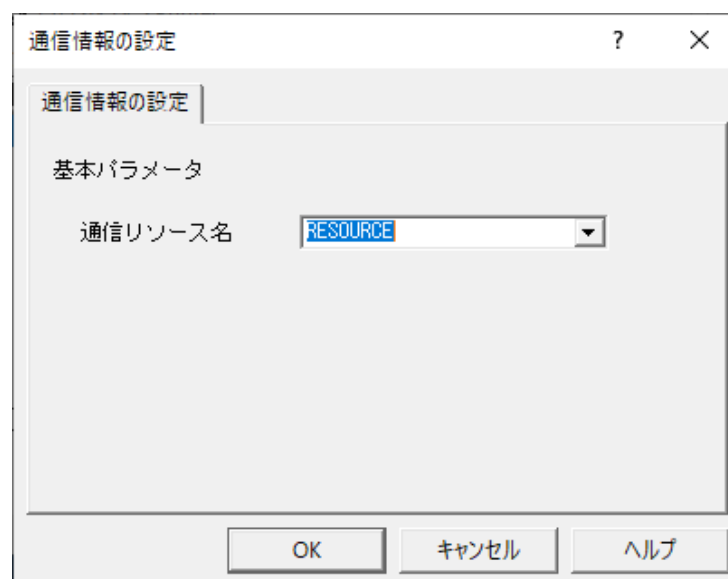
通常、通信情報の設定は、[ファイル] メニューの [新規] メニューコマンドで入力済みのため、設定し直す必要はありません。通信情報の変更が必要な場合のみ行ってください。

- ① [パラメータ設定] メニューの [通信情報の設定] メニューコマンドを選択する。

[通信情報の設定] プロパティシートがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。

各パラメータの説明は、「[5.5 PGD ファイルを新規作成する](#)」を参照してください。



5.6.2 プリンタを設定する

UA パスプリンタ出力時のプリンタの設定／変更を行います。

- ① DCS プリンタのメイン画面の設定するプリンタにカーソルを合わせる。
設定するプリンタ番号(No.)にカーソルを合わせてください。
DCS プリンタで表示しているプリンタ番号(1～10)は、ネットワークマネージャの LU 情報定義のプリンタ用 LU 番号 (PRINTER1～PRINTER10)に対応しています。
- ② [パラメータ設定] メニューの [プリンタ情報の設定] メニューコマンドを選択する。
- ③ パラメータを入力する。
[プリンタ情報の設定] プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを設定してください。

<出力先プリンタ>



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ設定	プリンタ名	印刷データを出力するプリンタを指定します。	未設定
通常使うプリンタ	<input checked="" type="checkbox"/> YES <input type="checkbox"/> NO	出力先を Windows で設定されている「通常使うプリンタ」にするかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 「プリンタ設定」で選択されているプリンタに出力します。	NO

<プリンタ言語>

プリンタ情報の設定

出力先プリンタ | プリンタ言語 | 排出方法 | ファイル出力指定

プリンタ言語

N5200系コード

PC系コード

従来変換 無変換 イメージ変換

プリンタコードチェック 詳細設定

障害通知

通知する 通知しない

すべて永久障害で通知する

MLW

使用する 使用しない

PEリトライ

使用する 使用しない

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ言語	<ul style="list-style-type: none"> ・N5200系コード ・PC系コード ・従来変換 ・無変換 ・イメージ変換 	<p>ホストから受信するプリンタ言語およびコード変換方法を指定します。</p> <p>N5200系コード：ホストから受信するデータが旧情報コードの場合指定します。</p> <p>PC系コード：ホストから受信するデータが201PLまたはNPDL2の時指定します。</p> <p>従来変換：ETOSJXで一部のホスト側制御コードを変換し、プリンタへ出力します。</p> <p>無変換：ETOSJXではデータの加工は一切行わず、プリンタへ出力します。</p> <p>イメージ変換：ETOSJXにてPC-PR201系プリンタをエミュレートし、印字イメージデータをプリンタへ出力します。</p>	従来変換
プリンタコードチェック	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>設定されているプリンタ言語で使用不可能なコードを受信した場合の動作を指定します。</p> <p>YES: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信した場合に、エラーを表示し、プリンタ出力を中止します。</p> <p>NO: 設定されているプリンタ言語では、使用不可能なコードを受信しても、エラーを表示せず、プリンタ出力を継続します。</p>	YES

項目名	パラメータ	説明	既定値
障害通知	・通知する ・通知しない	N5200 系コード選択時、プリンタの障害通知機能を選択します。 通知する：プリンタ障害発生時、ホストへ障害情報を通知します。(注) 通知しない：プリンタ障害発生時、Windows で組み込まれているプリンタスプーラに処理をまかせます。	通知する
障害通知 ・全て永久障害で通知する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	上記で「通知する」を選択時、全て永久障害で通知するか否かを選択します。 YES: 用紙切れを含む全ての障害を検出した場合、永久障害でホストへ障害通知します。 NO: 用紙切れとその他の障害を区別してホストへ障害通知します。 ただし、電源断や未接続を用紙切れで通知する場合があります。	NO
M L W	・使用する ・使用しない	用紙切れを検出した時の書き込みモードを指定します。 使用する：用紙切れ発生時もプリンタ出力が異常終了するまでプリンタ出力を行います。 使用しない：用紙切れを検出した時点でホストへ異常を通知します。	使用する
P Eリトライ	・使用する ・使用しない	用紙切れ発生時の DCS プリンタの動作を指定します。 使用する：用紙切れ発生時、DCS プリンタで用紙切れが回復するまで、プリンタ出力を保留します。 使用しない：用紙切れ発生時、ホストへ異常を通知します。	使用しない

(注) 障害通知機能を使用する場合、ETOSJX 専用プリンタを登録する必要があります。ETOSJX 専用プリンタの登録方法は、[「9.2 ETOSJX 専用プリンタ登録」](#)を参照してください。

障害通知機能は、プリンタポートに直接接続されたローカルプリンタのみ使用可能です。

ネットワークプリンタおよび USB 接続プリンタでは使用できません

PrintBridge と連携を行う場合の設定方法は、[「9.4 PrintBridge を経由して印刷する」](#)も参照してください。

<排出方法>

プリンタ情報の設定

出力先プリンタ | プリンタ言語 | 排出方法 | ファイル出力指定

排出方法

同期コード印字

プリンタ監視

監視しない 監視する 秒

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
同期コード印字 (注 1)	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : 同期コード(00 ₁₆ の単一テキスト)をホストから受け付けた時に、プリンタをクローズします(印刷を開始します)。 NO: 同期コード(00 ₁₆ の単一テキスト)を、そのままプリンタに出力します。	NO
プリンタ監視	・監視しない ・監視する	UA パスでのプリンタ出力をタイマ監視するか指定します。 監視しない : プリンタをオープン後、DCS プリンタを終了するまで、クローズを行いません。(注 2) 監視する : プリンタ監視時間を指定して下さい。指定したプリンタ監視時間を経過してもテキストを受信しなければプリンタをクローズします。 プリンタ監視時間の有効範囲は、1~9999 秒です。(注 3)	10 秒

(注 1) N5200 系コード詳細設定のプロパティ内にある「連続する同期コード」指定とは無関係です。

(注 2) プリンタ監視しない設定は、N5200 系コード(障害通知する)の場合のみ使用して下さい。それ以外の設定で使用した場合、ETOSJX(DCS プリンタ)を終了するまで、印刷が開始されない場合があります。

(注 3) ホストからの印刷データが終了しても、この指定時間だけ待ってから印刷を開始します。

N5200 系コードの場合、プリンタ監視時間経過後および印刷開始時にプリンタ装置のリセット、用紙長の再設定(シリアルプリンタのみ)を行うため、極端に小さい値を設定するとプリンタ性能の低下やページずれが発生する恐れがあります。業務ごとに適切な値を設定してください。

<ファイル出力指定>

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタデータの出力先	・プリンタ ・ファイル	プリンタ：ホストから受信したデータを、プリンタへ出力します。 ファイル：ホストから受信したデータを、ファイルへ出力します。出力されたファイルは、オフライン印刷ユーティリティにて使用することができます。また、プレビュー設定で、オフライン印刷ユーティリティのプレビュー表示時の動作を指定することができます。	プリンタ
CR コード動作指定	・復帰のみ ・復帰 + 改行	印字データで CR(OD ₁₆)コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰 + 改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1 行の最大印字桁数を指定します。 有効範囲は、1～200 桁です。	136
最大印字行数	行数	1 ページの最大印字行数を指定します。 有効範囲は、1～128 行です。	66
バッファフル印字動作指定	・復帰のみ ・復帰 + 改行	1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰 + 改行：印字位置を行の先頭へ移動し改行します。	復帰 + 改行

④ 詳細設定を行う。

[プリンタ情報の設定] プロパティシートで [詳細設定] ボタンを選択し、コード変換パラメータを設定します。
表示されるダイアログボックスは、プリンタ言語、および印字方法によって異なります。

<N5200 系コード>

<基本設定>

The screenshot shows a dialog box titled "N5200系コード 詳細設定" with a "基本設定" tab selected. The dialog contains the following settings:

- プリンタ機種名:** A dropdown menu.
- 初期化コード:** Radio buttons for 出力する and 出力しない.
- 印字方向:** Radio buttons for ポートレト and ライトスケープ.
- 用紙位置:** Radio buttons for 中央 and 左端.
- 外字:** Radio buttons for Windows標準外字 and 移行外字.
- 用紙サイズ:** A dropdown menu.
- 給紙方法:** A dropdown menu.
- 1ページの行数:** A numeric spinner set to 66.
- 自動復帰改行:** Radio buttons for 復帰改行 and 復帰のみ.
- 連続する同期コード:** Radio buttons for 1個に置換 and そのまま.

Buttons at the bottom: OK, キャンセル, ヘルプ.

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタ機種名	プリンタ型番	リストから使用する PC-PTOS 対応プリンタを指定します。(注 1)	なし
初期化コード	・出力する ・出力しない	プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。 通常は出力するを指定し、ホスト側でプリンタを制御する場合に出力しないを指定します。	出力する
印字方向	・ポートレート ・ランドスケープ	用紙の印字方向を指定します。(注 2)	ポートレート
用紙位置	・中央 ・左端	用紙の位置を指定します。(注 2)	左端
用紙サイズ		用紙サイズを指定します。(注 2)	
給紙方法		給紙方法を指定します。(注 2)	
外字	・Windows 標準外字 ・移行外字	N5200 系コード印刷で使用する外字を指定します。移行外字は、PTOS/A-VX5 の外字を「日本語文字拡張セット」を使用して変換したものです。(注 3)	Windows 標準外字
1 ページの行数	行数	1 ページの行数を指定します。 本指定は、シリアルプリンタ使用時のみ有効となります。	66
自動復帰改行	・復帰改行 ・復帰のみ	帳票印刷時、1 行分の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰改行：印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。 復帰のみ：印字位置を行の先頭へ移動します。	復帰のみ
連続する同期コード	・1 個に置換 ・そのまま	印字データに連続する同期コード(00 ₁₆)が存在する場合の動作を指定します。 1 個に置換：ホストから受信した連続する同期コードを 1 個にまとめて出力します。大量の同期コードが原因で、印字速度が遅い場合に指定してください。 そのまま：ホストから受信した同期コードをすべてプリンタへ出力します。	そのまま

(注 1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 サーバに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能であり、PC には接続できません。

(注 2) シリアルプリンタの場合、印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法のパラメータは、レフトマージンを求めるための指定となります。従って、この設定によって、プリンタ本体の印字方向や用紙位置、用紙サイズ、給紙方法を変更することはできません。

プリンタ本体の設定を変更するには、ホストよりデータとして制御コードを送るか、追加コードの指定機能によって制御コードを出力するようにしてください。

(注 3) 移行外字を選択した場合、コード変換テーブルは有効となりません。

※PrintBridge や BizReporting と連携を行う場合の設定方法は、「[9.4 PrintBridge を経由して印刷する](#)」、[9.5 BizReporting を経由して印刷する](#)」も参照してください。

<追加コード>

The screenshot shows a dialog box titled "N5200系コード 詳細設定" with a "追加コード" tab selected. Under "初期化コード", there is a checkbox labeled "追加コード (ファイル)" and an empty text input field with a browse button "...". A similar setup is present under "終了コード". At the bottom, there are "OK", "キャンセル", and "ヘルプ" buttons.

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) 追加コードは N5200 系制御コードで記述してください。

また、追加コードファイルのファイルサイズは、最大 512 バイトです。

<PC系コード(従来変換)>

PC系コード(従来変換)詳細設定

PC系コード(従来変換)詳細設定

201データ

プリンタ言語

201PL NPDL2

プリンタタイプ

ODA CENTRO

外字変換方法

ドットイメージ タウコード文字

縦罫線変換方法

ドットイメージ 縦罫線コード

コード設定

フォームデータ

プリンタ言語

201PL NPDL2

外字変換方法

ドットイメージ タウコード文字

縦罫線変換方法

ドットイメージ 縦罫線コード

出力先プリンタ

プリンタ設定

通常使うプリンタを使用する

フォームファイル格納ディレクトリ

...

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
201 データ ・ プリント言語	・ 201PL ・ NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	201PL
201 データ ・ プリントタイプ	・ ODA ・ CENTRO	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角 = 1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角 = 1:0.75:1.5	ODA
201 データ ・ 外字変換方法	・ ドットイメージ ・ ダウンロード文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ : 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字 : プリントに外字を登録後、印字します。(注 1)	ドットイメージ
201 データ ・ 縦罫線変換方法	・ ドットイメージ ・ 縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ : 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で 1 ドット占有します。 縦罫線コード : 縦罫線コード(FS ;)に変換して出力します。(注 2)	ドットイメージ
フォームデータ ・ プリント言語	・ 201PL ・ NPDL2	ホスト側で作成した印字データのプリンタ言語を指定します。	NPDL2
フォームデータ ・ 外字変換方法	・ ドットイメージ ・ ダウンロード文字	外字を印字する際の出力方法を指定します。 ドットイメージ : 外字をドット列で印字します。 ダウンロード文字 : プリントに外字を登録後、印字します。(注 1)	ドットイメージ
フォームデータ ・ 縦罫線変換方法	・ ドットイメージ ・ 縦罫線コード	縦罫線コードの変換方法を指定します。 ドットイメージ : 縦罫線をドット列で印字します。このため、縦罫線で 1 ドット占有します。 縦罫線コード : 縦罫線コード(FS ;)に変換して出力します。(注 2)	ドットイメージ
プリンタ設定	プリンタ名	フォーム印刷データを出力するプリンタを指定します。	未設定
通常使うプリンタ を使用する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	出力先を Windows で設定されている「通常使うプリンタ」にするかどうか指定します。 YES : Windows で指定された「通常使うプリンタ」に出力します。 NO : 現在選択されているプリンタに出力します。	NO
フォームファイル 格納ディレクトリ		フォームファイルを格納しているディレクトリを指定します。	なし

(注 1) プリントの外字領域 7620₁₆を使用します。

(注 2) 縦罫線コードは、プリンタによってサポートされていない場合があります。

[コード設定] のボタンで初期化コード/終了コードを指定します。

コード設定

コード設定

初期化コード

基本設定 全て付加 同期コード以外付加 付加しない

付加する場合の設定

印字方向 縦 横

用紙位置 中央 左端

用紙サイズ A4

追加コード (ファイル)

給紙方法

シートガイド

終了コード

基本設定 付加する 付加しない

追加コード (ファイル)

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・全て付加 ・同期コード以外付加 ・付加しない 	<p>プリンタ出力開始時にプリンタの初期化を行うかを指定します。</p> <p>全て付加：プリンタの初期化コードを付加します。</p> <p>付加しない：プリンタの初期化コードを付加しません。ホスト側にてプリンタを制御する場合に指定します。</p> <p>同期コード以外付加：同期コード(FF 0D₁₆)以外のプリンタ初期化コードを付加します。全て付加を指定してプリンタ出力開始時に白紙が一枚出力される場合に指定します。</p>	全て付加
印字方向	<ul style="list-style-type: none"> ・縦 ・横 	初期化コードの基本設定で全て付加または同期コード以外付加を指定した場合に、コードを生成するためのパラメータを設定します。	縦
用紙位置	<ul style="list-style-type: none"> ・中央 ・左端 		左端
用紙サイズ			A4
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES:初期化コードの基本設定に続けて、指定した制御コードを追加出力します。(注)</p> <p>NO:基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO
給紙方法	<ul style="list-style-type: none"> ・シートガイド ・トラクタフィーダ ・シートフィーダ 	プリンタの給紙機構を設定します。	シートガイド
終了コード ・基本設定	<ul style="list-style-type: none"> ・付加する ・付加しない 	<p>プリンタ出力終了時に、プリンタのバッファに残ったデータを全て出力するための制御コードを出力するかどうかを指定します。</p> <p>付加する：プリンタの排出コードを付加します。</p> <p>付加しない：プリンタの排出コードを付加しません。</p>	付加しない
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	<p>YES:終了コードの基本設定に続けて、指定した制御コードを追加出力します。(注)</p> <p>NO:基本設定をそのまま初期化コードにします。</p>	NO

(注) テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。

<PC 系コード(無変換)>

PC系コード(無変換)詳細設定

初期化コード

追加コード (ファイル)

終了コード

追加コード (ファイル)

OK キャンセル ヘルプ

各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
初期化コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。 NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード ・追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に制御コードを追加出力します。テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。 NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

<PC 系コード(イメージ変換)>

各パラメータの説明

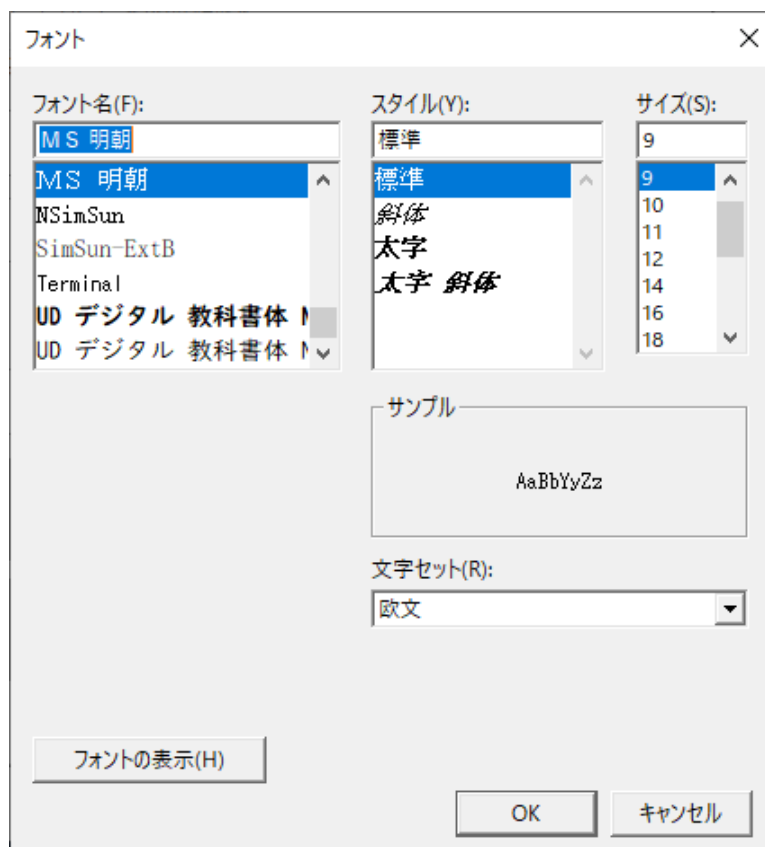
項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタタイプ	<ul style="list-style-type: none"> ODA CENTRO 	プリンタの出力タイプを指定します。 ODA : ANK:半角:全角 = 1:1:2 CENTRO : ANK:半角:全角 = 1:0.75:1.5	CENTRO
CR コード動作指定	<ul style="list-style-type: none"> 復帰のみ 復帰+改行 	印字データに CR(OD ₁₆)コードが指定された場合の動作を指定します。 復帰のみ : CR コード受付時、印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : CR コード受付時、印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰のみ
最大印字桁数	桁数	1 行の最大印字桁数を指定します。	136
最大印字行数	行数	1 ページの最大印字行数を指定します。	66
バッファフル印字動作指定	<ul style="list-style-type: none"> 復帰のみ 復帰+改行 	1 行の印字データが最大印字桁数を越えた場合の動作を指定します。 復帰のみ : 印字位置を行の先頭へ移動します。 復帰+改行 : 印字位置を行の先頭へ移動し、改行します。	復帰+改行
初期化コード追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力開始時に指定した制御コードを追加出力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO
終了コード追加コード	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES: プリンタ出力終了時に指定した制御コードを追加出力します。(注) NO: 制御コードを追加出力しません。	NO

(注) テキストボックスに、制御コードを記述したテキストファイル名を入力します。

【フォント指定】のボタンで印字に使用するフォントを指定します。

文字セットは、必ず「日本語」を指定してください。

なお、コード変換テーブルを使用する設定の場合は、コード変換テーブルで指定したフォントで印刷するため、この設定は無視されます。

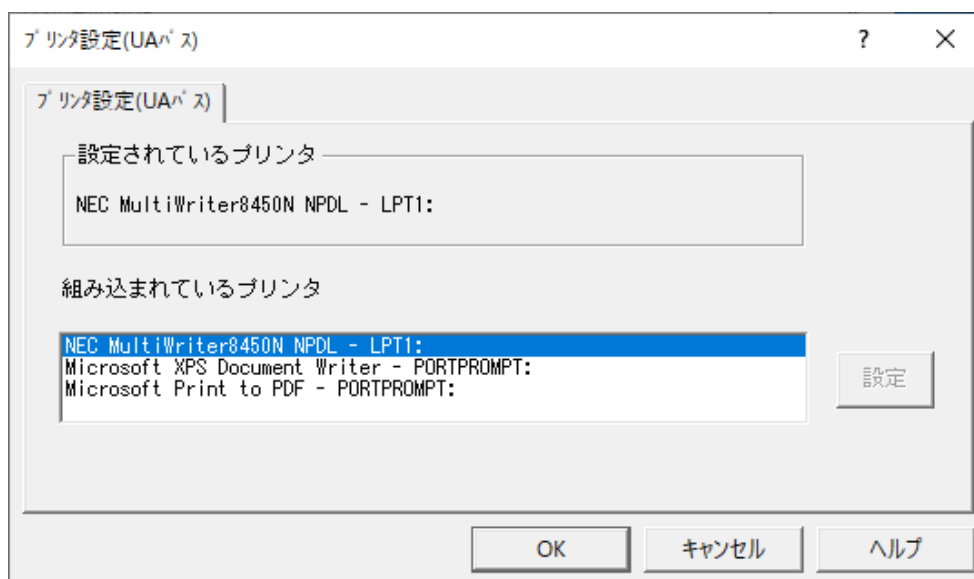


各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
フォント名	Windows で組み込んだフォント名がパラメータとして表示されます。	表示するフォント名を指定します。新しいフォントを選ぶと [サンプル] 欄にそのフォントが表示されます。回転特性のあるフォントは未サポートです。動作は保証していません。	MS 明朝
スタイル	<ul style="list-style-type: none"> ・標準 ・斜体 ・太字 ・太字 斜体 	本設定は無効。	標準
サイズ	フォントサイズのパラメータは、フォントによってそれぞれ異なります。	本設定は無効。	9 (既定値は変わる場合があります)
文字セット	フォントの言語が表示されます。	必ず「日本語」を選択します。	日本語 (既定値は変わる場合があります)

⑤ プリンタの設定を行う。

[プリンタ情報の設定] プロパティシートで [プリンタ設定] ボタンを選択し、パラメータを設定します。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
設定されているプリンタ	プリンタ名	現在設定されているプリンタを表示します。(注)	現在設定されているプリンタ
組み込まれているプリンタ	プリンタ名	現在、Windows に組み込まれているプリンタの一覧が表示されます。プリンタを指定すると設定されているプリンタの表示が変更できます。	なし

(注) 設定可能なプリンタは、[プリンタ言語] の指定により異なります。

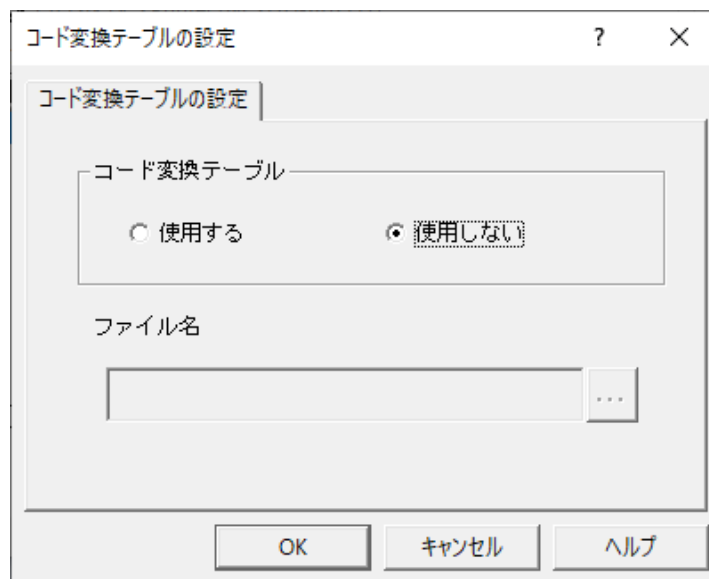
	PC 系コード			N5200 系コード
	従来変換	無変換	イメージ変換	
プリンタ名	201PL または NPDL2 に対応したプリンタ	Windows で利用可能なプリンタ	Windows で利用可能なプリンタ	PC-PTOS 対応プリンタ

イメージ変換の場合、[設定] ボタンを選択し、プリンタドライバ固有の情報を設定してください。

5.6.3 コード変換テーブルを使用する

ホストから受信した 2 バイトコードを任意の 2 バイトコードに変換するための設定を行います。

- ① [パラメータ設定] メニューの [コード変換テーブルの設定] メニューコマンドを選択する。
[コード変換テーブルの設定] プロパティシートがオープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
コード変換 テーブル	<ul style="list-style-type: none"> ・使用する ・使用しない 	<p>使用する：UA パスプリンタ出力におけるコード変換を、コード変換テーブルを使用して行います。本機能により、1 文字単位のコードマッピングが可能となり、コード変換規則のカスタマイズが可能となります。</p> <p>使用しない：UA パスプリンタ出力におけるコード変換にコード変換テーブルを使用しません。</p>	使用しない
ファイル名	なし	コード変換に使用するテーブルファイル名を指定します。テーブルファイルは、ETOSJX ユーティリティのコード変換テーブル作成ツールで作成します。	なし

(注意) コード変換テーブルについては、「[付録 C コード変換テーブル](#)」を参照してください。

- ③ [OK]ボタンを押す。
設定したパラメータ保持し。メイン画面に戻ります。

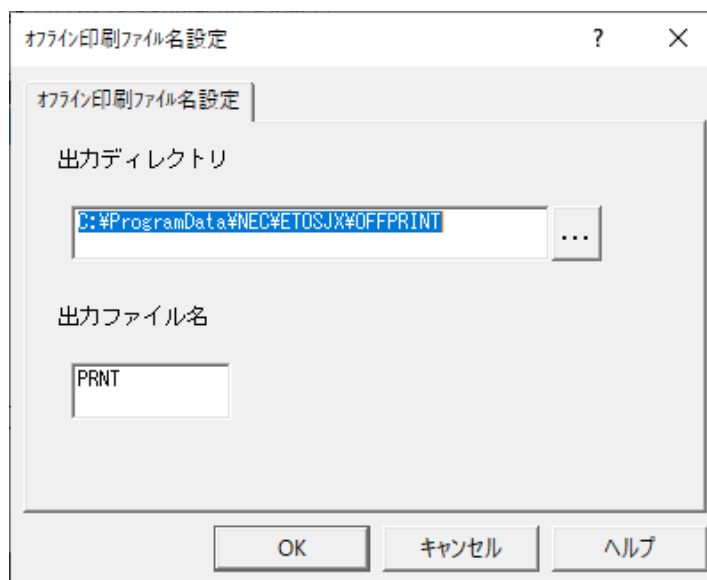
5.6.4 オフライン印刷ファイルの出力先を指定する

UA パスプリンタ印刷データの出力先を「ファイルへ出力」にした場合の出力先ディレクトリおよびファイル名を指定します。

① [パラメータ設定] メニューの [オフライン印刷ファイルの設定] メニューコマンドを選択する。

② パラメータを入力する。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
出力ディレクトリ	なし	ホストから受信した印刷データを、オフライン印刷データファイルとして保存するディレクトリを指定します。	C:\ProgramData\NEC\ETOSJX\OFFPRINT
出力ファイル名	なし	ホストから受信した印刷データを、オフライン印刷データファイルとして保存する際のファイル名を指定します。 実際に、オフライン印刷データをファイルへ出力する際は、指定したファイル名 + 連番 4 桁となります(拡張子 ETP)。	PRNT

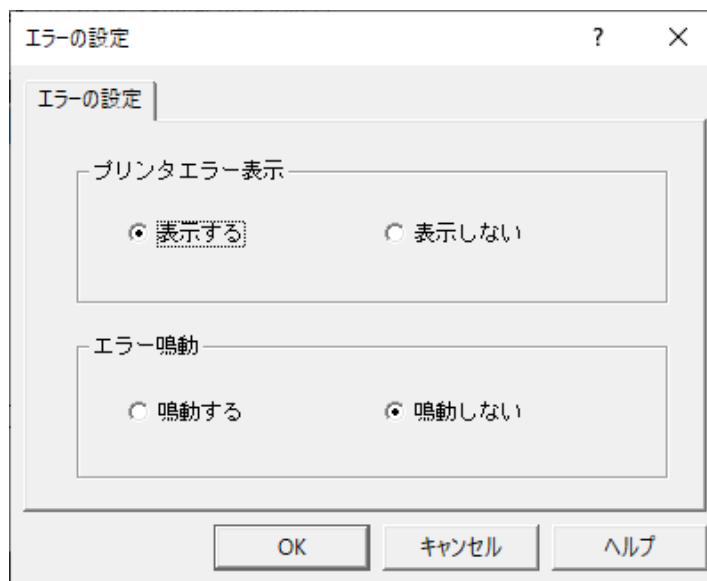
③ [OK]ボタンを押す。

設定したパラメータ保持し。メイン画面に戻ります。

5.6.5 エラー発生時の動作を指定する

UA パスプリンタ出力実行中に、エラーが発生した場合の動作を指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [エラーの設定] メニューコマンドを選択する。
[エラーの設定] プロパティシートがオープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
プリンタエラー表示	<ul style="list-style-type: none"> •表示する •表示しない 	表示する：UA パスプリンタ出力中にエラーが発生した場合、エラーメッセージをポップアップウィンドウで表示します。 表示しない：UA パスプリンタ出力中にエラーが発生しても、エラーメッセージを表示しません。(注)	表示する
エラー鳴動	<ul style="list-style-type: none"> •鳴動する •鳴動しない 	鳴動する：UA パスプリンタ出力中にエラーが発生した場合、エラー鳴動します。 鳴動しない：UA パスプリンタ出力中にエラーが発生しても、エラー鳴動しません。	鳴動しない

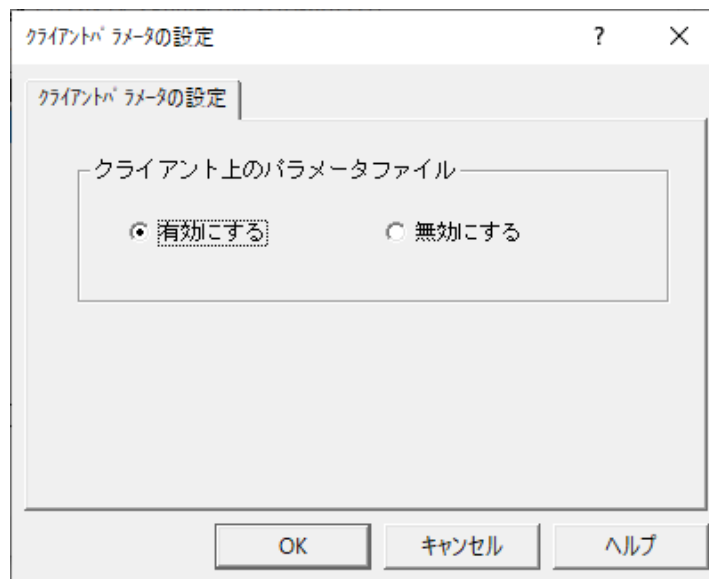
(注) エラーコードはメイン画面にもプリンタ毎に表示されます。エラーメッセージを表示しない場合、DCS プリンタのエラーの発生したプリンタにカーソルを合わせ、[ヘルプ] メニューの [エラー詳細] メニューコマンドを選ぶと、エラーの内容を確認することができます。

- ③ [OK]ボタンを押す。
設定したパラメータ保持し。メイン画面に戻ります。

5.6.6 クライアントパラメータの設定

UA パスプリンタサービス起動中に設定を変更してクライアントにパラメータを保存している場合(注 1)に、そのパラメータ情報を有効にするかどうかを指定します。

- ① [パラメータ設定] メニューの [クライアントパラメータの設定] メニューコマンドを選択する。
[クライアントパラメータの設定] プロパティシートがオープンします。
- ② パラメータを入力する。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力してください。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
クライアント上のパラメータファイル	<ul style="list-style-type: none"> ・有効にする ・無効にする 	<p>有効にする：クライアント上のパラメータファイル(*.PGR)を有効にします。(注 2)</p> <p>無効にする：サーバ上のパラメータファイルのみを使用します(クライアントに保存したパラメータ情報は使用しません)。</p>	有効にする

(注 1) 保存できる情報は、プリンタサービス起動中に変更できる設定のみです。

(注 2) プリンタサービス起動中に変更できる設定は、サーバ上で PGD ファイルを変更しても反映されません。

- ③ [OK]ボタンを押す。
設定したパラメータ保持し。メイン画面に戻ります。

5.7 ヘルプを使う

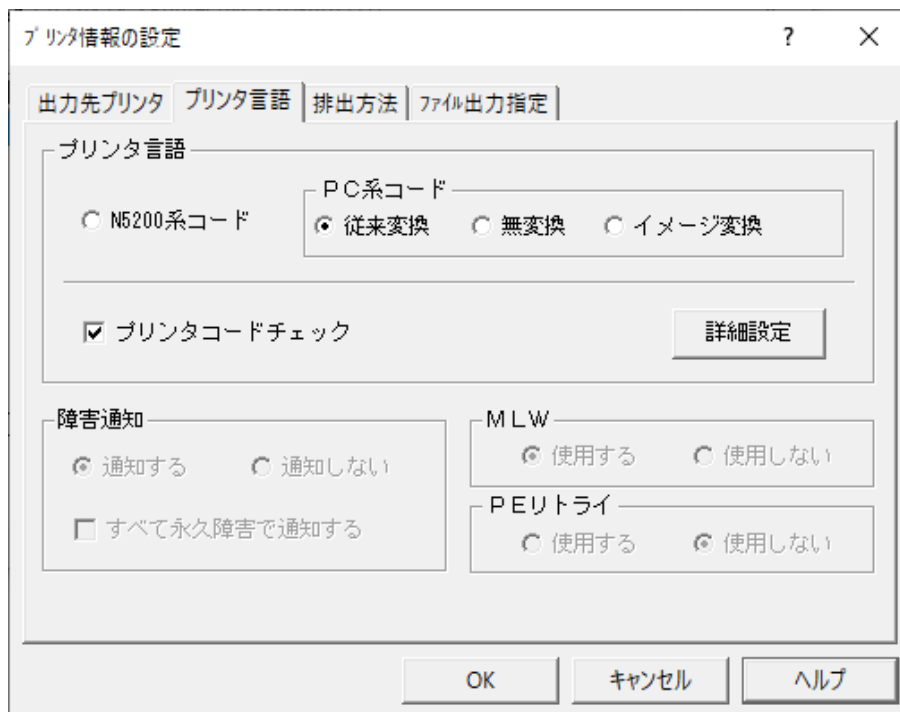
DCS プリンタのバージョンや表示方法は、ヘルプを使って調べることができます。

(1) DCS プリンタのバージョン情報を見る場合

- ① [ヘルプ] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選択する。
- ② バージョン情報を確認する。
[DCS プリンタのバージョン情報] ダイアログがオープンします。
バージョン情報を確認してください。

(2) DCS プリンタの設定方法を見る場合

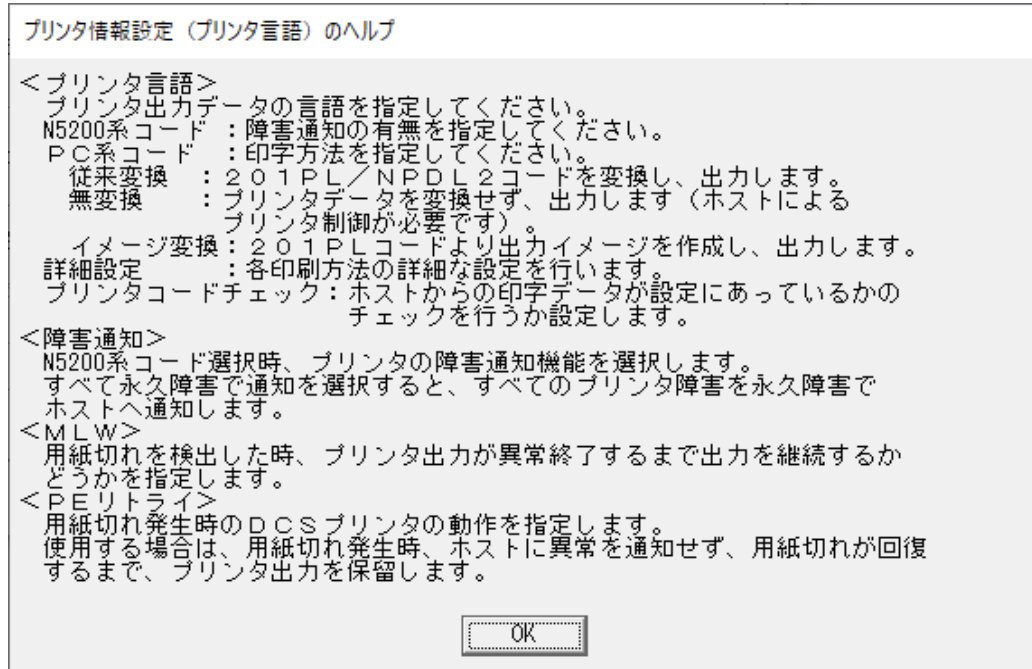
- ① 各プロパティシート内の [ヘルプ] ボタンを押す。



②設定方法を確認する。

各プロパティシートの設定方法を示したダイアログボックスがオープンします。

設定方法を確認してください。



※上記の例は、[プリンタ情報の設定] で [プリンタ言語] のタブが表示されている場合に表示する内容です。

5.8 作成したファイルを保存する

作成した PGD ファイルを保存します。

(1) ディレクトリを指定して、PGD ファイルを保存する

- ① [ファイル] メニューの [保存] メニューコマンドを選択する。
- ② 保存ファイル名を確認する。

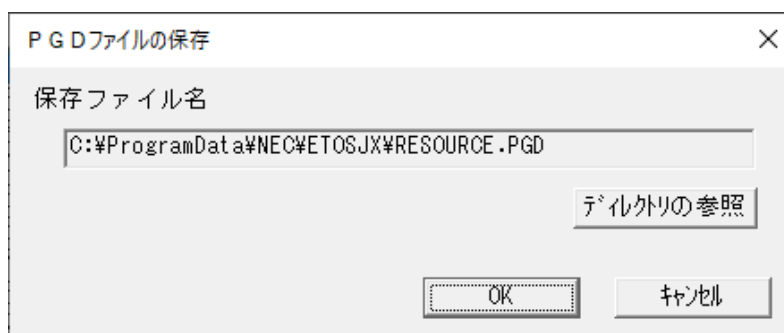
[PGD ファイルの保存] ダイアログボックスがオープンします。

新規作成または更新した設定情報を保存するファイル名を確認してください。

保存するディレクトリを変更する場合は、[ディレクトリの参照] ボタンを押して、ディレクトリを変更してください。

(注意)

PGD ファイルは、通信リソース毎に作成するファイルであるため、ファイル名は、通信リソース名 + 拡張子 (PGD) 固定となっています。PGD ファイル名を変更することはできません。



- ③ [OK] ボタンを押す。

新規作成または更新した設定情報が PGD ファイルに保存され、メイン画面に戻ります。

(2) 読み込んだファイルに上書きで保存する

- ① [ファイル] メニューの [上書き保存] メニューコマンドを選択する。
読み込んだファイルに更新された設定情報が保存されます。

5.9 作成したファイルを開く

① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選択する。

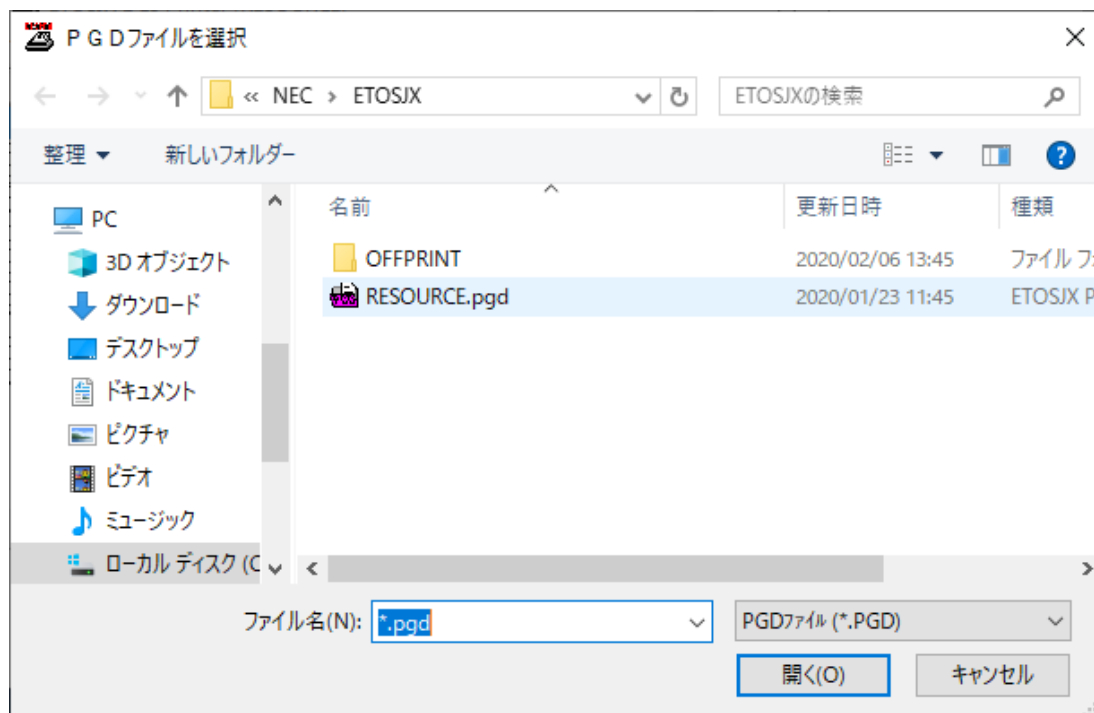
② オープンするファイル名を指定する。

[ファイルを開く] ダイアログボックスがオープンします。

[ファイル名] テキストボックスに、オープンする PGD ファイル名を入力します。

指定するファイルがカレントディレクトリに存在しない場合は、ディレクトリやドライブを [ディレクトリ] 一覧や

[ドライブ] 一覧で指定します。



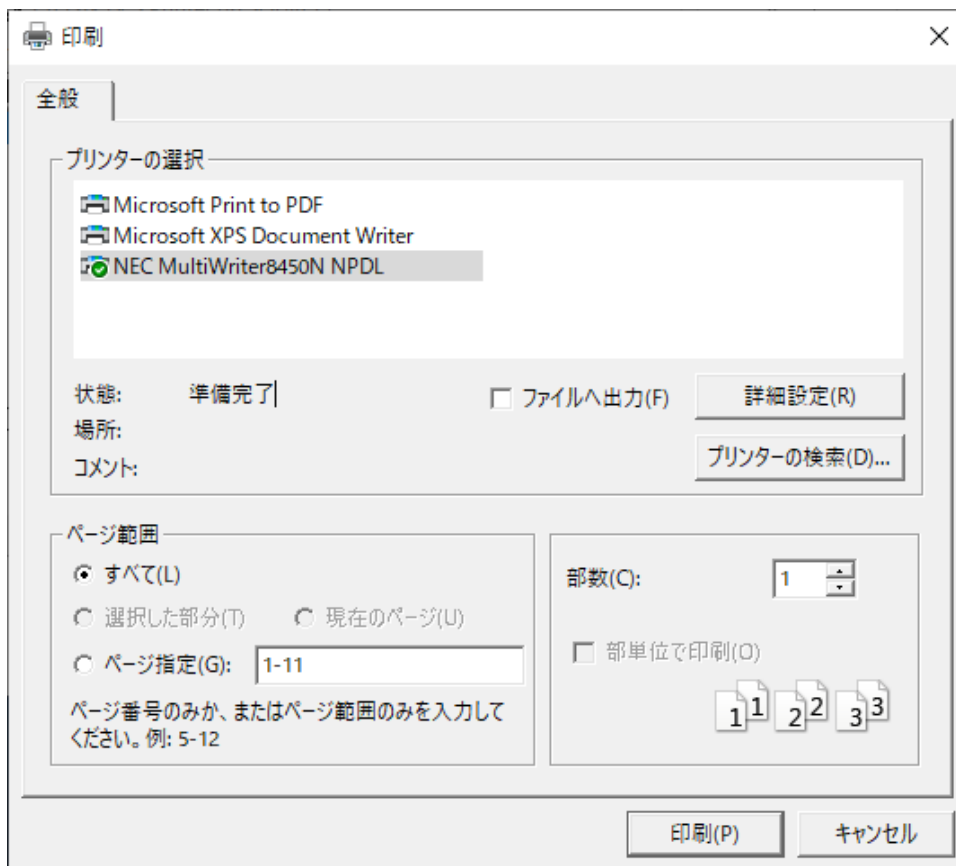
③ [開く]ボタンを押す。

ダイアログボックスがクローズし、指定したファイルから設定情報が読み込まれます。

5.10 PGD ファイルを印刷する

PGD ファイルの内容をプリンタに出力します。

- ① [ファイル] メニューの [開く] メニューコマンドを選択し、印刷する PGD ファイルをオープンする。
- ② [ファイル] メニューの [プリンタ出力] メニューコマンドを選択する。
[印刷] ダイアログボックスがオープンします。



- ③ [印刷] ボタンを押す。
ダイアログボックスがクローズし、指定したプリンタから PGD ファイルの内容が印刷されます。

5.11 ファイル作成を終了する

PGD ファイルの作成を終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了] メニューコマンドを選択する。
- ② DCS プリンタを終了する。

第 6 章

LU 定義ファイルの作成

- 6.1 LU 定義ファイルとは
- 6.2 LU 定義ツールを起動する
- 6.3 LU 定義ファイルを新規作成する
- 6.4 LU 定義ファイルを更新する
- 6.5 LU 定義リストを印刷する
- 6.6 エラーメッセージ

第 6 章 LU 定義ファイルの作成

この章では、ETOSJX の LU 定義ツールの操作方法について説明します。

6.1 LU 定義ファイルとは

通信リソースごとに、画面やプリンタを使用するコンピュータ(サーバ/クライアント)のコンピュータ名または IP アドレスと、使用する画面 LU やプリンタ LU(それぞれ最大 10 個まで定義可能)を定義するファイルです。

以下の場合に LU 定義ファイルの設定を行ってください。

① プリンタ LU を使用する場合

プリンタ LU については、ETOSJX-PG の基本パラメータ [ユニットアドレス] の指定に関わらず、LU 定義ファイルの定義のみが有効となります。

※ただし、プリンタ LU で「24h」を使用する場合は、ネットワークマネージャの LU 情報定義で WS#0 のプリンタ LU に「24h」の設定が必要です。

② 任意のコンピュータに対して固定の画面 LU を定義する場合

ETOSJX-PG の基本パラメータ [ユニットアドレス] で「LU 定義ファイル」を選択した場合のみ LU 定義ファイルの定義が有効となります。

(注意) ネットワークマネージャの LU 情報定義で WS#0 以外に割り当てた LU は使用できません。

6.2 LU 定義ツールを起動する

Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [LU 定義ツール] を選択します。

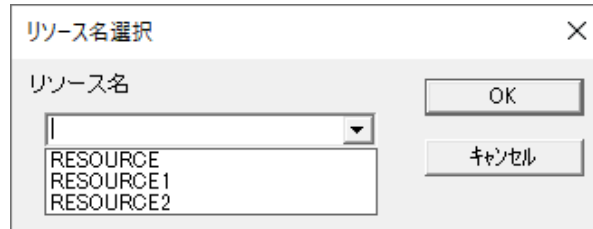
※LU 定義ツールで LU 定義ファイルを作成すると、以降は「エクスプローラ」にて、編集する LU 定義ファイル(*.elu)を選択することでも LU 定義ツールを起動することができます。

6.3 LU 定義ファイルを新規作成する

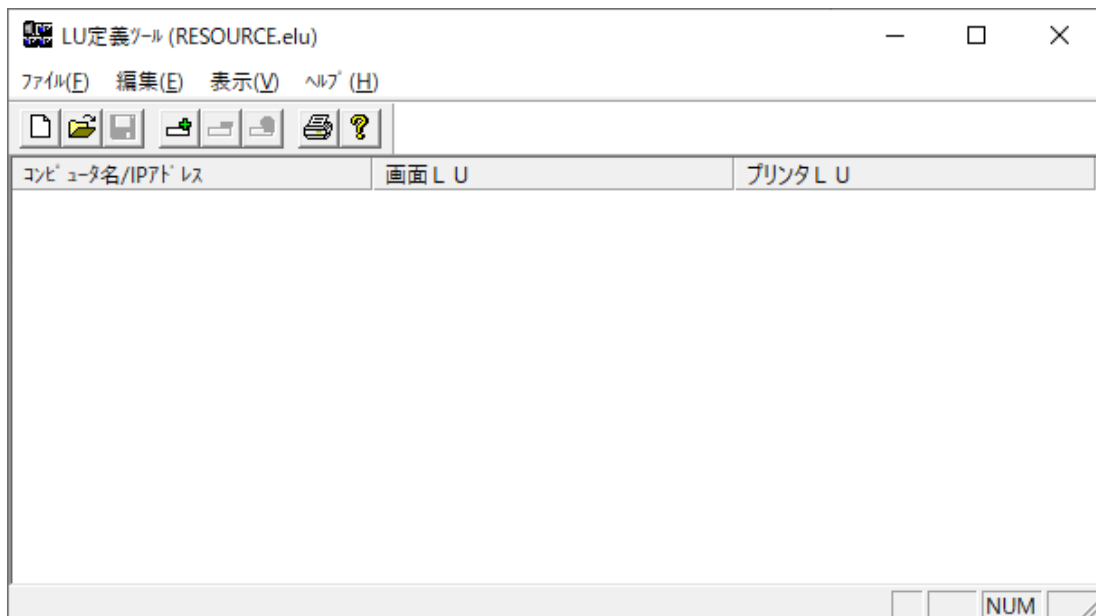
(1) 通信リソースの選択

LU 定義ファイルを作成する通信リソースを選択します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [新規作成(N)] を選択する。
通信リソース名選択のダイアログがオープンします。



- ② コンボボックスからリソース名を選択するか、リソース名を直接入力する。
- ③ リソース名入力後、[OK] ボタンを押す。
タイトルバーに、選択されたリソース名に対する LU 定義ファイルのファイル名が表示されます。



(2) LU の定義

クライアントのコンピュータ名または IP アドレスを追加し、そのコンピュータに対する画面 LU とプリンタ LU を定義します。

- ① メニューの [編集(E)] - [追加(I)] を選択する。
[コンピュータの追加] ダイアログがオープンします。

- ② コンピュータ名または IP アドレスおよび、画面 LU、プリンタ LU を入力する。
- ③ 必要な情報を入力し終わったら、ダイアログの [追加] ボタンを押す。
追加されたデータがメイン画面のリストの最後に表示されます。

(注意) コンピュータ名または IP アドレスは、編集ダイアログの [追加] ボタンをクリックした時点で、ラジオボタンにチェックのある方のみが登録されます。

(3) LU 定義情報ファイルの保存

作成した LU 定義情報をファイルに保存します。

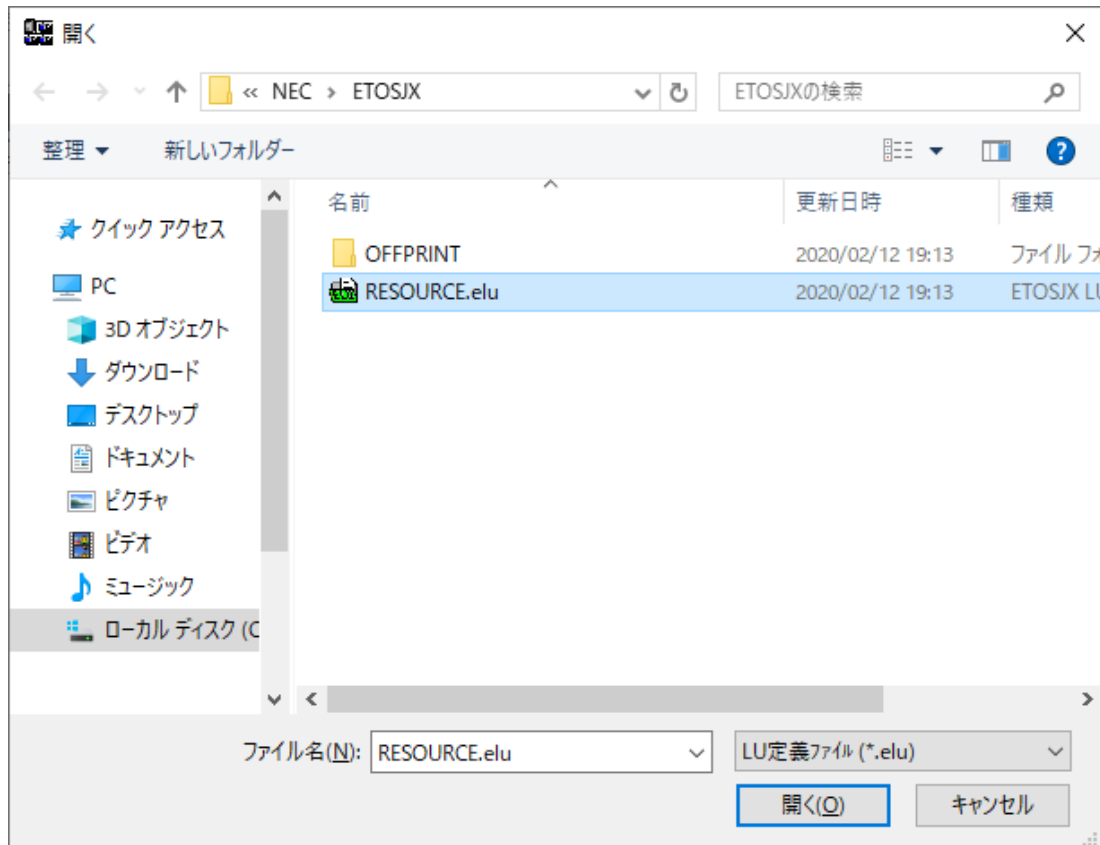
- ① メニューの [ファイル(F)] - [保存(S)] を選択する。
保存が正常に終了すると、「保存しました。」というメッセージが表示されます。
LU 定義ファイルは「通信リソース名.elu」のファイル名で、ETOSJX データフォルダに保存されます。

6.4 LU 定義ファイルを更新する

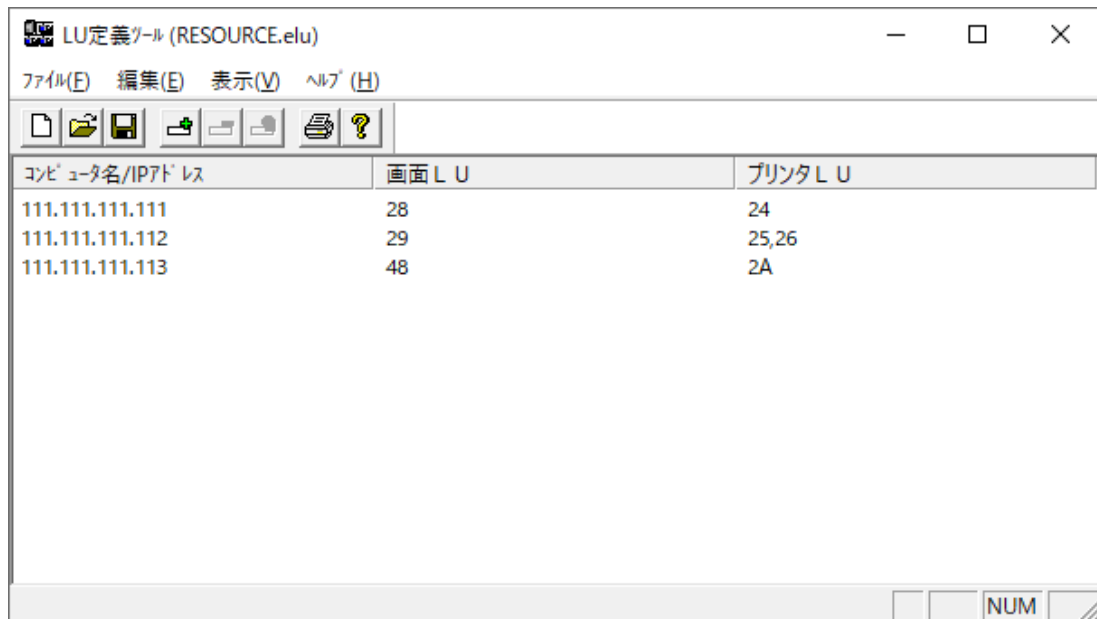
(1) LU 定義ファイルの選択

更新する既存の LU 定義ファイルを開きます。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [開く(O)] を選択する。
ファイルを選択するダイアログが表示されます。



- ② 編集する LU 定義ファイルを選択する。
選択したファイルの LU 定義情報がメイン画面に表示されます。



コンピュータ名/IPアドレス	画面LU	プリンタLU
111.111.111.111	28	24
111.111.111.112	29	25,26
111.111.111.113	48	2A

NUM

(2) コンピュータの追加

新規作成時にクライアントコンピュータを追加する手順と同じです。

(3) コンピュータの削除

既存のクライアントコンピュータをリストから削除する場合、以下の手順で行います。

- ① 削除するコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスをマウスで左クリックして選択するか、もしくはカーソルキーの上下キーで選択する。
- ② メニューの [編集(E)] - [削除(X)] を選択する。
削除確認のダイアログがオープンします。

このデータを削除します。よろしいですか?

コンピュータ名/IPアドレス

コンピュータ名

IPアドレス

画面LU

28

プリンタLU

24

削除 キャンセル

- ③ 削除してよければ [OK] ボタンを押す。
メイン画面のリストから、選択したコンピュータが削除されます。

(4) データの変更

既存の定義情報を変更する場合、以下の手順で行います。

- ① 変更したいコンピュータのコンピュータ名または IP アドレスをマウスの左クリックで選択するか、もしくはカーソルキーの上下キーで選択する。
- ② メニューの [編集(E)] - [更新(U)] を選択する。
データの変更ダイアログがオープンします。

データの変更

コンピュータ名/IPアドレス

コンピュータ名

IPアドレス

111 . 111 . 111 . 111

画面LU

28

プリンタLU

24

更新 キャンセル

- ③ 定義情報を変更してダイアログの [更新] ボタンを押す。
選択したコンピュータの定義情報が変更され、メイン画面に表示されます。

(注意) コンピュータ名または IP アドレスは、編集ダイアログの [更新] ボタンをクリックした時点で、ラジオボタンにチェックのある方のみが登録されます。

(5) LU 定義情報ファイルの保存

変更した LU 定義情報をファイルに保存します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [保存(S)] を選択します。

保存が正常に終了すると、“保存しました。”というメッセージが表示されます。

LU 定義ファイルは「通信リソース名.elu」のファイル名で、ETOSJX データフォルダに保存されます。

6.5 LU 定義リストを印刷する

(1) プリンタの設定

使用するプリンタの設定を行います。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [プリンタの設定(R)] を選択する。
「プリンタの設定」ダイアログが表示されますので、印刷に必要な設定を行います。

(2) 印刷プレビュー

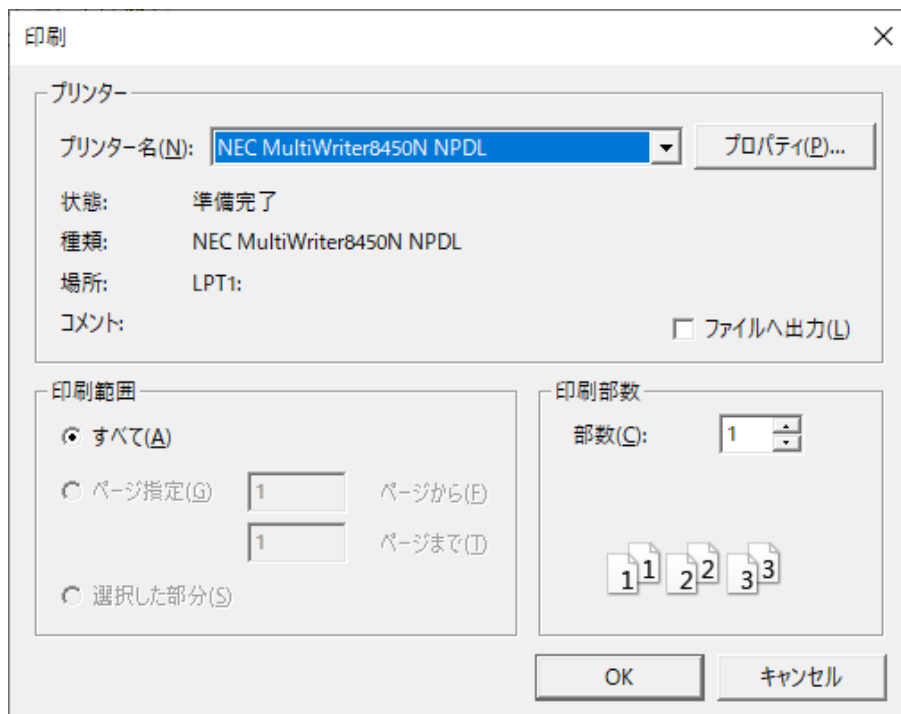
印刷前に印刷イメージを確認する場合に使用します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [印刷プレビュー(V)] を選択します。
印刷イメージが表示されます。

(3) 印刷

LU 定義情報の一覧を印刷します。

- ① メニューの [ファイル(F)] - [印刷(P)] を選択します。
「印刷」ダイアログが表示されます。
印刷範囲等を設定し、[OK] ボタンをクリックすると印刷が始まります。



(4) 印刷イメージ

印刷を実行すると、次の例のような形で印刷されます。

例)

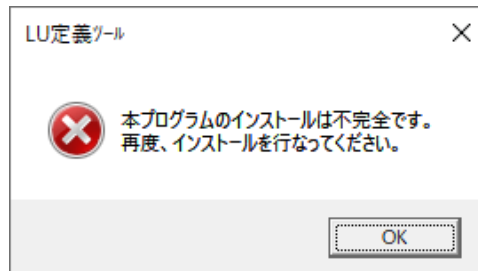
ファイル名	ラベル	印刷した日付
Resource.elu		2020/03/13
コンピュータ名/IP アドレス	画面 LU	プリンタ LU
Computer1	29	48
Computer2	28	25,26
123.123.123.123	AA,FF	2A,2B,2C

Page : 1		

6.6 エラーメッセージ

LU 定義ツールで表示されるエラーメッセージの原因と対処についてを説明します。

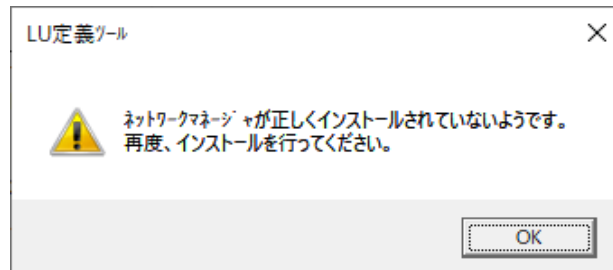
(1) 起動時に次のようなメッセージが表示される場合



原因：レジストリ情報の読み込みができなかった場合に表示されます。

対処：ETOSJX を再インストールしてください。

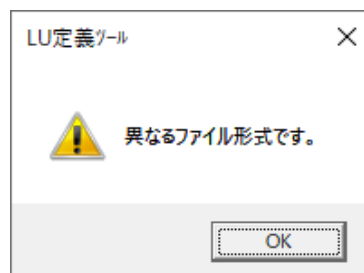
(2) 起動時に次のようなメッセージが表示される場合



原因：ネットワークマネージャのインストールが不完全の可能性が考えられます。

対処：ネットワークマネージャを再インストールしてください。

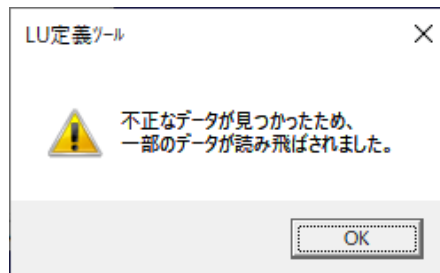
(3) ファイル読み込み時に「異なるファイル形式です。」というメッセージが表示される場合



原因：開こうとしたファイルが本ツールで作成された LU 定義ファイルでないか、ファイルが壊れている可能性があります。

対処：LU 定義ファイルを新しく作成し直してください。

(4) ファイル読み込み時に次のようなメッセージが表示される場合



原因：開いたファイルの中に不正なデータ形式が見つかった場合に表示されます。

対処：なし。その後の動作には支障ありません。

(5) コンピュータの追加、または更新の時に、「コンピュータ名が不正です。」というメッセージが表示される場合

原因：コンピュータ名に不正な文字(スペース)が含まれているか、あるいはコンピュータ名の入力領域に IP アドレスを入力した場合に表示されます。

対処：正しくコンピュータ名を入力してください。

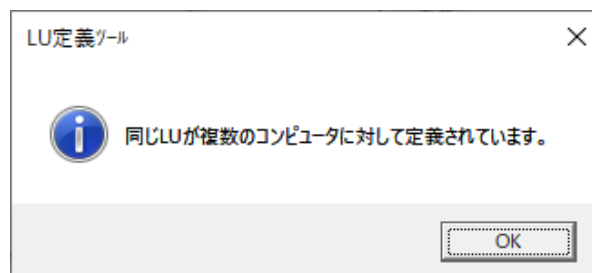
(6) コンピュータの追加、または更新時に、「同じ LU が複数定義されています。」というメッセージが表示される場合



原因：1つのコンピュータに対して、同じ LU が複数定義されている場合に発生します。

対処：LU 定義を見直してください。

(7) コンピュータの追加、または更新時に、「同じ LU が複数のコンピュータに対して定義されています。」というメッセージが表示される場合



原因：追加、更新で定義した LU が既に他のコンピュータで使用されている場合に表示されます。

対処：この場合、処理はそのまま続行できますが、LU は重複しないように定義することをお勧めします。

重複して定義した場合、先に起動した画面、プリンタに対してのみ LU が割り当てられます。

第7章

GW サービスの設定

- 7.1 GW ビューアを起動する
- 7.2 GW サービスの設定を行う

第7章 GW サービスの設定

この章では、GW サービスの各種設定を行う GW ビューアの操作方法について説明します。

なお、GW ビューアでは変更できない設定を行う場合は、「[9.1.3 サーバ情報を変更する](#)」を参照してください。

7.1 GW ビューアを起動する

GW サービスの設定を変更するために、GW ビューアを起動します。

① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [GW ビューア] を選択します。

② GW ビューアのウィンドウがオープンする。

ETOSJX GW ビューアの画面が表示されます。



(注意)

GW ビューア起動時に、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

7.2 GW サービスの設定を行う

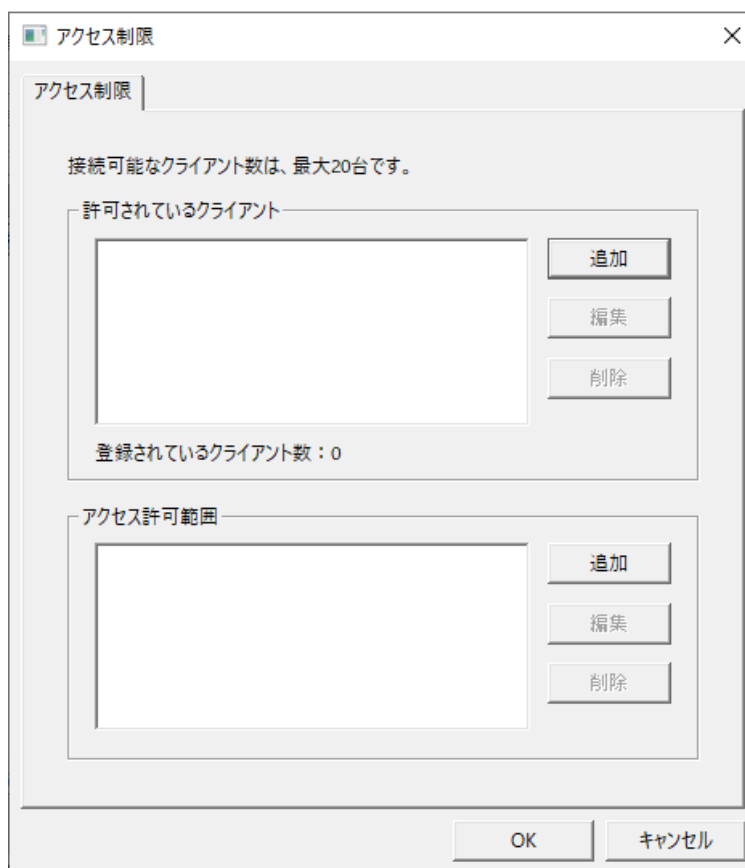
GW サービスの設定を行います。

設定は、[オプション] メニューのメニューコマンドを使って設定します。

7.2.1 アクセス制限を設定する

クライアントからの接続を制限するために、アクセス制限情報を設定します。

- ① [オプション] メニューの [アクセス制限] メニューコマンドを選択する。
[アクセス制限] プロパティシートがオープンします。
各パラメータの説明に従い設定してください。



各パラメータの説明

項目名	説明
許可されているクライアント	GW サービスへの接続を許可するクライアントを指定します。
アクセス許可範囲	ライセンス自動登録の設定で [登録する] を指定している場合に、接続を許可するクライアントへの自動登録を許可する IP アドレスの範囲を指定します。 アクセス許可範囲を設定しない場合、すべてのクライアントが自動登録可能となります。

- ② [OK] ボタンを押す
設定を保存して GW ビューア画面に戻ります。

(1) 接続を許可するクライアントを追加する場合

- ① [許可されているクライアント] の [追加] ボタンを押す。

ライセンス管理方式が IP 管理方式の場合は [IP アドレス追加] ダイアログボックスが、コンピュータ名管理方式の場合は [コンピュータ名追加] ダイアログボックスがオープンします。

各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

<IP 管理方式>

各パラメータの説明

項目名	説明
IP アドレス直接指定	接続を許可するクライアントの IP アドレスを指定します。 例：111.111.111.111
IP アドレス範囲指定	接続を許可するクライアントの IP アドレスを範囲で指定します。 例：111.111.111.111～111.111.111.115 ※本例の設定を行うに場合、5 ライセンスが必要です。

<コンピュータ名管理方式>

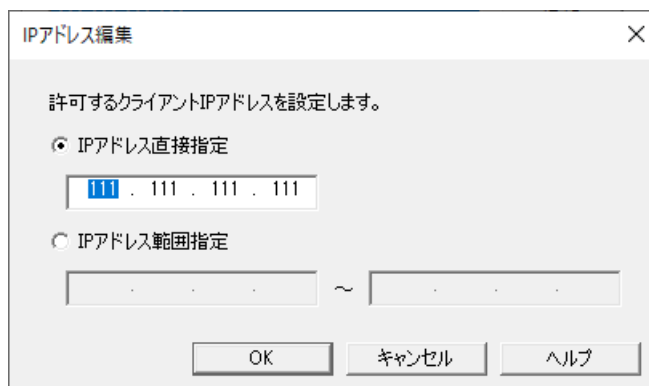
各パラメータの説明

項目名	説明
コンピュータ名	接続を許可するクライアントのコンピュータ名を指定します。

(2) 登録済みのクライアントを編集する場合

- ① [許可されているクライアント] に登録されているクライアントを選択し、[編集] ボタンを押す。
 ライセンス管理方式が IP 管理方式の場合は [IP アドレス編集] ダイアログボックスが、コンピュータ名管理方式の場合は [コンピュータ名編集] ダイアログボックスがオープンします。
 各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

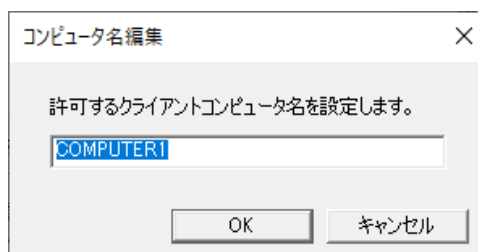
<IP 管理方式>



各パラメータの説明

項目名	説明
IP アドレス直接指定	接続を許可するクライアントの IP アドレスを指定します。
IP アドレス範囲指定	接続を許可するクライアントの IP アドレスを範囲で指定します。

<コンピュータ名管理方式>



各パラメータの説明

項目名	説明
コンピュータ名	接続を許可するクライアントのコンピュータ名を指定します。

(3) 登録済みのクライアントを削除する場合

- ① [許可されているクライアント] に登録されているクライアントを選択し、[削除] ボタンを押す。
- ② [許可されているクライアント] から選択したクライアントが削除されます。

(4) アクセス許可範囲を追加する場合

- ① [アクセス許可範囲] の [追加] ボタンを押す。
[アクセス許可範囲の追加] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

各パラメータの説明

項目名	説明
IP アドレス範囲指定	接続を許可するクライアントの IP アドレスを範囲で指定します。 例 : 111.111.111.111~111.111.111.115

(5) アクセス許可範囲を編集する場合

- ① [アクセス許可範囲] に登録されている許可範囲設定を選択し、[編集] ボタンを押す。
[アクセス許可範囲の編集] ダイアログボックスがオープンします。
各パラメータの説明に従い、パラメータを入力して下さい。

各パラメータの説明

項目名	説明
IP アドレス範囲指定	接続を許可するクライアントの IP アドレスを範囲で指定します。 例 : 111.111.111.111~111.111.111.115

(6) アクセス許可範囲を削除する場合

- ① [アクセス許可範囲] に登録されている許可範囲設定を選択し、[削除] ボタンを押す。
- ② [アクセス許可範囲] から選択した許可範囲設定が削除されます。

7.2.2 アクセス制限の登録方法を設定する

クライアントで ETOSJX を起動した時のアクセス制限への登録方法を指定します。

- ① [オプション] メニューの [ライセンス自動登録] メニューコマンドを選択する。
- ② ETOSJX 起動時に、接続を許可するクライアントとして自動登録する場合は、[登録する] を選択する。
[登録する] メニューにチェックマークが付加され、GW ビューアの画面に戻ります。
- ③ 接続を許可するクライアントを手動登録する場合は、[登録しない] を選択する。
[登録しない] メニューにチェックマークが付加され、GW ビューアの画面に戻ります。

7.2.3 GW サービスの起動方法を設定する

GW サービスの起動方法を指定します。

- ① [オプション] メニューの [GW サービス自動起動] メニューコマンドを選択する。
- ② サーバ起動時に、GW サービスを自動起動する場合は、[起動する] を選択する。
[起動する] メニューにチェックマークが付加され、GW ビューアの画面に戻ります。
- ③ GW サービスを自動登録しない場合は、[起動しない] を選択する。
[起動しない] メニューにチェックマークが付加され、GW ビューアの画面に戻ります。

第 8 章

パラメータファイルを変換する

- 8.1 PG コンバータとは
- 8.2 パラメータファイルの変換手順
- 8.3 PG コンバータを起動する
- 8.4 パラメータファイルを変換する
- 8.5 バージョン情報を表示する
- 8.6 PG コンバータを終了する

第 8 章 パラメータファイルを変換する

この章では、ETOSJX のパラメータファイルを変換する PG コンバータの操作方法について説明します。

8.1 PG コンバータとは

PG コンバータとは、パラメータファイルを変換するためのユーティリティプログラムです。

旧製品(他 OS で作成されたファイルを含む)の PG ファイル(*.PG)、PGD ファイル(*.PGD)およびリソースファイル(*.ETS)を本製品で使用できるファイルへ変換します。

また、他 OS で作成した ETOSJX V7.0 のパラメータファイルを現在動作中の OS で使用できる形式にもコンバートします。

8.2 パラメータファイルの変換手順

パラメータファイルを、次の手順で変換します。

- ① PG コンバータを起動する。
- ② パラメータファイルが存在するディレクトリを指定する。
パラメータファイルが ETOS データフォルダに存在する場合、指定する必要はありません。
- ③ 変換を行う通信リソース名を指定する。
- ④ パラメータファイルを変換する。
- ⑤ PG コンバータを終了する。

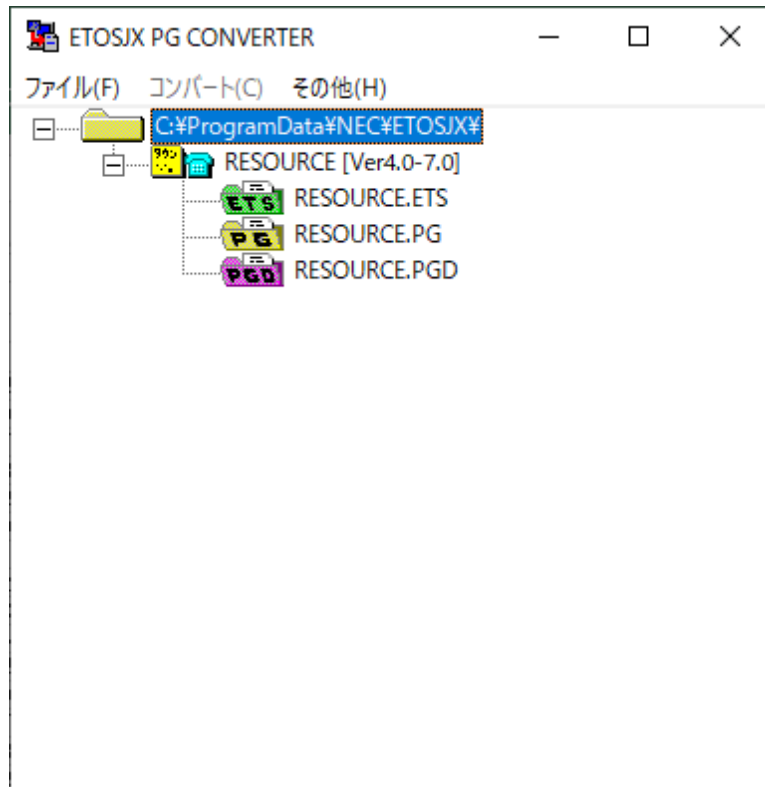
(注意)

- ・SG ファイルのコンバートを行うと、旧製品では使用できなくなります。
SG ファイルは必ずバックアップを採取した上でコンバートしてください。
- ・他 OS で作成されたパラメータファイルは、ハードコピー、COMI-2 プリンタ、DCS プリンタのプリンタ出力先がすべて「通常使うプリンタ」にコンバートされます。
出力先プリンタを「通常使うプリンタ」以外に変更したい場合は再設定が必要です。
- ・マシン固有情報(キーボード種別・プリンタ情報等)は、再設定する必要があります。

8.3 PG コンバータを起動する

パラメータファイルを変換するために、PG コンバータを起動します。

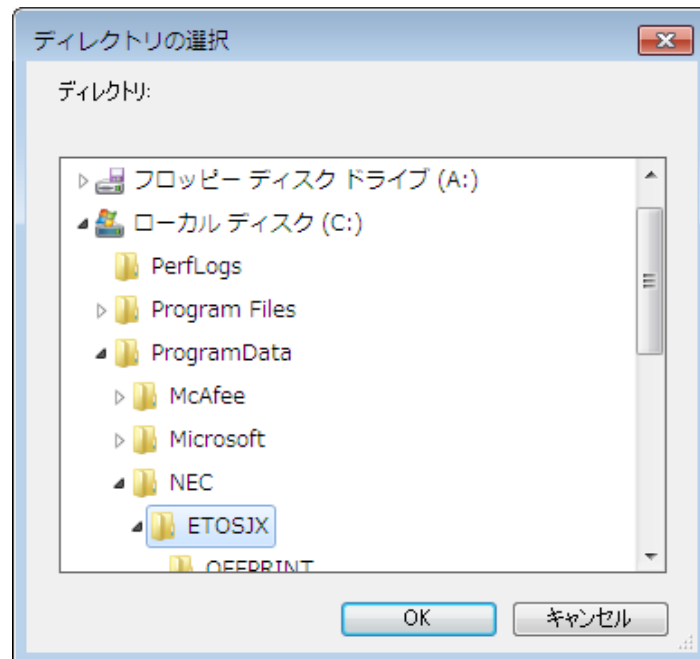
- ① Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [PG コンバータ] を選択する。
- ② PG コンバータのウィンドウがオープンする。
PG コンバータの画面が表示されます。



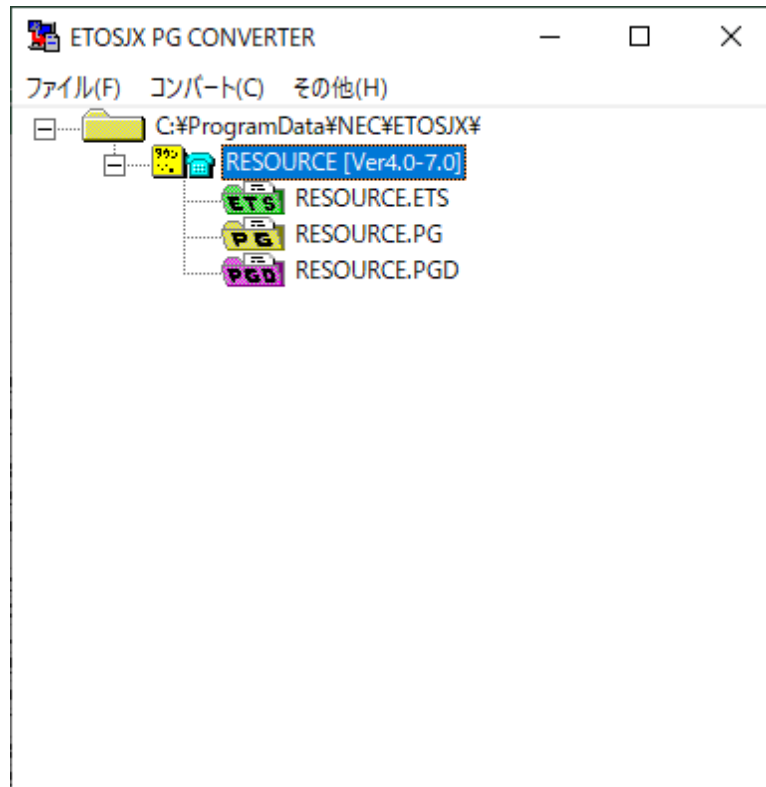
8.4 パラメータファイルを変換する

旧製品で作成したパラメータファイルの本製品で使用できるパラメータファイルに変換します。

- ① [ファイル] メニューの [ディレクトリ指定] メニューコマンドを選択する。
パラメータファイルがカレントディレクトリに存在する場合は、ディレクトリを指定する必要はありません。
- ② 変換するパラメータファイルが存在するディレクトリ名を入力する。
[ディレクトリの選択] ダイアログボックスがオープンします。
変換するパラメータファイルが存在するディレクトリを指定して、[OK] ボタンを押してください。



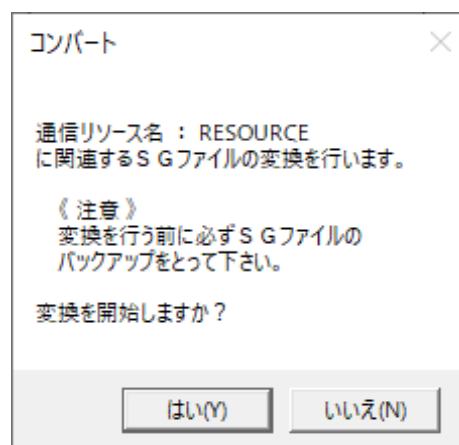
- ③ 変換を行う通信リソース名を選択する。



- ④ [ファイル] メニューの [コンバート] メニューコマンドを選択する。

変換の実行確認メッセージが表示されます。

〔はい〕を選択すると、選択した通信リソースに関連するすべてのパラメータファイルを、本製品で使用できるファイルに変換します。



8.5 バージョン情報を表示する

PG コンバータのバージョン情報を表示します。

- ① [その他] メニューの [バージョン情報] メニューコマンドを選択する。
- ② バージョン情報を確認する。
[PG コンバータのバージョン情報] ダイアログボックスがオープンします。
バージョン情報を確認してください。

8.6 PG コンバータを終了する

PG コンバータを終了します。

- ① [ファイル] メニューの [終了する] メニューコマンドを選択する。
- ② PG コンバータを終了する。

第 9 章

ETOSJX のシステム設定

- 9.1 メンテナンスツール
- 9.2 ETOSJX 専用プリンタ登録
- 9.3 9 ポイント文字の印刷設定
- 9.4 PrintBridge を経由して印刷する
- 9.5 BizReporting を経由して印刷する

第9章 ETOSJX のシステム設定

この章では、ETOSJX を使用する端末全体で有効となるシステム設定方法について説明します。

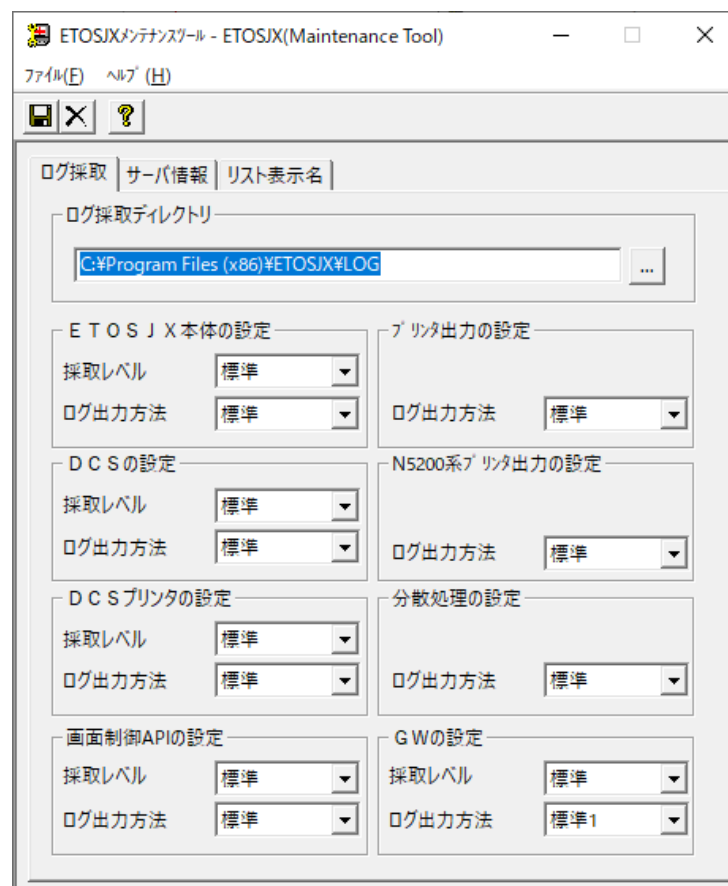
9.1 メンテナンスツール

メンテナンスツールは、ETOSJX を使用する端末全体の設定を行うためのツールです。
メンテナンスツールで設定可能な機能は以下の通りです。

- ・ ETOSJX のログ出力に関する設定
- ・ サーバ情報の設定(ETOS 通信 GW サーバ環境のみ)
- ・ PG リストの表示内容の設定(ETOS 通信 GW サーバ環境のみ)
- ・ 接続先サーバ情報の削除(ETOSJX クライアント環境のみ)

9.1.1 メンテナンスツールを起動する

Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] - [メンテナンスツール] を起動します。

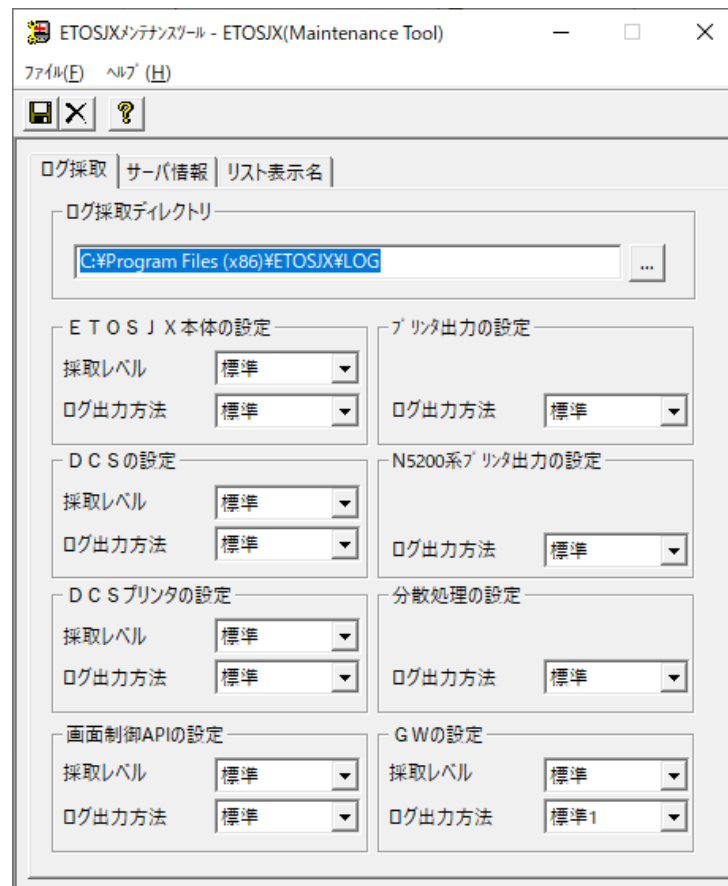


(注意)

メンテナンスツール起動時に、権限の昇格を要求されますので、管理者権限を持ったユーザ名、パスワードを入力し、権限の昇格を行ってください。

9.1.2 ETOSJX のログ採取設定を変更する

ETOSJX が動作時に採取するログの採取レベルと出力方法を設定します。



各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
採取レベル	<ul style="list-style-type: none"> ・標準 ・詳細 1 ・詳細 2 ・詳細 ・全部 	ETOSJX が採取するログファイルへ出力する内容を指定します。	標準
ログ出力方法	<ul style="list-style-type: none"> ・標準 ・標準 1 ・標準 2 ・常時(追加) ・常時(サイクリック) ・詳細 ・全部 	ETOSJX のログファイルの出力方法を指定します。	標準 標準 1

(注) 採取レベルやログ出力方法を変更すると ETOSJX の動作や性能に影響を及ぼす場合がありますので、通常は既定値のままで運用してください。

9.1.3 サーバ情報を変更する

ETOSJX GW サービスが動作するサーバ環境の情報を設定します。

[サーバ情報] タブを選択すると、サーバ情報の設定画面を表示します。

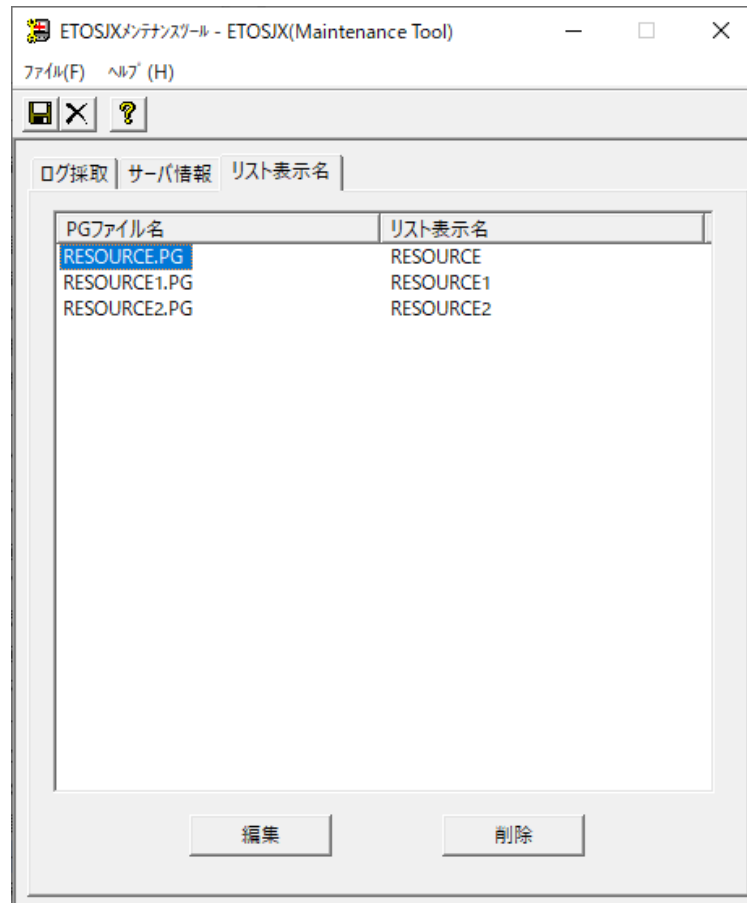
各パラメータの説明

項目名	説明
サーバ IP アドレス	サーバの IP アドレスとポート番号を入力してください。 IP アドレスは 10 進数で指定してください。有効範囲は 0.0.0.0～255.255.255.255 です。 ポート番号の有効範囲は 1024～65535 です。 (注意) サーバ環境のネットワーク設定が変更された時以外は変更しないでください。
ポーリング指定	起動中のクライアントの状態を定期的に監視する場合、[ポーリング指定をする] にチェックし、 [ポーリング間隔] に監視間隔時間を入力してください。 有効範囲は 1 分～24 時間 0 分です。
ライセンス管理方式	IP アドレスによる管理を行う場合は [IP 管理方式] を、コンピュータ名による管理を行う場合は [コンピュータ名管理方式] を指定してください。

9.1.4 PG リストの表示内容を変更する

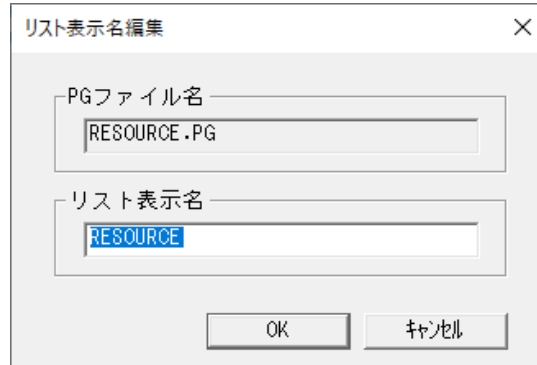
ETOSJX 起動時に表示する PG リストの表示内容を設定します。

[リスト表示名] タブを選択すると、リスト表示名の設定画面を表示します。



(1) PG リストの表示名を変更する

- ① PG リスト表示名を変更する PG ファイルを選択し、[編集] ボタンを押します。
[リスト表示名編集] ダイアログがオープンします。



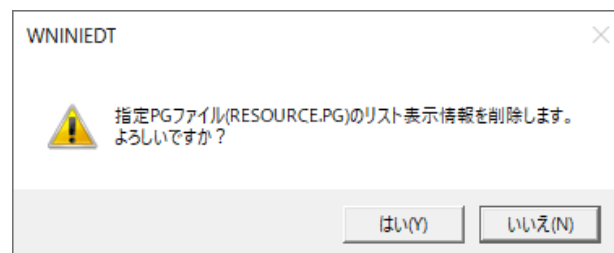
各パラメータの説明

項目名	説明
PG ファイル名	リスト表示名を変更する PG ファイル名です(編集不可)。
リスト表示名	PG リストに表示する名前を入力してください。

- ② 編集後、[OK] ボタンを押します。

(2) PG リストから削除する

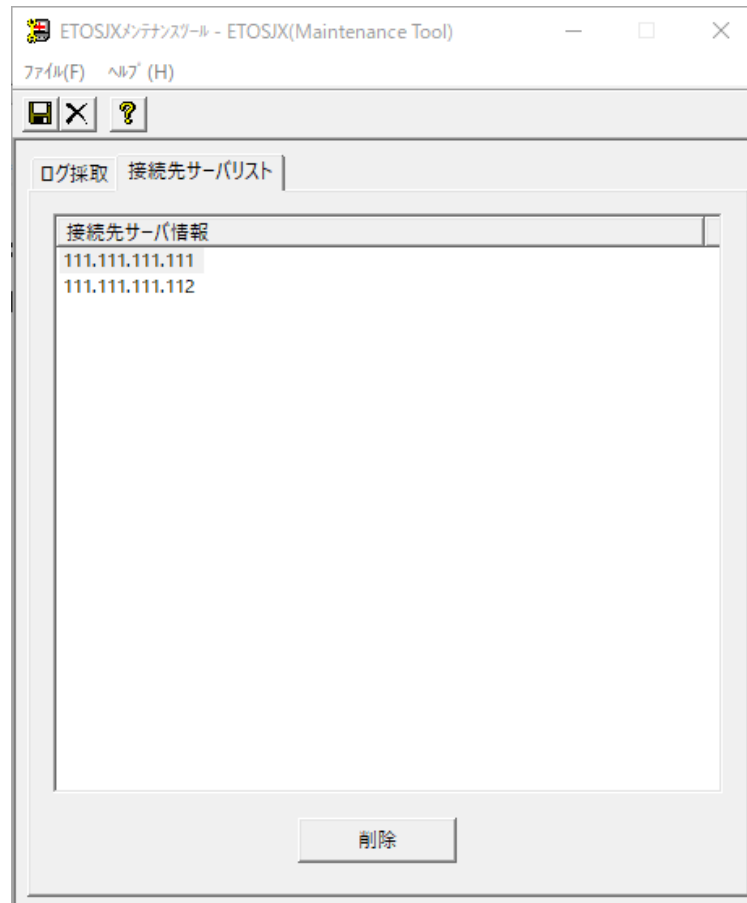
- ① PG リストから削除したい PG ファイル名を選択し、[削除] ボタンを押します。
以下のメッセージが表示されますので、[はい] ボタンを押してください。



9.1.5 接続先サーバ情報を削除する

ETOSJX 起動時に表示する接続先サーバの情報を削除します。

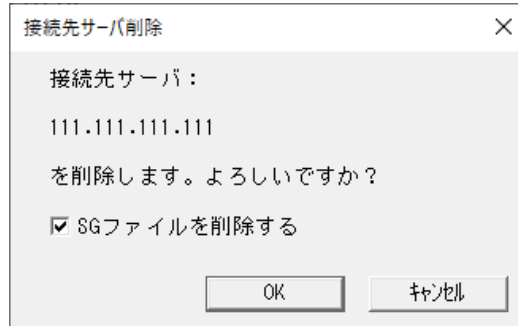
[接続先サーバリスト] タブを選択すると、接続先サーバの一覧を表示します。



(1) 接続先サーバ情報を削除する

① 削除するサーバを選択し、[削除] ボタンを押します。

[接続先サーバ削除] ダイアログがオープンします。



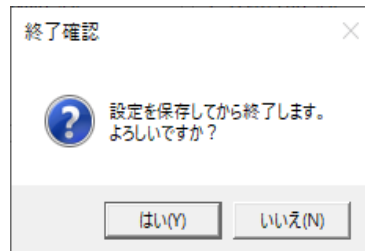
各パラメータの説明

項目名	パラメータ	説明	既定値
SG ファイルを 削除する	<input checked="" type="checkbox"/> : YES <input type="checkbox"/> : NO	YES : サーバ情報を削除する時に、クライアントにダウンロードした SG ファイルも削除します。 NO : サーバ情報を削除する時に、クライアントにダウンロードした SG ファイルを残します。	YES

② [OK] ボタンを押します。

9.1.6 設定を保存して終了する

- ① メニューの [ファイル] - [設定を保存して終了] を選択します。
以下のメッセージが表示されますので、[はい] ボタンを押してください。



9.2 ETOSJX 専用プリンタ登録

ETOSJX で N5200 系コード印刷の障害通知機能を使用する場合、印刷を行うプリンタ(パラレルポートに接続されたプリンタ、以降「ローカルプリンタ」と呼びます)に対し、ETOSJX 専用プリンタを登録(紐づけ)する必要があります。

ETOSJX 専用プリンタ登録とは、その登録を行うためのプログラムです。

9.2.1 ETOSJX 専用プリンタ登録を起動する

Windows の [スタート] メニューから [ETOSJX] – [ETOSJX 専用プリンタ登録]を選択します。
起動後、登録画面が表示されます。



起動時にローカルプリンタが 1 つも登録されていない場合、登録を中止します。
プリンタ登録後に再度、ETOSJX 専用プリンタ登録を起動してください。

9.2.2 専用プリンタを登録する

出力先プリンタに対応した専用プリンタを登録します。

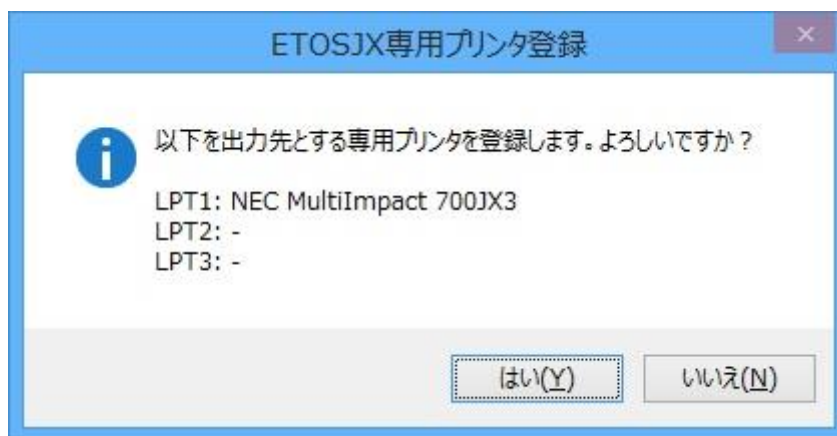
- ① N5200 系コード印刷での出力先プリンタを選択する。



OS に登録されているローカルプリンタ名の一覧がプルダウンリストに表示されますので、出力先プリンタを選択してください。N5200 系コード印刷の出力先として使用しないポートでは「登録しない」を選択してください。

- ② 専用プリンタを登録する。

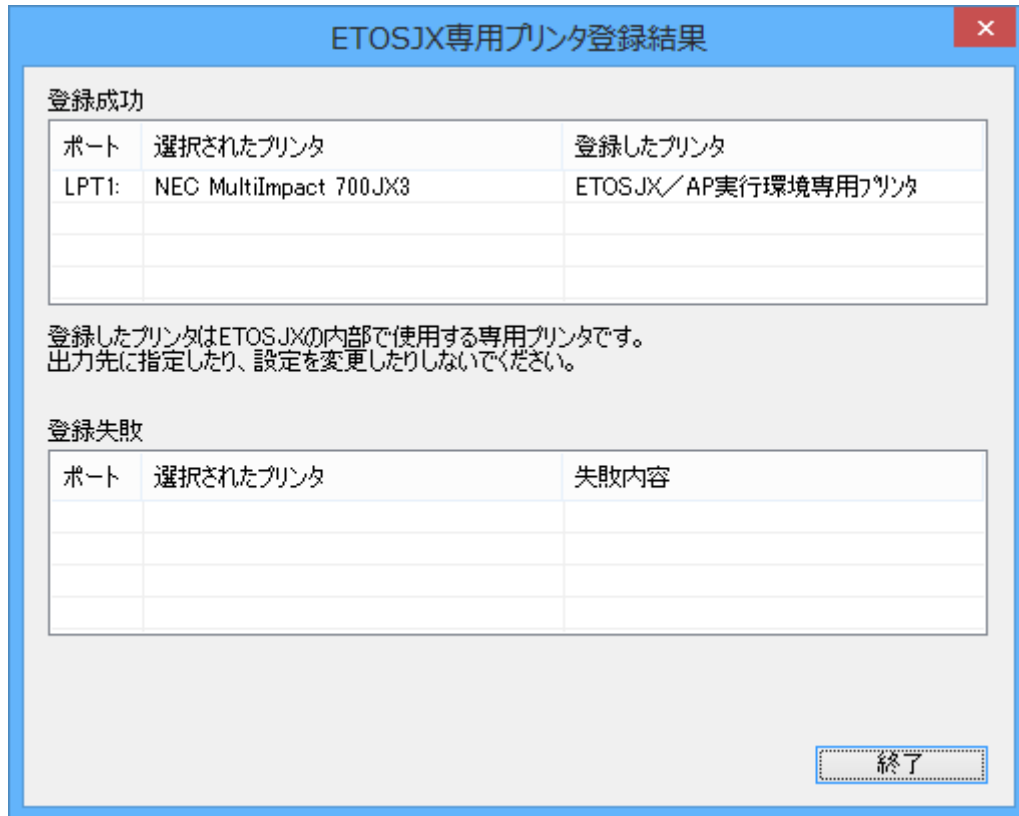
[登録]ボタンを押すと、確認画面を表示します。



選択したプリンタ名が表示されていることを確認し、[はい]ボタンを押します。
[いいえ]ボタンを押すと、登録画面に戻ります。

③ 登録結果を確認する。

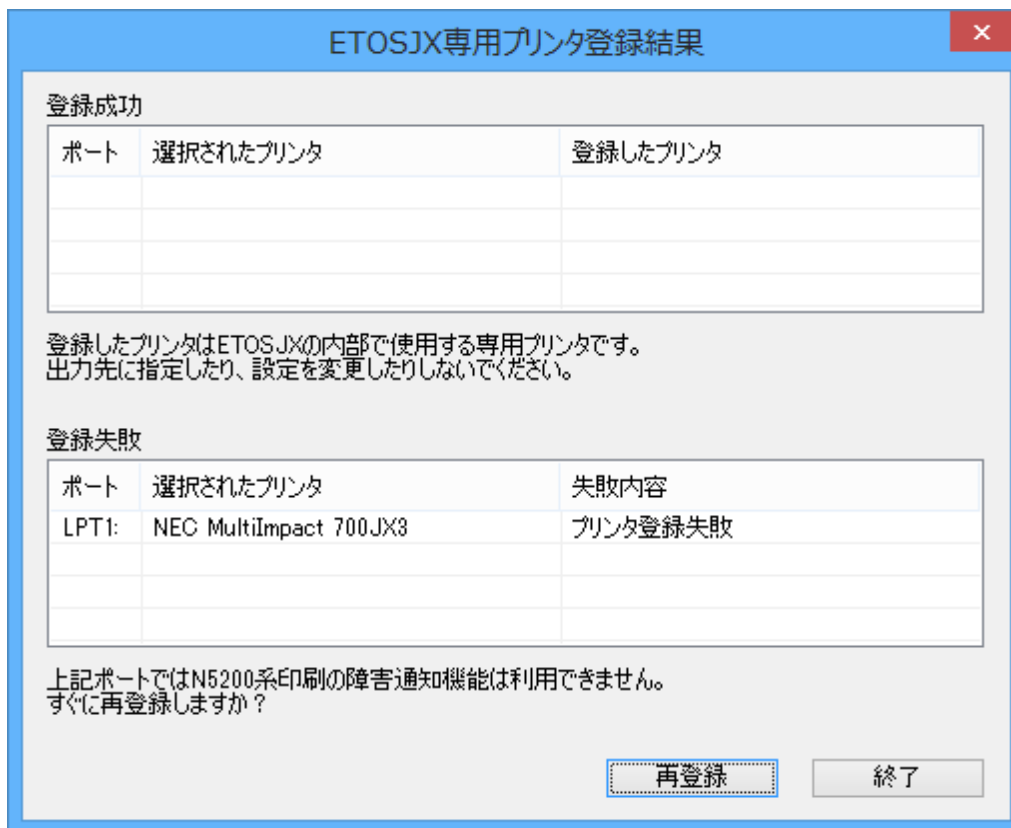
専用プリンタの登録に成功すると、登録成功一覧に出力先として選択されたポートとプリンタ名、登録した専用プリンタ名が表示されます。



[終了]ボタンを押すと、ETOSJX 専用プリンタ登録を終了します。

<登録に失敗した場合>

登録失敗一覧に出力先として選択されたポートとプリンタ名、登録に失敗した理由または内容が表示されます。



ETOSJX専用プリンタ登録結果

登録成功

ポート	選択されたプリンタ	登録したプリンタ

登録したプリンタはETOSJXの内部で使用する専用プリンタです。
出力先に指定したり、設定を変更したりしないでください。

登録失敗

ポート	選択されたプリンタ	失敗内容
LPT1:	NEC MultiImpact 700JX3	プリンタ登録失敗

上記ポートではN5200系印刷の障害通知機能は利用できません。
すぐに再登録しますか？

登録画面で選択したプリンタについて、以下の点を確認してください。

- ・インストールした NEC 製のプリンタドライバを使用しているか
(OS 標準添付のドライバは使用しないでください)
- ・本ツール起動後に、OS 側でプリンタの状態を変更していないか

[再登録]ボタンを押すと、登録画面に戻ります。出力先に別のプリンタを選択する場合、再度、登録を実行してください。OS 側でプリンタの状態を変更した場合、[終了]ボタンを押して一度 ETOSJX 専用プリンタ登録を終了し、改めて登録を実行してください。

9.2.3 専用プリンタを登録せずに終了する



ETOSJX専用プリンタ登録

N5200系印刷の障害通知機能を利用するための専用プリンタを登録します。
出力先のローカルプリンタを選択してください:

LPT1: 登録しない

LPT2: ポート未使用

LPT3: ポート未使用

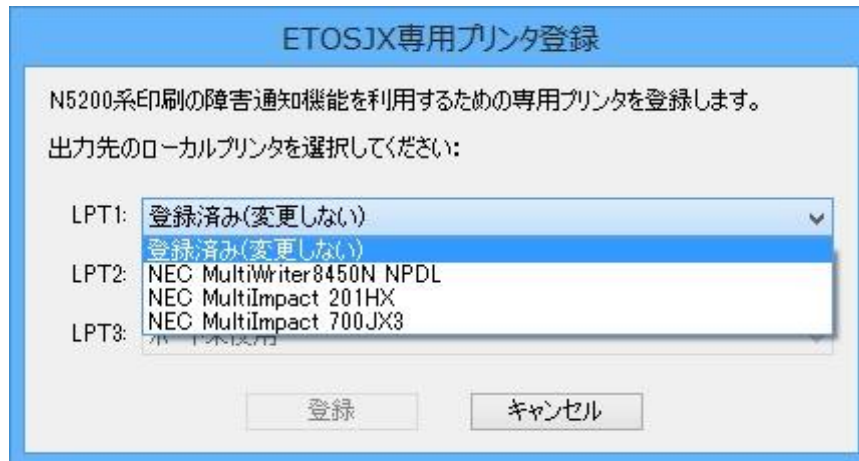
登録 キャンセル

[キャンセル]ボタンを押すと、終了確認メッセージが表示されます。

終了確認メッセージで[はい]ボタンを押すと、ETOSJX 専用プリンタ登録を終了します。

[いいえ]ボタンを押すと、登録画面に戻ります。

9.2.4 出力先を変更する



すでに専用プリンタが登録されている場合、「登録済み(変更しない)」と表示されます。

以前の登録時から N5200 系コード印刷の出力先プリンタを変更した場合、新たに出力先とするプリンタ名を選択して登録し直してください。

(注意) 以前のバージョンで登録した専用プリンタが残っている場合も「登録済み(変更しない)」と表示されます。出力先に変更がない場合、そのまま使用しても問題はありませんが、念のため登録し直すことをお勧めします。

(参考) 意図しないポートが「登録済み(変更しない)」となっても、問題はありません。ただし、OS に未使用のプリンタが残ることになりますので、削除したい場合は下記のプリンタを OS から削除してください。

LPT1:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ」

LPT2:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ 1」

LPT3:用専用プリンタ：「ETOSJX/AP 実行環境専用プリンタ 2」

9.3 9ポイント文字の印刷設定

N5200 系コードを使用して、ホストから9ポイント文字の印刷を行う場合、ETOSJX で以下の設定が必要です。ETOSJX をインストールした直後の設定では、9ポイント文字の印刷はできません(10.8ポイント相当文字として印刷されます)。

(1) 9ポイント文字印刷の注意事項

- ① 9ポイント文字サイズの設定、文字ピッチの設定は、以下のシーケンスを使用してください。
 - ・文字サイズの設定：漢字文字サイズ指定を使用してください。
 - 例：標準倍角文字 1A 26 (29 60) 29 70 (**)：省略可能
 - 縦2倍角文字 1A 26 21 28 60 29 70
 - 横2倍角文字 1A 26 29 60 21 28 70
 - ・文字ピッチの設定：文字ピッチ指定を使用してください。
 - 例：1A 24 29 70
- ② 9ポイント文字の印刷が可能なプリンタは、「[付録 D N5200 系コード対応プリンタ](#)」を参照してください。
- ③ 9ポイント文字の印刷ができないプリンタが接続されているにも関わらず、9ポイント文字の印刷設定を行った場合、正しい印刷結果は得られません。

(2) 9ポイント文字印刷の設定方法

- ① Windows フォルダにある ETOSIPEC.INI ファイルをメモ帳等で開きます。
- ② ETOSIPEC.INI ファイルの末尾にある[Control]セクションに下記の記述を追加してファイルを保存します。

```
PAPER2=10,1 0 inch
SOURCE1=TF,トラクタフィーダ
ORIENTATION=1
POSITION=1

[Control]
9PCHAR=108 ←ここに記述を追加
```

ただし、N5200 系コード印刷に使用する外字ファイルが「移行外字」(注) の場合は、9ポイント文字印刷時に参照する外字ファイルを指定する必要があります。

下記の3種類の記述から適切な設定値を選択してください。

設定	意味
9PCHAR=72	9ポイント外字に7ポイント(24×24ビット)の外字ファイルを使用する。
9PCHAR=108	9ポイント外字に10.8ポイント(36×36ビット)の外字ファイルを使用する。
9PCHAR=120	9ポイント外字に12ポイント(40×40ビット)の外字ファイルを使用する。

(注) 「Windows 標準外字」を利用する場合、上記設定は外字をプリンタにビットマップで登録する際のドットサイズを表します。通常は、9PCHAR=108と設定してください。

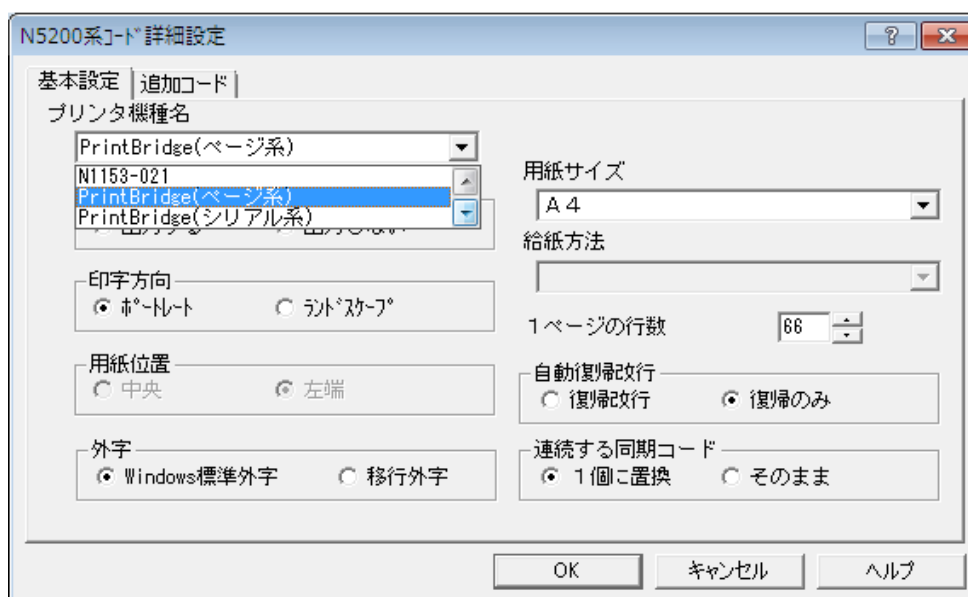
9.4 PrintBridge を経由して印刷する

N5200 系コードの印刷は、PrintBridge と連携することにより以下の印刷が可能となります。

- ・LAN に接続されたプリンタへの障害通知機能を使用した印刷(PrintAgent が必要)
- ・他社製プリンタへの印刷(エプソン製、キヤノン製を推奨)

PrintBridge を使用する場合は、次のような手順で印刷を行ってください。

- ① PrintAgent をインストールする。
障害通知機能を使用する場合、PrintAgent か、SimpleMonitor(および PrintAgent 拡張モジュール for SimpleMonitor)(プリンタ添付)が必要となります。
障害通知機能を使用しない場合はインストールする必要はありません。
- ② PrintBridge をインストールする。
※インストール方法については、PrintBridge のマニュアルを参照してください。
- ③ PrintBridge の SG でプリンタドライバを定義する。
印刷に使用するプリンタドライバを PrintBridge の SG ツールで定義してください。
※設定方法の詳細は、PrintBridge のマニュアルを参照してください。
- ④ ETOSJX の SG で PrintBridge を指定する。
N5200 系コードの詳細設定でプリンタ機種名に PrintBridge を指定してください。



設定するプリンタ機種名は、ホスト側で定義しているプリンタにより変わります。

実際に印刷するプリンタ機種に依存するわけではありませんので注意してください。

ホストで定義したプリンタ	設定するプリンタ機種名
ページプリンタ	PrintBridge(ページ系)
シリアルプリンタ	PrintBridge(シリアル系)

- ⑤ 印刷を行う。
ホストからデータを送信し、印刷を行ってください。
※サポートするプリンタ、制御コード他、PrintBridge についての製品情報は、PrintBridge のマニュアル、製品紹介ページ等を参照してください。

9.5 BizReporting を経由して印刷する

N5200 系コードの印刷は、BizReporting と連携することにより、次の機能が追加されます。

- ・Windows プリンタに対する印刷出力
- ・フォームオーバーレイ/レイアウト変更などの帳票デザイン加工
- ・イメージデータ、テキストデータの挿入(データベースからデータを引用)
- ・出力帳票の保管

BizReporting を使用する場合は、次のような手順で印刷を行ってください。

- ① BizReporting をインストールする。
※インストール方法については、BizReporting のマニュアル等を参照してください。
- ② BizReporting の SG を行う。
プリンタ設定ツール(PICMIN)での「出力先のプリンタ」には、ETOSJX 側 SG にて設定した「出力先プリンタ」と同じものを設定してください。
※その他設定方法の詳細は、BizReporting のマニュアルを参照してください。
- ③ ETOSJX の SG を行う。
・プリンタ情報の設定で以下の設定を行ってください。
プリンタ言語 : N5200 系コード
障害通知 : 「通知しない」 ※本設定を行わない場合は SG エラーとなります。

プリンタ出力指定(COMI-2)

現在設定されている出力先プリンタ
NEC MultiWriter8450N NPDL プリンタ設定

通常使うプリンタを使用する

プリンタ言語
 N5200系コード PC系コード
 従来変換 無変換 イメージ変換

プリンタコードチェック 詳細設定

障害通知の有無
 通知する すべて永久障害で通知する
 通知しない

プリンタ監視
 監視しない 監視する 秒

OK キャンセル ヘルプ

- ・N5200 系コードの詳細設定で以下の設定を行ってください。

プリンタ機種名： BizReporting(ページ系またはシリアル系)

設定するプリンタ機種名は、ホスト側で定義しているプリンタにより変わります。

実際に印刷するプリンタ機種に依存するわけではありませんので注意してください。

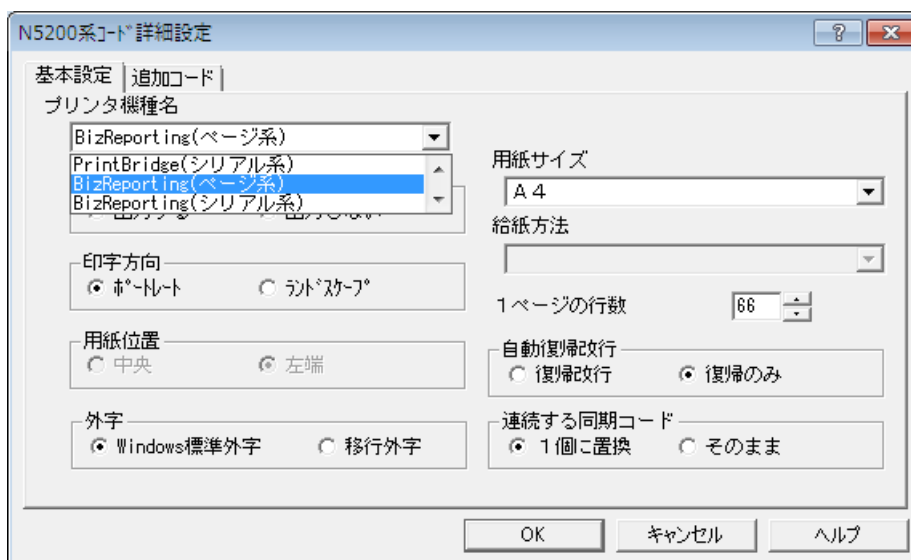
ホストで定義したプリンタ	設定するプリンタ機種名
ページプリンタ	PrintBridge(ページ系)
シリアルプリンタ	PrintBridge(シリアル系)

初期化コード： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。

外字： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。

用紙サイズ： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。

印字方向： BizReporting 側の仕様に従って設定してください。



④ 印刷を行う。

ホストからデータを送信し、印刷を行ってください。

サポートするプリンタ、制御コード他、BizReporting についての製品情報は、BizReporting のマニュアル、製品紹介ページ等を参照してください。

第 10 章

トラブルシューティング

第 10 章 トラブルシューティング

この章では、ETOSJX のインストールで発生したトラブルと ETOSJX のパラメータ設定(ETOSJX-PG、DCS プリンタ)で発生したトラブルの対処方法について説明します。

- Q 1.** 「80 5A 008A P G Dファイルのオープンに失敗しました。」のエラーが発生し、ETOSJX が起動できないがなぜか？
- A 1.** 何らかの原因で PGD ファイルが存在しないため、ETOSJX が起動できません。
ETOSJX の起動には SG ファイル(拡張子 PG/PGD/ETS/WS)が必要です。
本エラーは、PGD ファイル(拡張子 PGD)が何らかの原因で読み込めない時に発生します。
DCS プリンタを起動し、PGD ファイルを作成してください。
PGD ファイルとは、UA パスプリンタ出力を行うための設定情報を保存したファイルです。
- Q 2.** 「80 5A 0088 プリンタサービスの開始に失敗しました。(L Uが割り当てられていない) 」のエラーが発生し、DCS プリンタのサービスが開始できないがなぜか？
- A 2.** ネットワークマネージャの設定が誤っていると思われます。
該当する通信リソースにプリンタ用 LU が割り当てられていることを確認してください。
PC 通信サーバ形態の場合は、クライアントとサーバのネットワークマネージャのバージョンが同一か確認してください。
ネットワークマネージャの設定については、ネットワークマネージャのマニュアルを参照してください。
- Q 3.** TCP/IP 手順で ETOSJX をホストに接続すると「20 48 00BA 要求はタイムアウトしました。(tnETBA) 」のエラーが発生しホストと接続できないがなぜか？
- A 3.** 本エラーは、接続先のホストが見つからない場合に発生します。
以下の点を確認してください。
- 1) ホストが起動しているか？
 - 2) PC 上で定義したホストの IP アドレスの設定は正しいか？
 - 3) TCP/IP ネットワークで PC とホストが接続されているか？
 - 4) TCP/IP の PING コマンドでホストから応答があるか？
- Q 4.** ETOSJX を起動すると、「別の O S で作成されています。」のエラーメッセージが表示されるがなぜか？
- A 4.** ETOSJX の SG ファイルにはプリンタ固有情報が格納されているため、異なるバージョンの OS で作成した SG ファイル(拡張子 PG/PGD/ETS/WS)は使用できない仕組みになっています。
ETOSJX-PG および DCS プリンタで新規作成するか、PG コンバータを利用して該当 OS の SG ファイルを作成してください。
なお、SG ファイルの設定で使用するすべてのプリンタの定義を「通常使うプリンタ」に設定すれば、異なる OS で作成した SG ファイルも利用可能です。
- Q 5.** ETOSJX の SG ファイル(拡張子 PG/PGD/ETS/WS)をファイルサーバの共有フォルダに置き、複数のクライアントから同一 SG ファイルを使用して ETOSJX を使用できるか？
- A 5.** 以下の条件を満たせば利用可能です。
- 1)ハードコピー、COMI-2 パスプリンタ出力、UA パスプリンタ出力で使用するプリンタが「通常使うプリンタ」であること。
 - 2)ファイルサーバの共有フォルダ(ネットワークドライブ)を、全てのクライアント PC で同じドライブ(例.Z:)に割り当てること。

- Q 6.** 旧製品で作成した SG ファイル(拡張子 PG/PGD/ETS)を使用できるか？
- A 6.** ETOSJX Ver3.0 以前の製品で作成した SG ファイルはそのままでは使用できません。
本製品が提供する PG コンバータを使用して SG ファイルをコンバート後、利用してください。
詳細は、「[第 8 章 パラメータファイルを変換する](#)」を参照してください。
ETOSJX Ver4.0 以降の製品で作成した SG ファイルは、そのまま利用可能です。ただし、異なるバージョンの OS で作成されている場合は、ETOSJX-PG および DCS プリンタで新規作成するか、PG コンバータを使用してコンバートしてください。
- Q 7.** 管理者権限で ETOSJX をインストールし正常動作できていた環境で、ユーザ権限でログインしたところ ETOSJX が起動できなくなってしまうがなぜか？
- A 7.** OS でファイルやディレクトリに与えているアクセス権限が、管理者権限とユーザ権限で異なるため起動できない (例えば、SG ファイルが読めない)ことが考えられます。OS のアクセス権限の設定を確認してください。
- Q 8.** 1 ホストから 2 LU を使用して 1 プリンタに印刷するにはどのような定義を行えば良いか？
- A 8.** ネットワークマネージャの「LU 情報定義」でプリンタ LU を 2 つ定義し、DCS プリンタの定義で各 LU の出力先プリンタを同一プリンタに設定してください。
- Q 9.** コード変換テーブルをコピーして別 PC で使用することはできるか？
- A 9.** コード変換テーブルをコピーして別 PC で使用することは可能です。
ただし、コード変換テーブルには、使用するフォント名が格納されていますので、別 PC に該当フォントがインストールされていることを確認してください。
- Q 10.** クライアントに外字移行後、外字が更新された場合、一台の PC 上の外字フォントファイルを更新し、他の PC には更新外字フォントのファイルを上書きするだけで他の PC に展開できるか？
- A 10.** フォントファイルを配布することで可能ですが、外字エディタや WORDPAD 等で更新状態を確認してください。
- Q 11.** PrintBridge を経由して印刷を行った場合、従来の印刷結果と全く同じ印刷イメージで出力することが可能か？
- A 11.** 一部サポートしていない制御コードや出カイメージが変わる制御コードが存在するため、印刷結果が変わってしまうことがあります。
詳しくは、PrintBridge のマニュアルを参照する、もしくは、製品窓口にお問い合わせ願います。

付録

- 付録 A 注意事項
- 付録 B 障害発生時のお願い
- 付録 C コード変換テーブル
- 付録 D N5200 系コード対応プリンタ

付録 A 注意事項

A 1 インストール／アンインストールにおける注意事項

- (1) ETOSJX の登録/削除は、必ずインストールツール(SETUP.EXE、ETOSCLSETUP.EXE)を使用してください。手操作で ETOSJX の登録/削除を行うと、ETOSJX の設定が不正となり正常に動作しません。
- (2) UA パスプリンタ出力で N5200 系印刷（障害通知有り）を行う場合は、ETOSJX をインストールする前に使用するプリンタドライバを OS に登録しておいてください。
- (3) ETOSJX の登録/削除を行う際には、できるだけシステムで動作中のアプリケーション(ネットワークマネージャ、ウイルスチェックプログラム等の常駐削アプリケーションも含む)をすべて終了して行ってください。
- (4) ETOSJX の登録先に、ネットワークドライブを使用することはできません。必ずローカルドライブを使用して行ってください。
なお、ETOSJX の登録/除元に、ネットワークドライブを使用することは可能です。
- (5) ETOSJX の登録/削除を行った場合は ETOSJX が置き換えたモジュールを有効とするため、OS の再起動を行ってください。
- (6) ETOSJX は、ネットワークマネージャ上で動作します。ETOSJX を起動する前に予め登録と設定を行ってください。
- (7) ETOSJX をインストールすると、Windows ディレクトリに ETOSJX.INI、ETOSIPEC.INI、IPCCOM32.INI ファイルを作成しますが、本ファイルを書き換えしないでください。書き換えを行うと、ETOSJX が正常に動作しなくなります。
- (8) ETOSJX を削除する前に ETOSJX 関連モジュールが動作していないことを確認してください。
ETOSJX 関連モジュールが動作している状態で削除を行うとインストーラの動作が遅くなる場合があります。
- (9) DHCP 環境など、クライアントの IP アドレスが固定できない場合は、ライセンス管理方式にはコンピュータ名管理方式を選択してください。

A 2 ETOSJX の起動に関する注意事項

FUS(Fast User Switching)機能を利用する場合、複数ユーザのセッションで ETOSJX を起動して使用することはできません。

A3 ETOSJX-PG/DCS プリンタの設定に関する注意事項

- (1) ETOSJX Ver4.0 以降の製品で作成したパラメータファイルは、本製品でも使用可能です。ただし、異なる OS で作成したパラメータファイルは、PG コンバータにてパラメータファイルの変換を行うことにより使用可能となります。
- (2) ETOSJX Ver3.0 以前で作成した PG ファイルは、PG コンバータにてパラメータファイルの変換を行うことによって、本製品での利用が可能です。
- (3) システムのプリンタ情報を変更した場合(ETOSJX で使用するプリンタドライバの削除、プリンタ名やフォーム格納ディレクトリの変更など)は、パラメータファイルの関連する項目を設定し直してください。
- (4) PG ファイル(*.PG)やリソースファイル(*.ETS)、PGD ファイル(*.PGD)は、ETOS データフォルダに保存してください。
- (5) スタートアップに ETOSJX や DCS プリンタを登録しないでください。
- (6) ブザー鳴動指定で「BEEP」の鳴動タイプを使用する場合、機種によってはブザー音が鳴らない場合があります。
- (7) COMI-2 パス拡張ファイル転送のファイル情報定義のファイル名は、64 文字以内で指定してください。なお、ファイル名にスペースを入れないでください。
- (8) スペースコード(20H)が入ったファイル名を、COMI-2 パス機能で使用することはできません。
- (9) AP キー、変換キー(または XFER キー)に送信機能を割り当てることが可能ですが、日本語入力モード中は無効となります。また、使用する日本語入力システムによっては、AP キー、変換キー以外も無効になる場合があります。
- (10) クライアントの ETOS データフォルダに作成されるサブフォルダ(SERVERxx)のフォルダ名は変更しないでください。

A4 プリンタ出力に関する注意事項

- (1) 外字を印刷するには、OS(Windows)に「MS ゴシック」または「MS 明朝」のフォントがインストールされている必要があります。
これらのフォントが登録されていることをコントロールパネルで確認してください。また、これらのフォントに外字を関連付けるか、標準の外字として登録する必要があります。詳細は、外字エディタ(OS 添付)を参照してください。
- (2) ETOSJX 画面のハードコピーを行う時、垂直タブ(VT)は、プリンタの設定に係わらず常に 6 行固定となります。
- (3) COMI-2 パスによるプリンタ出力において、プリンタデータをチャネル指定によってファイルへ出力した場合、このファイルを PC のプリンタへ出力することはできません(オフラインプリンタ出力(ETOS52CP)未サポートのため)。
- (4) COMI-2(KB/PR)モードのプリンタ同時出力指定でプリンタ出力を行う場合、画面表示とプリンタへの印刷は同時に行われません。プリンタへの印刷は、ETOSJX-PG の COMI-2 パス拡張機能のプリンタタイム監視時間が経過した後に行われます。
- (5) N5200 系コードでプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
 - ・N5200 系コード対応プリンタについては、「[付録 D N5200 系コード対応プリンタ](#)」を参照してください。
 - ・シリアルプリンタで印刷する場合、ETOSJX-PG、DCS プリンタおよびプリンタのプロパティで設定する印刷の向き(縦/横)は反映されません。常に縦方向で印刷されます。
 - ・本体のプリンタインタフェースにプリンタ切替器やプリンタバッファ等を接続すると、障害通知機能に制限を受ける場合があります。
 - ・「障害通知する」の場合、PC 本体の平行ポートからプリンタに接続する必要があります。ネットワークプリンタや USB 接続プリンタで印刷する場合、ETOSJX-PG および DCS プリンタのプリンタ制御コード指定で障害通知の有無を「通知しない」に設定してください。
 - ・「障害通知する」を選択した場合、電源断やプリンタケーブル抜けが、用紙切れや DESEL として通知される場合があります。この場合、電源を入れ直したり、ケーブルを接続し直しても正常に印字できない(印字ズレが発生する)ため、印刷の操作を最初からやり直す必要があります。
 - ・「障害通知する」を選択した場合、プリンタケーブル抜け発生時に、印字データ抜けとなる場合があります。
 - ・障害通知の有無にかかわらず、プリンタ装置のリセットは検出できません。
 - ・「障害通知する」の場合、印刷が終了するまでの間、プリンタを占有します。このため、複数の ETOSJX(マルチホストやマルチ LU)から同時に印刷したり、UA パスと COMI-2 パスの印刷を同時に行くと、ホストへプリンタ障害を通知します。
 - ・シリアルプリンタで N5200 系コードの印刷を行う場合、ETOSJX-PG および DCS プリンタの N5200 系コード詳細設定で印字位置を左端に設定してください(初期値は左端になっています)。
中央を設定する場合、ホスト側プリンタデータの修正が必要となります。

- (6) 従来変換でプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
- ・ETOSJX-PG、DCS プリンタおよびプリンタのプロパティで設定する印刷の向き(縦/横)は反映されません。プリンタ本体の設定で印刷されます。
 - ・従来変換を使用したフォーム印刷を行う場合、使用する OS に対応したフォーム印刷対応プリンタドライバ『PC-FORMEX』/『帳楽』(別売)が必要です。
 - ・フォーム印刷を行う場合、フォーム名に長いファイル名は使用できません。「8文字以内+ピリオド(.)+3文字以内」でファイル名を設定してください。
 - ・フォーム印刷に使用するプリンタを変更した場合、プリンタに合わせてフォームオブジェクトを作成し直すことが必要な場合があります。詳細は PC-FORMEX/帳楽の説明書を参照して下さい。
- (7) イメージ変換でプリンタ出力を行う場合、以下の点に注意してください。
- ・イメージ変換を使用して印刷を行う場合、ETOSJX 内部で PC-PR201 プリンタをエミュレートし、印刷イメージデータを出力します。このため、ホストからプリンタを直接制御するコード(ホッパ切り替え、プリンタ内蔵文字の印字、フォントカートリッジの指定等)は使用できません。
 - ・8ビットコードの CG グラフィック文字および、7ビットコードは使用できません。
 - ・印字処理中に用紙サイズを変更するコードを受け付けた場合、一旦スプールファイルをクローズし、印刷を行います。
- (8) 印刷開始または終了時にホストから受信したデータに追加してデータファイル(追加コード)を出力することができます。詳細は、「[第4章 PG パラメータ設定](#)」、「[第5章 UA パスプリンタ設定](#)」と、操作ガイド「[端末システムの使用形態を変更する](#)」、「[UA パスでプリンタ出力する](#)」を参照してください。
- なお、クライアントでプリンタ出力を行う場合は、あらかじめクライアントにデータファイル(追加コード)を用意しておく必要があります(サーバ上のファイルはダウンロードされません)。
- (9) ETOSJX は文字コードを JIS78 で扱いますが、プリンタの機種によっては文字コードを JIS90 として扱う機種があるため、印刷結果の一部が異なった字体となる場合があります(JIS78 と JIS90 では一部の字体が異なるためです)。この場合、ETOSJX インストールディレクトリ配下の SAMPLES¥PRINTER ディレクトリに格納されている「JIS78.TXT」を ETOSJX-PG および DCS プリンタのプリンタ制御コード指定の追加コードに設定するか、プリンタ本体の文字コードの設定を JIS78 コードに設定することによって、正しい字体での印刷が可能です(イメージ変換印刷を除く)。

A5 オフライン印刷に関する注意事項

- (1) オフライン印刷データファイルのデータ量によって、プレビュー表示・印刷・変換・リナンバーに時間がかかる場合があります。
- (2) 指定したディレクトリに存在するオフライン印刷データファイル数によって、一覧表示に時間がかかる場合があります。
- (3) 異なる環境で出力したオフライン印刷データファイルはプリンタ情報が異なるため、必ずプリンタを設定し直してから印刷してください。再設定を行わない場合の印刷結果は保証できません。
- (4) 印刷開始または終了時に追加してデータファイル(追加コード)を出力する指定をして作成したオフライン印刷データファイルを使用する場合、データファイル(追加コード)はファイル作成時と同一ディレクトリに存在する必要があります。

A6 グラフ表示に関する注意事項

ETOSJX は、Windows の GDI の機能を使用して TGL を実現しているため、以下の点に注意してください。

- (1) 直線、円、円弧の線パターンについて(LINE 文)
 - ・線パターンの反転はできません(反転を指定しても無視されます)。
 - ・表示できる線種に制限があります(描画モードが高速モードの場合)。
- (2) 画面のクリア(GCLR 文、ERASE 文)
 - ・線パターンの反転はできません(反転を指定しても無視されます)。

- (3) 塗りつぶしパターン(PAT 文)
 ・塗りつぶしパターンの拡大はできません。常に MAG=0 として処理します。
- (4) ディスプレイの初期化と解放(DEVICE 文)
 ・ACT=0, ACT=2 はサポートしていません。指定しても処理しません。
- (5) グラフテキストおよびラベルの大きさと傾き度合い(CSIZE 文)
 ・斜字はサポートしていません。
 SLANT=1 を指定しても SLANT=0 として処理されます。
- (6) 文字(グラフテキスト)列展開の描画方向(LDIR 文)
 ・グラフテキストの描画方向は 90°単位です。
 ANG=1, 3, 5, 7 はそれぞれ ANG=0, 2, 4, 6 として処理されます。
 ・イタリックを指定した場合、フォントによっては描画方向(ANG=2, 4, 6)を指定しても 0°として描画されることがあります。
- (7) 連続ベクトル描画による多角形、折れ線表示値(CDRAW 文)
 ・グラフテキスト描画時の基準点、レターフェイス左下点はサポートしていません。
 MD=0 は MD=1 として処理されます。
- (8) 連続ベクトル描画による多角形、折れ線表示値(CDRAW 文)
 ・動作モード"F"、"A"では DMODE 文の影響を受けません。
- (9) グラフカーソルの移動(POINT 文)
 ・移動後のマウスカーソル非表示はサポートしていません。
 常に MOD=0(表示する)として処理します。
- (10) 円、円弧、扇形の描画(CIRCLE 文)
 ・内部を塗り潰す指定をしたときの輪郭は、DMODE 文の影響を受けません。
- (11) 矩形の描画(RECT 文)
 ・内部を塗り潰す指定をしたときの輪郭は、DMODE の影響を受けません。
- (12) 色の重ね合わせ方の指定(DMODE 文)
 ・描画動作モード「1 (Complement)」は無効となり、「0 (Replace)」として扱われます。
- (13) グラフ表示領域について
 グラフ面定義テキスト中に定義されているグラフ表示領域が、DIM 領域より大きいと DIM 領域がグラフ表示領域となります。
- (14) グラフ表示色／背景色について
 ETOSJX のグラフ表示画面の表示色は、ETOSJX-PG のグラフ表示色指定で指定したグラフ表示色や背景色と異なる場合があります。
 グラフ表示色と背景色は、DMODE 文の指定により次のように表示されます。

モード	グラフ表示色	グラフ背景色
DMODE 0、0 (REPLACE、不透明)	SRC	黒色
DMODE 2、0 (RESET、不透明)	黒色	SRC AND DEST
DMODE 3、0 (SET、不透明)	SRC	SRC AND DEST
DMODE 0、1 (REPLACE、透明)	SRC OF DEST	NOT(SRC) AND DEST
DMODE 2、1 (RESET、透明)	NOT(SRC) AND DEST	DEST
DMODE 3、1 (SET、透明)	SRC OR DEST	DEST

SRC : ETOSJX-PG で指定したグラフの表示色
 DEST : ETOSJX-PG で指定したグラフの背景色

(15) 表示フォントについて

- ・ETOSJX の表示フォントに、Terminal、FixedSys、Small Fonts を指定すると、グラフ表示の一部が乱れる場合があります。明朝(M S 明朝、F A 明朝)またはゴシック(M S ゴシック、F A ゴシック)を指定してください。
- ・ETOSJX が使用するフォントに、太字(Bold)を指定するとグラフ表示の一部が乱れることがあります。標準(Regular)を指定して下さい。

(16) ウィンドウサイズによる影響

- ・ウィンドウサイズにより、90 度、270 度の描画角度文字の表示位置がずれることがあります。
- ・ウィンドウサイズを大きくした場合、グラフの目盛が大きくなる場合があります。

(17) 再描画用ファイルについて

TGL では、再描画用にファイルを作成するため、メモリとディスクの空き容量がそれぞれ 100K バイト以上必要になります。

(18) グラフのプリンタ出力について

グラフをプリンタに出力すると、色の塗りつぶしの処理がプリンタドライバにより異なるため、画面通りの印刷結果が得られない場合があります。

(19) クリップボード転送について

- ・データ連携時、フォントの大きさの情報はメタファイルに格納できないため、グラフ内の文字の拡大／縮小はできません。
- ・グラフ領域外に描画した図形や文字は、ETOSJX の画面には表示されませんが、メタファイルには格納されるため、データ連携時には、貼り付け先に描画されます。
- ・90 度、270 度の描画角度文字の文字幅が、画面のイメージと異なる場合があります。

(20) その他

- ・ ETOSJX の通常の文字表示と TGL のグラフは同一のウィンドウにグラフィックとして描画されるため、後から描いたものが優先されて表示が行われます。
ウィンドウの再描画時には、グラフはグラフで、文字は文字でまとめて描画されます(グラフを描いた後で文字を描画します)。
再描画時の表示の順番がもとの表示の順番と異なる場合、重なり方が変わります。
- ・ 1 つの TGL 文のパラメータ総バイト数が 257 バイト以上のものを受信した場合、その TGL 文を含むグラフ表示テキストは無効となります。
- ・ グラフ描画の通信テキストに誤りがあった場合、エラーメッセージを表示します。
- ・ 「一部の T G L コマンドが実行されませんでした。」というエラーを表示した場合、グラフの表示が不正となることがあります。

A7 文字の入力と画面表示に関する注意事項

- (1) Windows は JIS2004 で文字コードを扱いますが、ホスト側は JIS78 で扱います。この差分により、入力／送信した文字がホスト側で廃棄される場合があります。
- (2) グラフが表示されている位置に、文字を入力すると一時的にグラフテキストの一部が消えます。この場合、ETOSJX のウィンドウサイズを変更する等で、再表示を行えば、グラフと文字が正しく表示されます。
- (3) ETOSJX の入力モード(ローマ字／かな)を変更する場合は、制御領域の「R/カナ」表示をダブルクリックするか、IME モード切替キーを押して変更してください。
- (4) カナ入力モードを使用する場合、入力フィールドの状態とカナの入力状態が一致しなくなる場合があります。この場合は、日本語入力システムのツールバー上の [KANJI] をクリックして、入力状態を直接変更してください。
- (5) IME 制御の設定を無効にした場合、入力モード(ローマ字／かな)の変更操作(IME モード切替キーの押下等)で制御領域の「R/カナ」表示は変更されますが、実際の入力モードは変更されません。

- (6) ETOSJX は、画面の縦横サイズ比が適正になるように自動的に補正しています。そのためユーザ操作でウィンドウのサイズを変更しても指定のウィンドウサイズにならないことがあります。
- (7) ユーザ操作でウィンドウのサイズ等を変更しても、ウィンドウ表示状態に関する設定は、ETOSJX 終了時にクリアされます。現在の表示状態を今後の既定値にしたい場合は、Ctrl+S キーを押して設定を保存してください。
- (8) ETOSJX のエラーメッセージ等を表示した時に、ETOSJX のウィンドウがアクティブ状態にならない場合があります。
- (9) マクロ(WIN_ACTIVATE,ON)を使用しても、ETOSJX のウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
- (10) M S ゴシック、M S 明朝フォントは ETOSJX で必要なため、システムから削除しないでください。
- (11) リバースアトリビュートの行が 2 行並んだ場合、行と行の間はリバースしません。
- (12) 同一カラムに縦罫線とリバースのアトリビュートを指定した場合、リバースは縦罫線カラム全体にかかります。
- (13) プロパティシートの右上に表示されるヘルプアイコン([?])は、選択できません。
- (14) Windows を終了させる際には、先に ETOSJX を終了させてください。ETOSJX を起動したまま Windows を終了させると、終了に時間がかかる場合があります。

A8 分散処理機能に関する注意事項

- (1) 分散アプリケーションは、32bit 分散 API・64bit 分散 API で作成可能です。なお、分散アプリケーションの作成には、以下のソフトウェア(コンパイラ)を使用してください。

C 言語	: Visual C++ 2012(Visual Studio 2012)以上	*1*2*3
COBOL 言語(32bit)	: Open COBOL Factory 21/COBOL85 Ver6.x および Open COBOL Factory 21/COBOL85 Pro Ver8.x	*1*2*3*4
COBOL 言語(64bit)	: COBOL Standard Edition Developer Ver1.0	*1*2*3*4

*1 ユーザプログラムは、指定されたバージョンで作成してください。

*2 指定以外のコンパイラで作成済みのユーザプログラムは、指定バージョンで再コンパイルすることを推奨します。

*3 指定以外のコンパイラで作成したユーザプログラムは、動作を保証できない場合があります。ユーザプログラムが正常に動作しない場合は、指定バージョンで再コンパイルしてください。

*4 システムサブルーチン(32bit:CSETOS.OBJ、64bit:CSETOS64.OBJ)は、本製品添付のものを使用してください。

- (2) 分散アプリケーション使用時、分散 AP が ET_ENA コマンドを発行する前に、操作員が ETOSJX を終了すると、ETOSJX は終了しますが分散アプリケーションは終了しません。
- (3) 分散アプリケーションのウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
- (4) ETOS 制御機能を利用するアプリケーションとの同時動作は保証していません。

A9 ETOS 制御機能に関する注意事項

- (1) ETOS 制御機能を使用するアプリケーションの作成には、以下のソフトウェアを使用してください。

C 言語	: Visual C++ 2012(Visual Studio 2012)以上	*1*2*3
------	---	--------

*1 ユーザプログラムは、指定されたバージョンで作成してください。

*2 指定以外のコンパイラで作成済みのユーザプログラムは、指定バージョンで再コンパイルすることを推奨します。

*3 指定以外のコンパイラで作成したユーザプログラムは、動作を保証できない場合があります。ユーザプログラムが正常に動作しない場合は、指定バージョンで再コンパイルしてください。

- (2) 同じプロセスから同じ ETOSJX に複数接続した場合、ホストとのセッション切断は接続している識別 ID 全てに対して行ってください。
- (3) コマンドの終了を待機関数で待ち続けないようにしてください。OS に処理を渡すようにプログラミングしてください。

- (4) ETS_WINDOWCTRL コマンドを使用しても、ETOSJX のウィンドウをアクティブ状態にできない場合があります。
- (5) 分散アプリケーションとの同時動作は保証していません。

A 10 ファイル転送に関する注意事項

- (1) パラメータ変更で COMI-2 パス拡張ファイル転送のファイル情報定義のファイル名を変更する時は、64 文字以内で指定してください。なお、ファイル名にスペースを入れないください。
- (2) 同一ファイルに対して同時にアクセスを行った場合(同一ファイルに対して書き込みと読み込みを同時に行う場合等)動作は保証されません。

A 11 ユーザ外字に関する注意事項

リファレンスマニュアル「付録 ユーザ外字領域」を参照してください。

A 12 ローカル画面に関する注意事項

- (1) ローカル画面ファイル機能関連のローカルユーティリティ(ETOS52FG)はサポートしていません。
- (2) 同一ローカル画面ファイルに対して同時にアクセスを行った場合(同一ファイルに対して書き込みと読み込みを同時に行う場合等)動作は保証されません。

A 13 オンライン FORMS に関する注意事項

- (1) 網掛けパターンの登録は出来ません。
- (2) イメージ変換、無変換ではオンライン FORMS 機能は使用できません。
- (3) フォームの開始/終了は単一データとしてホストより送信して下さい。制御シーケンス以外にデータが付加されていた場合、制御シーケンスは認識されません。

A 14 コード変換に関する注意事項

シフト JIS→JIS コードに変換する場合、2 バイト系コードの始まりおよび終りにそれぞれ KI コード(1A70₁₆)、KO コード(1A71₁₆)を付加しますが、付加される位置は固定ではありません。

2 バイト系のコード列があった場合、その先頭と最後に KI コードと KO コードが付加されますがコード列の途中にも KO コード、KI コードが付加される可能性があります。

例えば、漢字フィールドが連続している場合には、送信データは連続する漢字フィールド単位に KI,KO で区切られ送信されます。

付録 B 障害発生時のお願い

障害発生時には、次ページ以降の「障害報告書調査項目チェックシート」に記入し、販売店、当社担当営業、当社担当 SE までお渡し願います。

チェックシートがない場合、障害対応を迅速に行えない場合がありますので、御協力の程、お願いいたします。

販売店、担当営業、担当 SE は、チェックシートを添付の上、障害報告書を発行するよう願います。

受注番号	※				第1版	1 / 2
障害報告書調査項目チェックシート (Ver1.8)						
障害・調査件名			障害報告書発行番号		対応者	
※					※	
受付日	連絡先 所属	氏 名	電 話 番 号		F A X 番 号	
※	※	※	※		※	
障害内容 :						
※						
ソフトウェア :						
<input type="checkbox"/> ETOSJX Version [.]						
ETOSJX のシステム形態						
クライアント・サーバ形態使用時は以下の項目も記入してください。						
サーバマシン機種 []						
OS [Windows] Ver. [.]						
ネットワークマネージャの Ver. [.]						
使用手順 :						
<input type="checkbox"/> TCP/IP						
<input type="checkbox"/> その他 []						
使用マシンの設定 :						
マシン機種 []						
CPU []						
CPU クロック数 [MHz]						
メモリ [GB]						
ディスク容量 [GB]						
画面解像度 [×]						
OS [Windows]						
Ver. [.]						
Service Pack [] 適用済み						
環境設定ファイル : (資料として、以下のファイルをコピーして添付して下さい)						
<input type="checkbox"/> ETOSJX の SG ファイル (「*.PG」、「リソース名.PGD」、「リソース名.ETS」および「リソース名.ELU」)						
<input type="checkbox"/> レジストリ情報ファイル						
分散 AP : (ETOS の分散 I/F を使用する MML あるいはコンパイラ名)						
プログラム言語 :						
<input type="checkbox"/> C 言語 コンパイラ名 [] Ver [.]						
<input type="checkbox"/> COBOL 言語 コンパイラ名 [] Ver [.]						
<input type="checkbox"/> MML ソフト名 [] Ver [.]						
ホストマシンの設定 :						
マシン機種 []						
OS []						
Ver. [.]						

※の付いた項目は、記入しないでください。

障害メッセージ：（ETOSJX や Windows が表示するメッセージ）

-
- ETOSJX のエラーメッセージ

メッセージ番号 []

メッセージ内容 []

-
- Windows エラーメッセージ

メッセージ内容 []

ダンプ等：（以下の資料は必ず添付してください）

-
- ETOSJX のログ（注 1）

-
- ホスト側の回線トレース

-
- ネットワークマネージャのトレースダンプ（注 2）

-
- ダンプ採取不可

理由

[]

その他の資料：

-
- ETOSJX の画面コピー

-
- ETOSJX の印刷結果

-
- その他 []

備考：（その他、何かお気づきの点がありましたら記入してください）

(注 1)

1. ETOSJX のログ採取方法

ETOSJX ログファイルは、以下の①、または②の方法で採取します。①、②を実行すると、サーバとクライアントの ETOSJX インストールディレクトリ下の「¥LOG」ディレクトリにログファイルが作成されます。このディレクトリ配下のすべてのファイルと、以下の SG ファイルを zip 等で圧縮してコピーしてください。

サーバ側 : ETOS データフォルダ配下の PG ファイル(*.PG)、ETS ファイル(*.ETS)、PGD ファイル(*.PGD)
 クライアント側 : ETOS データフォルダ下の「SERVERxx」配下のすべてのファイル

① 障害発生のタイミングが限定できない場合

ETOSJX GW サービスの詳細ログを採取するために、ETOSJX でスナップショットダンプを採取した後に ETOSJX を終了する(メニューの「閉じる」を選ぶ)。

② 障害発生のタイミングが限定される場合(画面が乱れる等)

Ctrl + @を押下、またはツールバーのログ採取ボタンをクリックしてスナップショットダンプを採取する。

(注意) スナップショットダンプを採取した場合は、ETOSJX を終了する前に、下記のログファイルをコピーしてください(ETOSJX を終了すると、スナップショットダンプで採取したログファイルが上書きされてしまいます)。

※①、または②の方法でログファイルを採取する前に、ディスクの空き容量が十分あることを確認してください(2MB 以上)。ディスク容量が不足しているとログファイルが出力できません。

2. 採取されるログファイル

ETOSJX インストールディレクトリ下の¥LOG ディレクトリに、以下の規則によりログファイルは作成されます。

① ETOSJX ログファイル

ファイル名：通信リソース名.拡張子

拡張子	内 容
L0x	ログトレース
F0x	関数トレース
D0x	送受信データ
K0x	キー入力データ
T0x	ETOSJX テーブル
I0x	ICP ログ
S0x	スナップショットダンプ
M0x	ウィンドウメッセージトレース
DCS	DCS のログ
DCM	DCS のウィンドウメッセージトレース
PRL	DCS プリンタのログ
PRM	DCS プリンタのウィンドウメッセージトレース

※x は何個目の ETOSJX かを示す。

②プリンタ出力(ハードコピーを除く)のログファイル

ファイル名	プリンタ制御コードの設定
WN201A0x.LOG	201 系コード/従来変換
WNGDIA0x.LOG	201 系コード/イメージ変換
WNTHRA0x.LOG	201 系コード/無変換
WNINFA0x.LOG	情処系コード

③分散 AP 使用時のログファイル(ETOSJX 起動ディレクトリ下の¥LOG ディレクトリ)

ファイル名	内容
ETSMMLxx.LOG	ログトレース
ETSMMLxx.TBL	分散 API テーブル
ETSMMLxx.ICP	ICP ログ

④ETOS 制御機能使用時のログファイル

ファイル名	内容
WNDATxxx.GAD	ETOS 制御機能のログ、関数、テーブルトレース
WNETCxxx.GAD	
WNFNCxxx.GAD	
WNAPITBL.GAD	

⑤ETOSJX ヒストリファイル

ファイル名	内容
ETOSHIST.LOG	ETOSJX の動作履歴トレース

⑥ETOSJX GW サービスのログファイル

ファイル名	内容
GWSRVM.LOG	ログトレース
GWSRVE.LOG	エラーログ
GWSRVxx.LOG	通信ログ

⑦ETOSJX GW クライアントのログファイル

ファイル名	内容
通信リソース名 xxx.LOG	通信ログ

(注 2)

ネットワークマネージャのマニュアルを参照願います。

付録 C コード変換テーブル

ここでは、コード変換テーブルの使用方法について説明します。

C1 コード変換テーブルとは

コード変換テーブルは、ホスト側から送られる日本語コード(JIPS)を端末側の日本語コード(シフト JIS)に変換する規則と、端末側の日本語コード(シフト JIS)をホスト側へ送る日本語コード(JIPS)に変換する規則を定義したファイルです。コード変換テーブルを作成するためには、コード変換テーブル作成ツール(ETOSJX ユーティリティ)を使用します。

C2 文字コードについて

JIPS とは、JIS78 と呼ばれる JIS コードに漢字 IN(1A7016)、漢字 OUT(1A7116)を加えた文字コードを表します。コード変換テーブルを定義する上では、JIPS と JIS(JIS78)は同じ意味を表します。

端末側の文字コードであるシフト JIS は、従来の OS である MS-DOS(PC-9800 シリーズ) や Windows 3.1(PC-9800 シリーズ)では JIS78 を元にした文字コードでしたが、本製品で使用する OS では通常、JIS90(厳密には JIS2004)を元にした文字コードを示します(ただし JIS78 のフォントも選択可能)。

ホスト側の文字コードが JIS78 であるのに対して、端末側(Windows)の標準は JIS90 となることから、JIS78 と JIS90 の差分を定義したコード変換テーブルを使用する必要があります。ただし、コード変換テーブルを使用する場合でも、JIS90 で字形変更された一部の漢字については、JIS90 の字形のままとなります。

コード変換テーブルを作成する場合、JIS78 フォントまたは JIS90 フォントを使用することが可能ですが、上記の特徴を考慮した上でどちらのフォントを使用するかを選択してください。

① JIS78 フォントを使用する利点

- ・JIS78 と JIS90 の差分を定義する必要がない。
- ・従来ホストで使用していた JIS78 特有の字体が利用できる。

② JIS90 フォントを使用する利点

- ・JIS78 フォントを持つソフトウェアを導入する必要がない。
- ・Windows 標準の字体が利用できる。

C3 コード変換テーブルの使用目的

(1) JIS90 環境でホストと通信が可能

ホストでは JIS78 のフォントを使用しているため、原則として端末もホストに合わせて JIS78 のフォント(F A フォント)を使用する必要があります。しかし、コード変換テーブルを使用する(テーブルの新規作成時に JIS90 を選択することにより、JIS78 と JIS90 で置き換えのあった文字が対応付けられ、JIS90 のフォント(M S フォント等)での運用が可能となります。

なお、コード変換テーブル新規作成時の既定値では、JIS78 と JIS90 の字体の差分については置換されません。JIS78 と完全に一致させるには、JIS78 の字体を個別にユーザ外字として作成した上で、コード変換テーブルによる変換規則を定義する必要があります。

(2) 3,760 文字の外字を利用可能

コード変換テーブルを使用することにより、端末側では二種類のフォント(標準フォント、拡張フォント)が使用可能となります。フォント毎に外字を用意すれば、 $1,880 \times 2 = 3,760$ 文字の外字が利用可能となります。

(3) ホストとのデータ交換を詳細に制御可能

コード変換テーブルにより、ホスト \leftrightarrow 端末間の文字の変換を 1 文字単位で定義可能です。これにより、特定の文字(例えば G1 文字全て)を全て同じ文字(例えば全角スペース)に置き換えることが可能となります。

C4 コード変換テーブルの有効範囲について

(1) コード変換テーブルの定義が有効となる機能

下記に示す ETOSJX の機能では、コード変換テーブルを利用可能です。

- ・ 画面表示(テキスト、グラフ文字)
- ・ 画面送信(テキスト)
- ・ プリンタ出力(N5200 系印刷で移行外字選択時、無変換印刷選択時を除く)
- ・ オフライン印刷プレビュー
- ・ COMI-2 パスファイル転送

(2) コード変換テーブルの定義が無効となる機能

下記に示す ETOSJX の機能は、ホストと送受信する場合の文字コード体系が規定されていないため、コード変換テーブルを利用できません(コード変換テーブルが設定されている場合でも無視されます)。

- ・ プリンタ出力(N5200 系印刷で移行外字選択時、無変換印刷選択時)
- ・ COMI-2 パスバイナリファイル転送
- ・ UA パスファイル転送
- ・ 分散処理

C5 コード変換テーブルを使用する流れ

コード変換テーブルは、次の手順で使用します。

(1) コード変換規則を定義する準備

コード変換規則を定義する前に、以下の準備が必要です。

- ・ 変換規則の定義が必要な文字コードを抽出します。
- ・ 端末側で使用する JIS コード(JIS78 または JIS90)を決めます。
- ・ 使用する標準フォントを決めます。
- ・ 表示する字体が標準フォントに含まれているか確認し、必要に応じて字体を外字に定義します。
- ・ 2種類のフォントを使用する場合や、必要な外字数が 1,880 文字を越える場合、使用する拡張フォントを決めます。

(2) コード変換テーブルの作成

上記で準備したコード変換規則の定義やフォントの定義を行います。コード変換テーブルの作成方法については、**操作ガイド「コード変換テーブルを作成する」**を参照してください。

(3) コード変換テーブルの登録

① 画面送受信および COMI-2 パス処理

ETOSJX-PG でコード変換テーブル(ファイル)を指定します。コード変換テーブルの指定方法については、[「4.7.4 コード変換テーブルを設定する」](#)を参照してください。

<COMI-2 パスファイル転送におけるフォントについて>

COMI-2 パスファイル転送で扱うファイル(シフト JIS のテキストファイル)はフォント属性を持たないため、標準フォントと拡張フォントを区別できません。従って、受信したファイルを、そのまま送信しても、同じデータとはならない場合があります(非可逆性)。

付録 D N5200 系コード対応プリンタ

N5200 系コードの印刷を行う場合、以下に掲載する PC-PTOS 対応プリンタが必要です。

最新の情報は、ETOSJX シリーズの製品 Web をご確認ください。

なお、9 ポイント文字の印刷は、掲載されているページプリンタでのみ印刷が可能です(シリアルプリンタでは印刷できません)。

※ 9 ポイント文字の印刷については、「[9.3 9 ポイント文字の印刷設定](#)」を参照してください。

<注意事項>

- (1) N 型番のプリンタ(N11xx と N78xx)は、Express5800 シリーズに接続されている場合に、ネットワークプリンタとして利用可能です。PC には接続できません。
- (2) PR-L4050、PR-L6050A、N1153-L4050、N1153-L6050A をご使用になる場合、1999 年 7 月 1 日以降に出荷された装置である必要があります。
出荷時期が不明な場合は、プリンタファームウェアのレビジョンをご確認ください。

【サポート対象プリンタのファームウェア(FW)レビジョン】

プリンタ FW は、以下のレビジョン以降のものが該当します。

PR-L4050、N1153-L4050 : レビジョン 12.41 以降

PR-L6050A、N1153-L6050A : レビジョン 10.35 以降

※プリンタ FW は、小数点以下 2 桁が版数を表します。

- (3) PR-D700EX は ETOSJX のサポートプリンタではありません。